

**「(仮称)郡山市人口ビジョン・郡山市総合戦略」
策定のためのアンケート調査
集計結果報告書**

平成 27 年 9 月

郡山市政策開発部政策開発課

目次

実施概要	1
A. 就学・結婚・子育て年代に対するアンケート調査	1
1. 調査の概要	1
2. 家庭・結婚に対する考え方	1
3. 独身者の結婚観	7
4. 出産・子育てに対する考え方	18
5. 学業・しごとについて	36
6. 回答者の属性	44
B. 転入者アンケート調査	48
1. 調査の概要	48
2. 回答者の属性	48
3. 前住地について	50
4. 転入の状況、転入理由について	51
5. 居住環境への評価、居住継続意向について	59
C. 転出者アンケート調査	70
1. 調査の概要	70
2. 回答者の属性	70
3. 郡山市からの転出の状況	72
4. 郡山市に対する満足度・現住地における居住継続意向	83
アンケート調査結果からみえてきた「まち・ひと・しごと創生」の課題	91
1. 結婚に関する意識からみた課題	91
【結婚したい独身者が結婚できる環境づくりに向けて】	91
【子どもが育てやすい理想の家族のあり方について】	91
2. 出産・子育てに関する意識からみた課題	91
【子どもを持ちたい人が理想の子ども数を実現できる環境づくりに向けて】	91
3. しごと・働き方に関する意識からみた課題	92
【郡山市で住み続けるための必須条件としての職場の確保】	92
4. 人口の流出抑制、転入者増加に向けた課題	92
【ライフステージごとに居住継続が選択肢となるような取組みが課題】	92
【転入者増加に向けた新たな取組みが課題】	92

実施概要

実施方法 郵送による配布・回収
実施期間 7月24日～8月10日
(投函期限から1週間後の回収分までを集計の対象とした)

回収状況

調査種別	配布数	回収数	回収率
A. 就学・結婚・子育て年代に対するアンケート調査	1,500	411	27.4%
B. 転入者アンケート調査	200	45	22.5%
C. 転出者アンケート調査	300	73	24.3%

A. 就学・結婚・子育て年代に対するアンケート調査

1. 調査の概要

郡山市にお住まいの16歳～49歳(7月1日の抽出時点における満年齢)の市民から無作為に抽出した1,500名を対象に、就学・就業・結婚・子育ての各ライフステージに関する市民の意識を調査するためにアンケート調査を行いました。主な調査内容は「家庭・結婚に対する考え方」「独身者の結婚観」「出産・子育てに対する考え方」「学業・しごとについて」の4項目です。

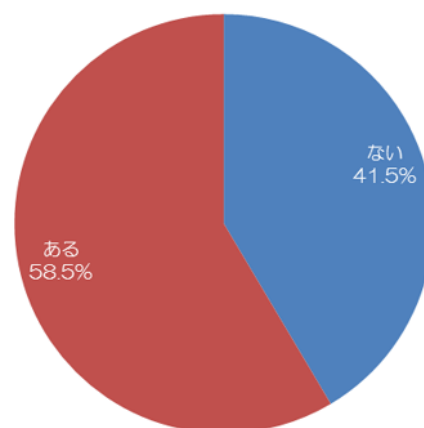
1,500票の配布に対して、411票の回答が寄せられ、回収率は27.4%となりました。

2. 家庭・結婚に対する考え方

Q1. 結婚したことがありますか (N=410)

回答者の6割が結婚経験者、未婚者は4割でした。

項目	件数	%
全体	410	100.0
1 ない	170	41.5
2 ある	240	58.5



Q2. 結婚についてどう考えていますか (N=385)

結婚に対しては「自分の子どもや家庭が持てる」と考える人が最も多く、「精神的な安らぎの場が得られる」が続いています。「生活上便利になる」「経済的に余裕が持てる」などの実利的な側面よりも安心できる家庭が持てることに価値を見出す人が多いようです。

項目	件数	%	
1 精神的な安らぎの場が得られる	182	47.3	
2 現在愛情を感じている人と暮らせる	136	35.3	
3 自分の子どもや家庭が持てる	279	72.5	
4 生活上便利になる	18	4.7	
5 経済的に余裕が持てる	32	8.3	
6 社会的信用を得られ周囲と対等になれる	57	14.8	
7 親から独立できる	34	8.8	
8 親を安心させ周囲の期待にこたえられる	109	28.3	
9 個人の自由であり、結婚しなくともよい	99	25.7	
10 その他	12	3.1	

(現在の婚姻状況別)

現在の婚姻状況別に集計したところ、配偶者あり(既婚者)の人は配偶者なし(独身者)の人と比べて、「現在愛情を感じている人と暮らせる」と回答した人の割合が高く、「親を安心させ周囲の期待にこたえられる」の割合が低くなっています。独身者は親を安心させられることに結婚の意義を見出していることが分かります。

	全体		配偶者なし		配偶者あり	
	件数	%	件数	%	件数	%
合計	384	100.0	162	100.0	222	100.0
1 精神的な安らぎの場が得られる	181	47.1	67	41.4	114	51.4
2 現在愛情を感じている人と暮らせる	136	35.4	39	24.1	97	43.7
3 自分の子どもや家庭が持てる	278	72.4	99	61.1	179	80.6
4 生活上便利になる	18	4.7	7	4.3	11	5.0
5 経済的に余裕が持てる	32	8.3	15	9.3	17	7.7
6 社会的信用を得られ周囲と対等になれる	57	14.8	25	15.4	32	14.4
7 親から独立できる	34	8.9	20	12.3	14	6.3
8 親を安心させ周囲の期待にこたえられる	108	28.1	56	34.6	52	23.4
9 個人の自由であり、結婚しなくともよい	99	25.8	58	35.8	41	18.5
10 その他	12	3.1	8	4.9	4	1.8

(男女別)

男女別に集計したところ、男性は女性よりも「精神的な安らぎの場が得られる」「現在愛情を感じている人と暮らせる」と考える比率が高く、「親から独立できる」「親を安心させ周囲の期待に応えられる」と考える比率は男性よりも女性で高くなっています。

	全体		男		女	
	件数	%	件数	%	件数	%
合計	384	100.0	142	100.0	242	100.0
1 精神的な安らぎの場が得られる	182	47.4	79	55.6	103	42.6
2 現在愛情を感じている人と暮らせる	135	35.2	65	45.8	70	28.9
3 自分の子どもや家庭が持てる	279	72.7	102	71.8	177	73.1
4 生活上便利になる	18	4.7	9	6.3	9	3.7
5 経済的に余裕が持てる	32	8.3	8	5.6	24	9.9
6 社会的信用を得られ周囲と対等になれる	57	14.8	26	18.3	31	12.8
7 親から独立できる	34	8.9	5	3.5	29	12.0
8 親を安心させ周囲の期待にこたえられる	109	28.4	31	21.8	78	32.2
9 個人の自由であり、結婚しなくともよい	99	25.8	31	21.8	68	28.1
10 その他	12	3.1	5	3.5	7	2.9

(年齢別)

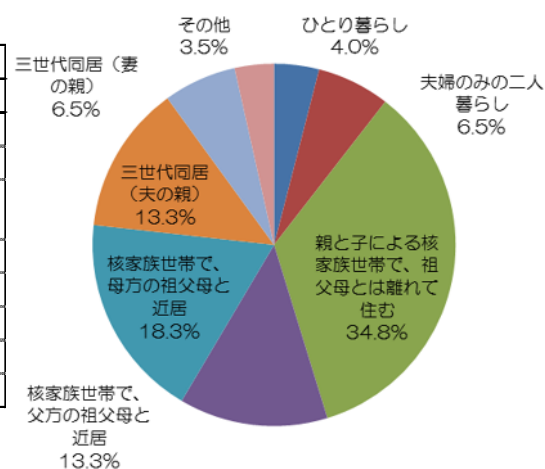
年齢別に集計したところ、20代で「親を安心させ周囲の期待にこたえられる」と考える人の割合が高くなっています。

	全体		10代		20代		30代		40代	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
合計	383	100.0	56	100.0	75	100.0	118	100.0	134	100.0
1 精神的な安らぎの場が得られる	182	47.5	25	44.6	35	46.7	51	43.2	71	53.0
2 現在愛情を感じている人と暮らせる	135	35.2	13	23.2	26	34.7	43	36.4	53	39.6
3 自分の子どもや家庭が持てる	277	72.3	36	64.3	55	73.3	87	73.7	99	73.9
4 生活上便利になる	18	4.7	2	3.6	1	1.3	9	7.6	6	4.5
5 経済的に余裕が持てる	32	8.4	6	10.7	3	4.0	9	7.6	14	10.4
6 社会的信用を得られ周囲と対等になれる	57	14.9	6	10.7	9	12.0	14	11.9	28	20.9
7 親から独立できる	34	8.9	7	12.5	7	9.3	13	11.0	7	5.2
8 親を安心させ周囲の期待にこたえられる	109	28.5	17	30.4	32	42.7	29	24.6	31	23.1
9 個人の自由であり、結婚しなくともよい	99	25.8	19	33.9	23	30.7	36	30.5	21	15.7
10 その他	12	3.1	2	3.6	4	5.3	1	0.8	5	3.7

Q3. 理想の家族の住まい方とは (N=400)

理想の家族の住まい方をお聞きしたところ核家族世帯を選んだ人が三世代同居を上回りました。このうち「祖父母と近居」を選んだ人と「祖父母とは離れて住む」を選んだ人はほぼ同じ割合でした。

項目	件数	%
全体	400	100.0
1 ひとり暮らし	16	4.0
2 夫婦のみの二人暮らし	26	6.5
3 親と子による核家族世帯で、祖父母とは離れて住む	139	34.8
4 核家族世帯で、父方の祖父母と近居	53	13.3
5 核家族世帯で、母方の祖父母と近居	73	18.3
6 三世代同居 (夫の親)	53	13.3
7 三世代同居 (妻の親)	26	6.5
8 その他	14	3.5



(現在の婚姻状況別)

現在の婚姻状況別に集計したところ、「親と子による核家族世帯で、祖父母とは離れて住む」を理想としている人の割合は既婚者より未婚者の方で高くなっています。未婚者では理想とする人の少なかった「三世代同居」ですが、既婚者では一定の割合の人が理想としており、子育てへの手助けなどを通じて多世代同居のメリットが認識されるようになる傾向が見受けられます。

	全体		配偶者なし		配偶者あり	
	件数	%	件数	%	件数	%
合計	399	100.0	165	100.0	234	100.0
1 ひとり暮らし	16	4.0	16	9.7		
2 夫婦のみの二人暮らし	26	6.5	11	6.7	15	6.4
3 親と子による核家族世帯で、祖父母とは離れて住む	138	34.6	75	45.5	63	26.9
4 核家族世帯で、父方の祖父母と近居	53	13.3	17	10.3	36	15.4
5 核家族世帯で、母方の祖父母と近居	73	18.3	31	18.8	42	17.9
6 三世代同居 (夫の親)	53	13.3	6	3.6	47	20.1
7 三世代同居 (妻の親)	26	6.5	4	2.4	22	9.4
8 その他	14	3.5	5	3.0	9	3.8

(男女別)

男女別に集計したところ、男女の傾向に大きな違いはありませんでしたが、親世代との「近居」に関して男性は夫の親、女性は妻の親との近居を望む傾向が強くなっています。一方、親世代との「同居」に関しては男女の希望に差は見られませんでした。

	全体		男		女	
	件数	%	件数	%	件数	%
合計	400	100.0	147	100.0	253	100.0
1 ひとり暮らし	16	4.0	7	4.8	9	3.6
2 夫婦のみの二人暮らし	26	6.5	11	7.5	15	5.9
3 親と子による核家族世帯で、 祖父母とは離れて住む	139	34.8	55	37.4	84	33.2
4 核家族世帯で、父方の祖父母 と近居	53	13.3	27	18.4	26	10.3
5 核家族世帯で、母方の祖父母 と近居	73	18.3	10	6.8	63	24.9
6 三世代同居（夫の親）	53	13.3	20	13.6	33	13.0
7 三世代同居（妻の親）	26	6.5	10	6.8	16	6.3
8 その他	14	3.5	7	4.8	7	2.8

(年齢別)

10代では6割以上の方が「祖父母と離れて住む親と子の核家族世帯」を望んでいますが、実際に結婚する人が多い20代では4割程度となり、年代が上に行くほど割合が下がっています。子育て年代の20代・30代で「母方の祖父母と近居」の割合が高いのは、母方の祖父母からなら育児の手助けを受けやすいという事情があるものと考えられます。

	全体		10代		20代		30代		40代	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
合計	399	100.0	57	100.0	77	100.0	125	100.0	140	100.0
1 ひとり暮らし	16	4.0	7	12.3	3	3.9	6	4.8		
2 夫婦のみの二人暮らし	26	6.5	2	3.5	5	6.5	6	4.8	13	9.3
3 親と子による核家族世帯で、 祖父母とは離れて住む	138	34.6	36	63.2	29	37.7	38	30.4	35	25.0
4 核家族世帯で、父方の祖父母 と近居	53	13.3	2	3.5	10	13.0	13	10.4	28	20.0
5 核家族世帯で、母方の祖父母 と近居	73	18.3	3	5.3	19	24.7	28	22.4	23	16.4
6 三世代同居（夫の親）	53	13.3	1	1.8	5	6.5	21	16.8	26	18.6
7 三世代同居（妻の親）	26	6.5	3	5.3	4	5.2	11	8.8	8	5.7
8 その他	14	3.5	3	5.3	2	2.6	2	1.6	7	5.0

(家族構成別)

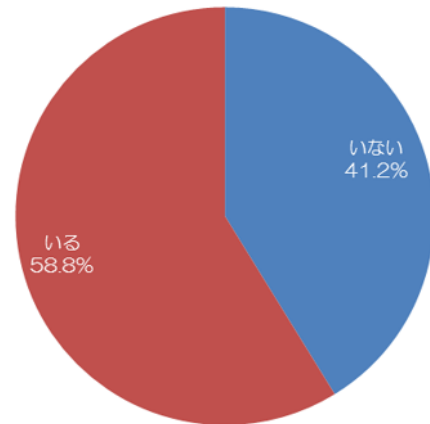
実際の家族構成別の集計結果を見たところ、単身世帯(=未婚)では「親と子による核家族世帯で、祖父母とは離れて住む」を理想とする人がほとんどで、夫婦のみ世帯及び親と子の二世帯同居世帯では現状を理想としている人が多くなっています。三世帯同居世帯の人は現状を理想としている人と、やっぱり「親と子による核家族世帯で、祖父母とは離れて住む」が理想とする人が拮抗しています。

	全体		単身		夫婦のみ		二世帯同居		三世帯同居		その他	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
合計	390	100.0	17	100.0	17	100.0	212	100.0	130	100.0	14	100.0
1 ひとり暮らし	16	4.1	4	23.5			11	5.2	1	0.8		
2 夫婦のみの二人暮らし	26	6.7			6	35.3	16	7.5	3	2.3	1	7.1
3 親と子による核家族世帯で、 祖父母とは離れて住む	135	34.6	9	52.9	5	29.4	77	36.3	40	30.8	4	28.6
4 核家族世帯で、父方の祖父母 と同居	51	13.1	1	5.9	2	11.8	30	14.2	17	13.1	1	7.1
5 核家族世帯で、母方の祖父母 と同居	70	17.9	2	11.8	2	11.8	43	20.3	19	14.6	4	28.6
6 三世帯同居(夫の親)	53	13.6			1	5.9	18	8.5	34	26.2		
7 三世帯同居(妻の親)	25	6.4	1	5.9	1	5.9	8	3.8	12	9.2	3	21.4
8 その他	14	3.6					9	4.2	4	3.1	1	7.1

Q4. 現在の婚姻状況 (N=410)

現在の婚姻状況をお聞きしたところ、6割が「配偶者がいる」、4割が「配偶者がいない」という構成となっています。

項目	件数	%
全体	410	100.0
1 いない	169	41.2
2 いる	241	58.8

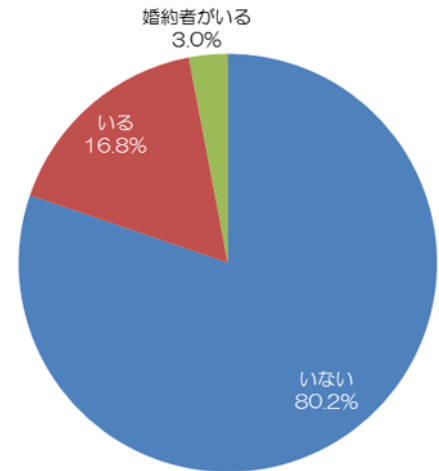


3. 独身者の結婚観

Q5. 交際相手はいるか (N=167)

現在配偶者がいない方(以下、「独身者」)に対して、交際相手の有無をお聞きしたところ、交際相手のいない人が約 80%と大半を占めており、交際相手のいる人は約 17%、婚約者がいる人は約 3%にとどまりました。

項目	件数	%
全体	167	100.0
1 いない	134	80.2
2 いる	28	16.8
3 婚約者がいる	5	3.0



(男女別)

男女別に集計したところ、独身男性のうち、交際相手がいると回答した人は1割、女性は2割となっています。

	全体		男		女	
	件数	%	件数	%	件数	%
合計	167	100.0	74	100.0	93	100.0
1 いない	134	80.2	65	87.8	69	74.2
2 いる	28	16.8	8	10.8	20	21.5
3 婚約者がいる	5	3.0	1	1.4	4	4.3

(年齢別)

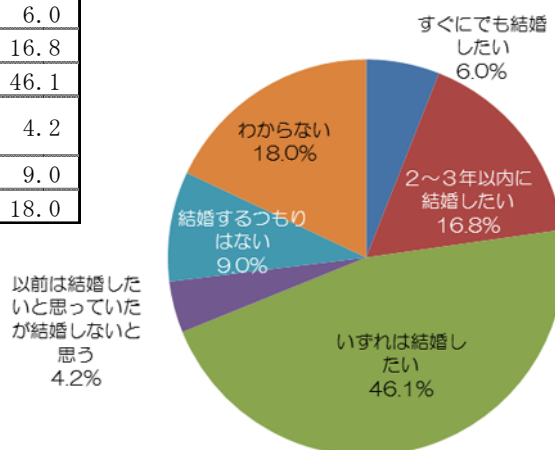
年齢別に集計したところ、20代では交際相手がいる人は3割近くとなっていますが、30代になると2割まで低下していることが分かります。

	全体		10代		20代		30代		40代	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
合計	166	100.0	54	100.0	63	100.0	37	100.0	12	100.0
1 いない	133	80.1	52	96.3	43	68.3	26	70.3	12	100.0
2 いる	28	16.9	2	3.7	18	28.6	8	21.6		
3 婚約者がいる	5	3.0			2	3.2	3	8.1		

Q6. 将来結婚したいですか (N=167)

独身者の7割が結婚したいと考えていますが、3年以内の結婚を考えている人は2割にとどまります。時間的な見通しをもって結婚の準備をする人は少ないのが実態のようです。

項目	件数	%
全体	167	100.0
1 すぐにも結婚したい	10	6.0
2 2～3年以内に結婚したい	28	16.8
3 いずれは結婚したい	77	46.1
4 以前は結婚したいと思っていたが結婚しないと思う	7	4.2
5 結婚するつもりはない	15	9.0
6 わからない	30	18.0



(男女別)

男女別に集計したところ、将来のいずれかの時点で結婚したいと考えている人の比率は女性の方が男性よりも5ポイント程度高くなっており、2～3年以内に限定しても同様の傾向となっています。

	全体		男		女	
	件数	%	件数	%	件数	%
合計	167	100.0	73	100.0	94	100.0
1 すぐにも結婚したい	10	6.0	3	4.1	7	7.4
2 2～3年以内に結婚したい	28	16.8	12	16.4	16	17.0
3 いずれは結婚したい	77	46.1	33	45.2	44	46.8
4 以前は結婚したいと思っていたが結婚しないと思う	7	4.2	3	4.1	4	4.3
5 結婚するつもりはない	15	9.0	8	11.0	7	7.4
6 わからない	30	18.0	14	19.2	16	17.0

(年齢別)

年齢別に集計したところ、結婚の意思のある人の比率は20代では約8割、30代では約6割、40代では約3割と年齢を重ねるごとに低下していきます。「すぐにでも結婚したい」人の比率は30代で最も高く、「2～3年で結婚したい」人の比率は20代で最も高くなっています。

	全体		10代		20代		30代		40代	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
合計	166	100.0	55	100.0	62	100.0	37	100.0	12	100.0
1 すぐにでも結婚したい	9	5.4			3	4.8	5	13.5	1	8.3
2 2～3年以内に結婚したい	28	16.9			18	29.0	8	21.6	2	16.7
3 いずれは結婚したい	77	46.4	37	67.3	29	46.8	10	27.0	1	8.3
4 以前は結婚したいと思っていたが結婚しないと思う	7	4.2	2	3.6	3	4.8	2	5.4		
5 結婚するつもりはない	15	9.0	3	5.5	5	8.1	6	16.2	1	8.3
6 わからない	30	18.1	13	23.6	4	6.5	6	16.2	7	58.3

Q7. 結婚について気になること (N=160)

独身者に対して結婚を考えるにあたり気になることをお聞きしたところ、「結婚相手の家族や親せきとの関係」「結婚後の仕事や収入」などを選んだ人が多くなっています。「結婚後の住まい」に関して心配している人は他の項目と比べて低くなっています。

項目	件数	%	
1 結婚にかかる費用	32	20.0	
2 結婚後の仕事や収入	69	43.1	
3 自分の家族との関係	32	20.0	
4 結婚相手の家族や親戚との関係	71	44.4	
5 結婚後の住まい	26	16.3	
6 出産や育児	59	36.9	
7 生活スタイルの変化	63	39.4	
8 将来の人生設計	52	32.5	
9 その他	3	1.9	

(男女別)

男女別に集計したところ、男性の上位3項目は多い順に①結婚後の仕事や収入／生活スタイルの変化、②結婚相手の家族や親せきとの関係、③将来の人生設計だったのに対し、女性では①結婚相手の家族や親せきとの関係、②結婚後の仕事や収入、③出産や育児となっており、男女別にかなり意識が異なることが分かります。

「結婚後の仕事や収入」に関しては男性よりも女性が気にしている割合が高く、結婚・出産により現在の収入が維持できなくなることが結婚の妨げになっている状況が推察されます。

	全体		男		女	
	件数	%	件数	%	件数	%
合計	160	100.0	69	100.0	91	100.0
1 結婚にかかる費用	32	20.0	19	27.5	13	14.3
2 結婚後の仕事や収入	69	43.1	27	39.1	42	46.2
3 自分の家族との関係	32	20.0	15	21.7	17	18.7
4 結婚相手の家族や親戚との関係	71	44.4	25	36.2	46	50.5
5 結婚後の住まい	26	16.3	13	18.8	13	14.3
6 出産や育児	59	36.9	22	31.9	37	40.7
7 生活スタイルの変化	63	39.4	27	39.1	36	39.6
8 将来の人生設計	52	32.5	24	34.8	28	30.8
9 その他	3	1.9	2	2.9	1	1.1

(年齢別)

年齢別集計結果から、結婚の多い年代である20代と30代の意識を比較すると、20代の上位項目は①「結婚後の仕事や収入」「結婚相手の家族や親せきとの関係」、②「出産や育児」、③「生活スタイルの変化」であり、30代では①「生活スタイルの変化」、②「結婚相手の家族や親せきとの関係」、③「結婚後の仕事や収入」となっており、特に若い年代で「結婚後の仕事や収入」を心配している状況が分かります。

	全体		10代		20代		30代		40代	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
合計	159	100.0	50	100.0	60	100.0	37	100.0	12	100.0
1 結婚にかかる費用	32	20.1	9	18.0	16	26.7	4	10.8	3	25.0
2 結婚後の仕事や収入	69	43.4	22	44.0	28	46.7	14	37.8	5	41.7
3 自分の家族との関係	32	20.1	13	26.0	11	18.3	7	18.9	1	8.3
4 結婚相手の家族や親戚との関係	70	44.0	21	42.0	28	46.7	15	40.5	6	50.0
5 結婚後の住まい	26	16.4	8	16.0	14	23.3	2	5.4	2	16.7
6 出産や育児	58	36.5	20	40.0	22	36.7	12	32.4	4	33.3
7 生活スタイルの変化	63	39.6	16	32.0	18	30.0	22	59.5	7	58.3
8 将来の人生設計	52	32.7	17	34.0	21	35.0	10	27.0	4	33.3
9 その他	3	1.9	1	2.0	2	3.3				

Q8. 独身の理由 (N=164)

独身の人に独身でいる理由をお聞きしたところ最も多かったのは「仕事又は学業に打ち込みたいから」であり、「異性と知り合う機会がないから」が続いています。

項目	件数	%	
1 結婚の必要性を感じていないから	39	23.8	
2 同棲でよいと思っているから	3	1.8	
3 仕事または学業に打ち込みたいから	57	34.8	
4 趣味や娯楽を楽しみたいから	33	20.1	
5 独身の自由さや気楽さを失いたくないから	30	18.3	
6 異性と知り合う機会がないから	46	28.0	
7 希望の条件を満たす相手に巡り合わないから	25	15.2	
8 異性とうまく付き合えないから	20	12.2	
9 経済的に余裕がないから	39	23.8	
10 精神的に余裕がないから	18	11.0	
11 結婚後の住居のめどが立たないから	2	1.2	
12 親や周囲が結婚に同意しないから	5	3.0	
13 その他	11	6.7	
14 特に理由はない	20	12.2	

(男女別)

男女別に集計したところ、男女別に回答率の差が大きかったのは、以下の項目でした。

- 男性で高い割合： 「経済的に余裕がないから」
「異性とうまく付き合えないから」
女性で高い割合： 「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」
「仕事または学業に打ち込みたいから」

「経済的に余裕がないから」独身でいるという男性が多いのは近年の経済成長の鈍化を反映した全国的な傾向であり、地域経済の活性化が求められるところです。

「仕事または学業に打ち込みたい」と考えて独身でいることを選ぶ女性が多いのは、結婚や出産がキャリア形成の妨げになっている状況を反映しているものと考えられます。ライフステージの変化を通じて、継続的に働き続けられる環境づくりや多様な働き方が可能な雇用の創出が求められます。

	全体		男		女	
	件数	%	件数	%	件数	%
合計	164	100.0	71	100.0	93	100.0
1 結婚の必要性を感じていないから	39	23.8	15	21.1	24	25.8
2 同棲でよいと思っているから	3	1.8	1	1.4	2	2.2
3 仕事または学業に打ち込みたいから	57	34.8	19	26.8	38	40.9
4 趣味や娯楽を楽しみたいから	33	20.1	15	21.1	18	19.4
5 独身の自由さや気楽さを失いたくないから	30	18.3	7	9.9	23	24.7
6 異性と知り合う機会がないから	46	28.0	20	28.2	26	28.0
7 希望の条件を満たす相手に巡り合わないから	25	15.2	12	16.9	13	14.0
8 異性とうまく付き合えないから	20	12.2	12	16.9	8	8.6
9 経済的に余裕がないから	39	23.8	30	42.3	9	9.7
10 精神的に余裕がないから	18	11.0	10	14.1	8	8.6
11 結婚後の住居のめどが立たないから	2	1.2	1	1.4	1	1.1
12 親や周囲が結婚に同意しないから	5	3.0	1	1.4	4	4.3
13 その他	11	6.7	6	8.5	5	5.4
14 特に理由はない	20	12.2	7	9.9	13	14.0

(年齢別)

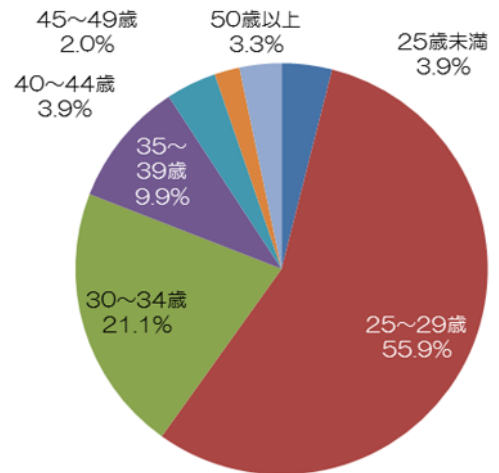
年齢別集計結果から結婚の多い20代、30代に注目すると、20代では①「経済的に余裕がないから」、②「異性と知り合う機会がないから」、③「趣味や娯楽を楽しみたいから」が上位となっていますが、30代では①「異性と知り合う機会がないから」、②「結婚の必要性を感じていないから」、③「経済的に余裕がないから」の順に変化します。「異性と知り合う機会がないから」は年齢を重ねるほど高い割合となっています。

	全体		10代		20代		30代		40代	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
合計	163	100.0	54	100.0	60	100.0	37	100.0	12	100.0
1 結婚の必要性を感じていないから	39	23.9	13	24.1	12	20.0	11	29.7	3	25.0
2 同棲でよいと思っているから	3	1.8			1	1.7	2	5.4		
3 仕事または学業に打ち込みたいから	56	34.4	35	64.8	15	25.0	5	13.5	1	8.3
4 趣味や娯楽を楽しみたいから	33	20.2	11	20.4	16	26.7	2	5.4	4	33.3
5 独身の自由さや気楽さを失いたくないから	29	17.8	6	11.1	13	21.7	7	18.9	3	25.0
6 異性と知り合う機会がないから	46	28.2	11	20.4	17	28.3	13	35.1	5	41.7
7 希望の条件を満たす相手に巡り合わないから	25	15.3	4	7.4	14	23.3	5	13.5	2	16.7
8 異性とうまく付き合えないから	20	12.3	7	13.0	10	16.7	2	5.4	1	8.3
9 経済的に余裕がないから	39	23.9	7	13.0	18	30.0	9	24.3	5	41.7
10 精神的に余裕がないから	18	11.0	5	9.3	9	15.0	3	8.1	1	8.3
11 結婚後の住居のめどが立たないから	2	1.2			2	3.3				
12 親や周囲が結婚に同意しないから	5	3.1	1	1.9	3	5.0	1	2.7		
13 その他	11	6.7	8	14.8	2	3.3	1	2.7		
14 特に理由はない	20	12.3	3	5.6	8	13.3	7	18.9	2	16.7

Q9. 結婚を希望する時期 (N=152)

結婚を希望する時期は20歳代後半が最も多く、30歳代前半までで8割となっています。

項目	件数	%
全体	152	100.0
1 25歳未満	6	3.9
2 25～29歳	85	55.9
3 30～34歳	32	21.1
4 35～39歳	15	9.9
5 40～44歳	6	3.9
6 45～49歳	3	2.0
7 50歳以上	5	3.3



(男女別)

男女別に集計したところ、男女とも 25～29 歳での結婚を希望する人が最も多く、半数を超えています。

	全体		男		女	
	件数	%	件数	%	件数	%
合計	152	100.0	67	100.0	85	100.0
1 25歳未満	6	3.9	2	3.0	4	4.7
2 25～29歳	85	55.9	40	59.7	45	52.9
3 30～34歳	32	21.1	12	17.9	20	23.5
4 35～39歳	15	9.9	6	9.0	9	10.6
5 40～44歳	6	3.9	3	4.5	3	3.5
6 45～49歳	3	2.0	3	4.5		
7 50歳以上	5	3.3	1	1.5	4	4.7

(年齢別)

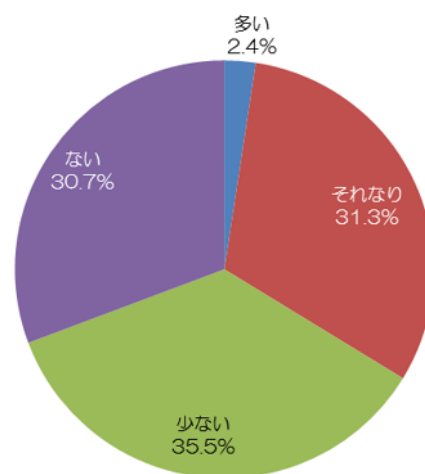
年齢別に集計したところ、20 代では6割が 25～29 歳、3割が 30～34 歳での結婚を希望しており、30 代では 30～34 歳・35～39 歳での結婚を希望している人がほぼ同数でした。

	全体		10代		20代		30代		40代	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
合計	151	100.0	52	100.0	61	100.0	31	100.0	7	100.0
1 25歳未満	6	4.0	4	7.7	2	3.3				
2 25～29歳	84	55.6	44	84.6	38	62.3	2	6.5		
3 30～34歳	32	21.2	3	5.8	16	26.2	13	41.9		
4 35～39歳	15	9.9			3	4.9	12	38.7		
5 40～44歳	6	4.0	1	1.9			1	3.2	4	57.1
6 45～49歳	3	2.0					1	3.2	2	28.6
7 50歳以上	5	3.3			2	3.3	2	6.5	1	14.3

Q10. 出会いの機会について (N=166)

独身の人に、交際相手と知り合う出会いの機会の有無についてお聞きしたところ、「多い」「それなり」と答えた人は1/3、「少ない」「ない」と答えた人が2/3でした。このうち「ない」と答えた人が約31%に上りました。

項目	件数	%
全体	166	100.0
1 多い	4	2.4
2 それなり	52	31.3
3 少ない	59	35.5
4 ない	51	30.7



(男女別)

男女別に集計したところ、男性よりも女性の方が「出会いの機会が少ない/ない」と感じているようです。

	全体		男		女	
	件数	%	件数	%	件数	%
合計	166	100.0	73	100.0	93	100.0
1 多い	4	2.4	4	5.5		
2 それなり	52	31.3	24	32.9	28	30.1
3 少ない	59	35.5	21	28.8	38	40.9
4 ない	51	30.7	24	32.9	27	29.0

(年齢別)

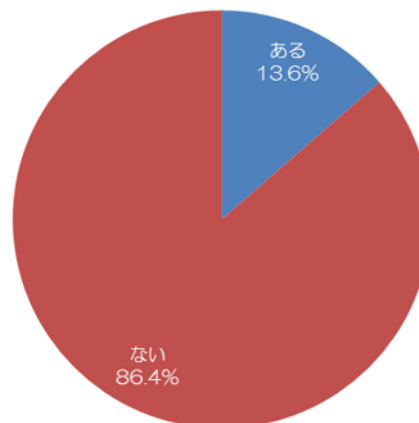
年齢別に集計したところ、年齢を重ねるごとに出会いの機会が少ないと感じる人の割合が大きくなっていく傾向があります。比較的出会いの機会があるという20代でも約66%の人が出会いの機会が少ない/ないと感じており、何らかの支援が必要になっている可能性が考えられます。

	全体		10代		20代		30代		40代	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
合計	165	100.0	54	100.0	62	100.0	37	100.0	12	100.0
1 多い	4	2.4	2	3.7			2	5.4		
2 それなり	52	31.5	20	37.0	21	33.9	8	21.6	3	25.0
3 少ない	58	35.2	16	29.6	29	46.8	11	29.7	2	16.7
4 ない	51	30.9	16	29.6	12	19.4	16	43.2	7	58.3

Q11. 婚活をしたことがあるか (N=169)

独身者の人に結婚相手、結婚を前提とした交際相手を見つけるための活動、いわゆる婚活に取り組んだことがあるかどうかお聞きしたところ、「ある」と答えた人が約 14%にとどまり、残りの約 86%は「ない」と答えています。

項目	件数	%
全体	169	100.0
1 ある	23	13.6
2 ない	146	86.4



(男女別)

男女別に集計したところ、男性では約 10%、女性では約 17%が何らかの婚活に取り組んだことがあると回答しており、男性よりも女性の方が意識的に結婚に向けた活動に取り組んでいることが分かります。

	全体		男		女	
	件数	%	件数	%	件数	%
合計	169	100.0	74	100.0	95	100.0
1 ある	23	13.6	7	9.5	16	16.8
2 ない	146	86.4	67	90.5	79	83.2

(年齢別)

年齢別に集計したところ、婚活に取り組んだことのある人の比率は年齢を重ねるごとに高くなる傾向があります。

	全体		10代		20代		30代		40代	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
合計	168	100.0	55	100.0	64	100.0	37	100.0	12	100.0
1 ある	23	13.7			12	18.8	8	21.6	3	25.0
2 ない	145	86.3	55	100.0	52	81.3	29	78.4	9	75.0

Q12. これまで取り組んだ婚活内容について (N=23)

前の設問で「婚活をしたことがある」と答えた人にその内容についてお聞きしたところ、「合コンに参加」が最も多く約 61%の人が、「友人などに交際相手の紹介を依頼」は約 57%の人が取り組んだと回答しています。婚活パーティーのようなイベントに参加したことのある人は約 30%にとどまりました。

項目	件数	%	
1 友人などに交際相手の紹介を依頼	13	56.5	
2 合コンに参加	14	60.9	
3 お見合いをする	4	17.4	
4 婚活パーティーなどに参加	7	30.4	
5 魅力を高めるための自分磨き	4	17.4	
6 出会いが多そうなどところに行く	5	21.7	
7 親や親戚、上司などに紹介を依頼	3	13.0	
8 インターネットの婚活サイトなどを利用	3	13.0	
9 結婚相談所や結婚紹介サービスを利用	1	4.3	
10 その他	1	4.3	

Q13. 行政による結婚支援策として有効だと思うもの (N=156)

行政による結婚支援策として有効だと思うものをお聞きしたところ、他の項目よりも「子育てしやすい社会環境づくり」を選ぶ人が多くなっています。出会いの機会よりも現在住んでいるまちで子育てがしやすい環境を整えてほしいという意識の表れと考えられます。その他の施策についても一定の支持を集めており、「行政には期待しない」と応えた方は約 15%にとどまりました。

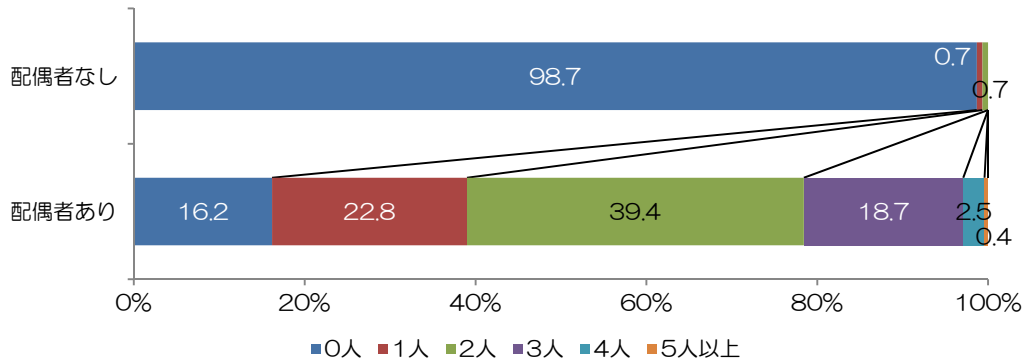
項目	件数	%	
1 結婚したい人の出会いの場づくり	52	33.3	
2 ワークライフバランスの改善に向けた企業等の雇用主に対する労働時間短縮の働きかけ	43	27.6	
3 企業等の雇用主に対する正規雇用促進の働きかけ	45	28.8	
4 性別に関わらず社会参加や自己実現が可能な社会に向けた啓発活動	35	22.4	
5 性別にかかわらず家事・育児への参加を推進する学習の場づくり	44	28.2	
6 子育てしやすい会社環境づくり	90	57.7	
7 その他	10	6.4	
8 行政には期待しない	23	14.7	

4. 出産・子育てに対する考え方

Q14. 子どもの人数

(現在子ども数)

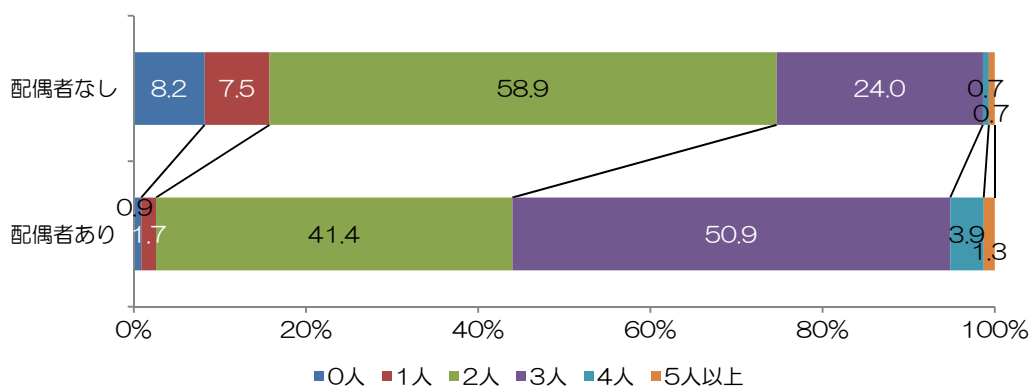
現在の子ども数をお聞きしたところ、「配偶者あり」の人に限定すると、最も多かったのは2人の約39%、次いで1人の約23%で、平均子ども数は1.7人でした。なお、現在の子ども数が0人の方を除いた場合の平均子ども数は2.0人でした。



	合計	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	平均 (人)
全体	393	189	56	96	45	6	1	1.0
	100.0	48.1	14.2	24.4	11.5	1.5	0.3	
配偶者なし	152	150	1	1				0.0
	100.0	98.7	0.7	0.7				
配偶者あり	241	39	55	95	45	6	1	1.7
	100.0	16.2	22.8	39.4	18.7	2.5	0.4	

(理想子ども数)

配偶者のない人は理想子ども数を2人と考える人が最も多く、平均も2.0人でした。配偶者のある人は3人と答える人と2人と答える人にほぼ二分され、平均は2.6人でした。配偶者のある人の理想子ども数と現在子ども数の差は0.9人となりました。



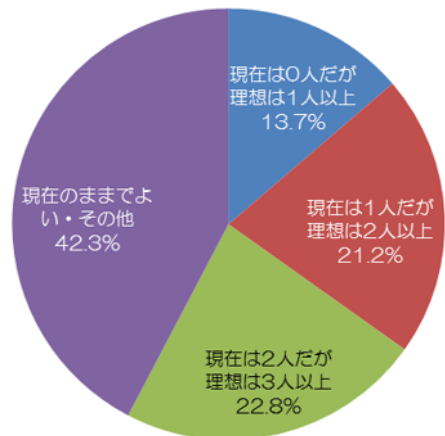
	合計	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	平均 (人)
全体	378	14	15	182	153	10	4	2.4
	100.0	3.7	4.0	48.1	40.5	2.6	1.1	
配偶者なし	146	12	11	86	35	1	1	2.0
	100.0	8.2	7.5	58.9	24.0	0.7	0.7	
配偶者あり	232	2	4	96	118	9	3	2.6
	100.0	0.9	1.7	41.4	50.9	3.9	1.3	

(出産希望のパターン化)

現在子どものいない人が第1子を持つにあたっての課題、既に第1子のいる人が第2子以降を持つにあたっての課題、既に第2子がいる人が第3子以降を持つにあたっての課題はそれぞれ違うことが考えられます。

そこで、配偶者ありと回答した人について、現在子ども数と理想子ども数の回答結果の組み合わせを以下のようにパターン化しました。

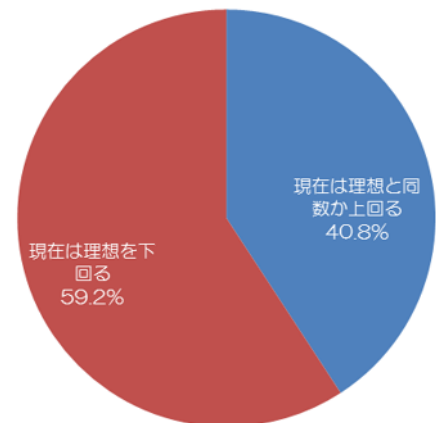
項目	件数	%
全体	241	100.0
1 現在は0人だが理想は1人以上	33	13.7
2 現在は1人だが理想は2人以上	51	21.2
3 現在は2人だが理想は3人以上	55	22.8
4 現在のままでよい・その他	102	42.3



Q15. 現在子ども数・理想子ども数の関係 (N=375)

現在の子どもの数と理想の子どもの数との関係を改めてお聞きしたところ、「現在の子どもの数は理想の子どもの数を下回る」とした人が6割、「理想と同数か上回る」とした人が4割でした。

項目	件数	%
全体	375	100.0
1 現在は理想と同数か上回る	153	40.8
2 現在は理想を下回る	222	59.2



Q16. 理想子ども数を持つのが難しい理由 (N=199)

理想子ども数を持つのが難しい理由としては「子育てや教育にお金がかかりすぎる」を挙げる人が多く、「高齢出産への不安」を挙げる人が続いています。地域性を反映してか、「住居が狭い」を理由として挙げる人は少数でした。

項目	件数	%	
1 子育てや教育にお金がかかりすぎる	100	50.3	
2 住居が狭い	12	6.0	
3 自分の仕事に差し支える	28	14.1	
4 子育てを手助けする人がいない	20	10.1	
5 子どもがのびのび育つ環境ではない	16	8.0	
6 自分や夫婦の生活を大事にしたい	15	7.5	
7 高齢出産となり不安だから	58	29.1	
8 健康上の理由	22	11.1	
9 育児の心理的・肉体的負担が大きい	38	19.1	
10 子どもは欲しいが授からない	34	17.1	
11 配偶者の協力が得られない	11	5.5	
12 定年退職までに成人してほしいから	10	5.0	
13 その他	39	19.6	

(出産希望パターン別)

出産希望のパターン別に集計を行ったところ、以下のような傾向の違いが見えてきました。

◆ 1人目の子を持つことが難しい理由

最も多く挙げられているのは「子どもは欲しいが授からない」、次いで「高齢出産となり不安」で、晩婚化が大きな原因となっていることが分かります。この層への対策としては自身が望まない晩婚化を防ぐための結婚支援策の充実等が求められます。

◆ 2人目以降の子を持つことが難しい理由

最も多く挙げられているのは「子育てや教育にお金がかかりすぎる」、次いで「高齢出産となり不安」でした。また、3人目以降の子を持つことが難しい理由の1位・2位は2人目以降と同様でしたが、3位以降で他と比較して「育児の心理的・肉体的負担が大きい」「配偶者の協力が得られない」を選んだ人が多いことが特徴です。

既に子どものいる人にとあと1人生んで頂くために最も効果があるのは子育てや教育にかかるコストの軽減、育児の心理的・肉体的負担を軽減するサポート体制の充実であることが分かりました。














	全体		現在は0人だが理想は1人以上		現在は1人だが理想は2人以上		現在は2人だが理想は3人以上		現在のままでよい・その他	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
合計	114	100.0	27	100.0	32	100.0	48	100.0	7	100.0
1 子育てや教育にお金がかかりすぎる	56	49.1	7	25.9	17	53.1	31	64.6	1	14.3
2 住居が狭い	10	8.8	1	3.7	3	9.4	5	10.4	1	14.3
3 自分の仕事に差し支える	21	18.4	4	14.8	7	21.9	10	20.8		
4 子育てを手助けする人がいない	11	9.6	1	3.7	6	18.8	4	8.3		
5 子どもがのびのび育つ環境ではない	6	5.3	1	3.7	1	3.1	4	8.3		
6 自分や夫婦の生活を大事にしたい	9	7.9	4	14.8	2	6.3	2	4.2	1	14.3
7 高齢出産となり不安だから	49	43.0	8	29.6	13	40.6	22	45.8	6	85.7
8 健康上の理由	12	10.5	3	11.1	4	12.5	3	6.3	2	28.6
9 育児の心理的・肉体的負担が大きい	24	21.1	3	11.1	6	18.8	14	29.2	1	14.3
10 子どもは欲しいが授からない	29	25.4	16	59.3	9	28.1	1	2.1	3	42.9
11 配偶者の協力が得られない	8	7.0			1	3.1	7	14.6		
12 定年退職までに成人してほしいから	10	8.8	1	3.7	2	6.3	5	10.4	2	28.6
13 その他	10	8.8	4	14.8	3	9.4	3	6.3		

Q17. 理想子ども数に近づくために必要なこと (N=352)

理想子ども数に近づくために必要なことを回答者全員にお聞きしたところ、「職場における理解や支援」を挙げる人が最も多く、もう一人子をもうけるためには職場や上司・同僚の出産に対する理解が求められていることが分かります。

行政による子育て支援策等に関しては、現在既に行われている各種助成の充実よりも「その他の子育て・教育費等の費用負担軽減」が多くなっています。

「家事・育児に関する家族等の支え」を挙げる方も多くなっており、祖父母等の親族が子育て支援に果たす役割の大きさがうかがえます。

項目	件数	%	
1 育児休業制度の充実	77	21.9	
2 家事・育児に関する家族等の支え	118	33.5	
3 職場における理解や支援	140	39.8	
4 地域や社会全体での子育て支援体制	73	20.7	
5 職場内保育施設の整備	37	10.5	
6 長時間保育の実施	43	12.2	
7 待機せずに入所できる保育所の整備	78	22.2	
8 子どもが病気やケガの時に預けられる施設の充実	59	16.8	
9 子どもの安心安全な活動場所の確保	47	13.4	
10 出産費用の負担軽減措置	68	19.3	
11 保育料の軽減措置	62	17.6	
12 その他の子育て・教育費用の負担軽減	121	34.4	
13 その他	19	5.4	

(現在の婚姻状況別)

現在の婚姻状況別に集計したところ、未婚者では①「職場における理解や支援」、②「家事・育児に関する家族等の支え」、③「育児休業制度の充実」の順に回答率が高く、既婚者では①「その他の子育て・教育費用の負担軽減」、②「職場における理解や支援」、③「家事・育児に関する家族等の支え」の順に回答が多くなっています。なお、既婚・独身で回答率に大きく差が出た項目は以下の通りでした。

未婚で高い割合： 長時間保育の実施
育児休業制度の充実

既婚で高い割合： その他の子育て・教育費用の負担軽減

	全体		配偶者なし		配偶者あり	
	件数	%	件数	%	件数	%
合計	351	100.0	145	100.0	206	100.0
1 育児休業制度の充実	77	21.9	41	28.3	36	17.5
2 家事・育児に関する家族等の支え	118	33.6	44	30.3	74	35.9
3 職場における理解や支援	140	39.9	61	42.1	79	38.3
4 地域や社会全体での子育て支援体制	73	20.8	30	20.7	43	20.9
5 職場内保育施設の整備	37	10.5	11	7.6	26	12.6
6 長時間保育の実施	43	12.3	28	19.3	15	7.3
7 待機せずに入所できる保育所の整備	77	21.9	37	25.5	40	19.4
8 子どもが病気やケガの時に預けられる施設の充実	59	16.8	23	15.9	36	17.5
9 子どもの安心安全な活動場所の確保	46	13.1	18	12.4	28	13.6
10 出産費用の負担軽減措置	68	19.4	31	21.4	37	18.0
11 保育料の軽減措置	61	17.4	19	13.1	42	20.4
12 その他の子育て・教育費用の負担軽減	121	34.5	36	24.8	85	41.3
13 その他	19	5.4	7	4.8	12	5.8

(出産希望パターン別)

現在子ども数と理想子ども数の組み合わせによる出産希望パターン別に集計したところ、まだ子どもを持っていない人が第1子を持つためには出産費用の負担軽減措置が必要とされています。この層では子どもを欲しいけど授けられないことを理由として挙げる人が多かったことから、不妊治療の負担軽減や妊活などを含めた子を授かりやすくするための支援が求められていると考えられます。

既に子どものいる人が第2子第3子を持つためには「その他の子育て・教育費用の負担軽減」が求められており、児童・生徒の学習支援策などが求められているものと考えられます。

第1子を持つために必要なこと:

- ①出産費用の負担軽減措置
- ②家事・育児に関する家族等の支え
- ③職場における理解や支援
- ③その他の子育て・教育費用の負担軽減

第2子を持つために必要なこと:

- ①その他の子育て・教育費用の負担軽減
- ②家事・育児に関する家族等の支え
- ③職場における理解や支援
- ③待機せずに入所できる保育所の整備

第3子を持つために必要なこと:

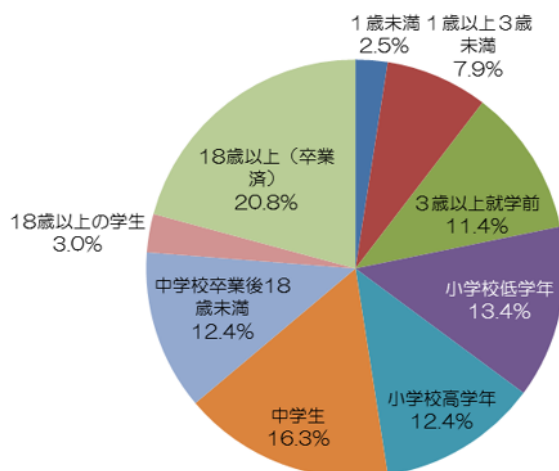
- ①その他の子育て・教育費用の負担軽減
- ②職場における理解や支援
- ③家事・育児に関する家族等の支え

	全体		現在は0人だが理想は1人以上		現在は1人だが理想は2人以上		現在は2人だが理想は3人以上		現在のままでよい・その他	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
合計	206	100.0	29	100.0	42	100.0	46	100.0	89	100.0
1 育児休業制度の充実	36	17.5	6	20.7	6	14.3	7	15.2	17	19.1
2 家事・育児に関する家族等の支え	74	35.9	9	31.0	14	33.3	15	32.6	36	40.4
3 職場における理解や支援	79	38.3	8	27.6	13	31.0	17	37.0	41	46.1
4 地域や社会全体での子育て支援体制	43	20.9	6	20.7	10	23.8	10	21.7	17	19.1
5 職場内保育施設の整備	26	12.6	2	6.9	6	14.3	5	10.9	13	14.6
6 長時間保育の実施	15	7.3	4	13.8			3	6.5	8	9.0
7 待機せずに入所できる保育所の整備	40	19.4	4	13.8	13	31.0	9	19.6	14	15.7
8 子どもが病気やケガの時に預けられる施設の充実	36	17.5	3	10.3	7	16.7	10	21.7	16	18.0
9 子どもの安心安全な活動場所の確保	28	13.6	7	24.1	6	14.3	1	2.2	14	15.7
10 出産費用の負担軽減措置	37	18.0	10	34.5	9	21.4	7	15.2	11	12.4
11 保育料の軽減措置	42	20.4	2	6.9	10	23.8	13	28.3	17	19.1
12 その他の子育て・教育費用の負担軽減	85	41.3	8	27.6	16	38.1	27	58.7	34	38.2
13 その他	12	5.8	5	17.2	1	2.4	3	6.5	3	3.4

Q18. 第一子の年齢 (N=202)

第一子の年齢をお聞きしたところ、未就学の人が約 22%、義務教育年代の人が約 42%、高校生年代の人が約 12%、18 歳以上は 24% で学生よりも卒業済の人が多くなっています。

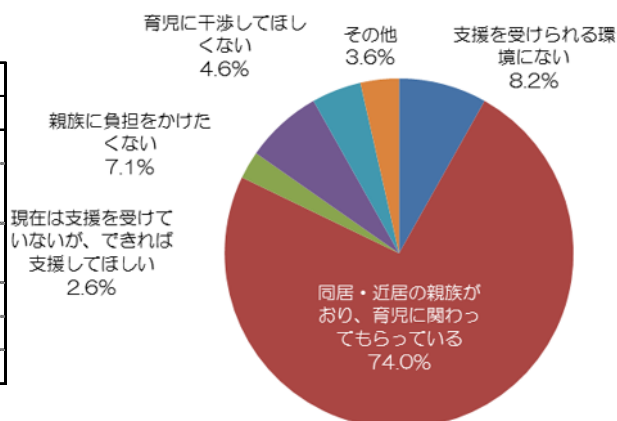
項目	件数	%
全体	202	100.0
1 1歳未満	5	2.5
2 1歳以上3歳未満	16	7.9
3 3歳以上就学前	23	11.4
4 小学校低学年	27	13.4
5 小学校高学年	25	12.4
6 中学生	33	16.3
7 中学校卒業後18歳未満	25	12.4
8 18歳以上の学生	6	3.0
9 18歳以上(卒業済)	42	20.8



Q19. 親族の育児への関わり方 (N=196)

親族の育児への関わり方をお聞きしたところ、現に同居・近居の親族(祖父母等)に関わってもらっているという人が7割で、支援を受けられる環境にない人が1割でした。

項目	件数	%
全体	196	100.0
1 支援を受けられる環境にない	16	8.2
2 同居・近居の親族がおり、育児に関わってもらっている	145	74.0
3 現在は支援を受けていないが、できれば支援してほしい	5	2.6
4 親族に負担をかけたくない	14	7.1
5 育児に干渉してほしくない	9	4.6
6 その他	7	3.6



(現在の子ども数別)

現在の子ども数別に集計したところ、「支援を受けられる環境にない」の回答率は現在子ども数1人の層で高くなっています。現に同居近居の親族(祖父母等)に関わってもらっている人の割合は現在子ども数1人と3人の層で高くなっています。現在子ども数2人の層では親族に負担をかけたくないという人の比率が1人・3人の層よりも高くなっています。

	全体		0人		1人		2人		3人		4人		5人以上	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
合計	195	100.0	1	100.0	52	100.0	91	100.0	44	100.0	6	100.0	1	100.0
1 支援を受けられる環境にない	16	8.2			9	17.3	4	4.4	2	4.5	1	16.7		
2 同居・近居の親族がおり、育児に関わってもらっている	144	73.8	1	100.0	40	76.9	63	69.2	35	79.5	4	66.7	1	100.0
3 現在は支援を受けていないが、できれば支援してほしい	5	2.6			1	1.9	3	3.3	1	2.3				
4 親族に負担をかけたくない	14	7.2			1	1.9	12	13.2	1	2.3				
5 育児に干渉してほしくない	9	4.6			1	1.9	4	4.4	4	9.1				
6 その他	7	3.6					5	5.5	1	2.3	1	16.7		

Q20. 子育てに関する悩み・不安 (N=193)

現在子育て中の人に子育てに関する悩みや不安をお聞きしたところ、「教育費等の経済的な問題」を挙げる人が圧倒的に多くなっています。教育費に関しては、現在生じている費用と将来発生する費用の両面があるものと考えられ、将来発生する教育費は子ども数を抑制する方向に働いているものと考えられます。

項目	件数	%	
1 教育費等の経済的な問題	154	79.8	
2 部屋が狭い、部屋数が少ないなど住宅の問題	36	18.7	
3 子どもの学校生活や交友関係	43	22.3	
4 近くに子供の遊び相手がいない	15	7.8	
5 同じ年頃の子どもを持つ母親・父親が身近にいない	10	5.2	
6 子どもの育て方について配偶者や親族と価値観が合わない	25	13.0	
7 子育てに配偶者や親族の参加・協力が得られない	9	4.7	
8 保育所や幼稚園などについての情報が入手しにくい	10	5.2	
9 子どもの健康管理や遊ばせ方について適当な相談相手が身近にいない	5	2.6	
10 緊急時や急な用事ができたときに子供を預けられるところがない	30	15.5	
11 子どもが安全に育つ社会環境ではない	30	15.5	
12 環境汚染や食品の安全性が心配	41	21.2	
13 その他	11	5.7	

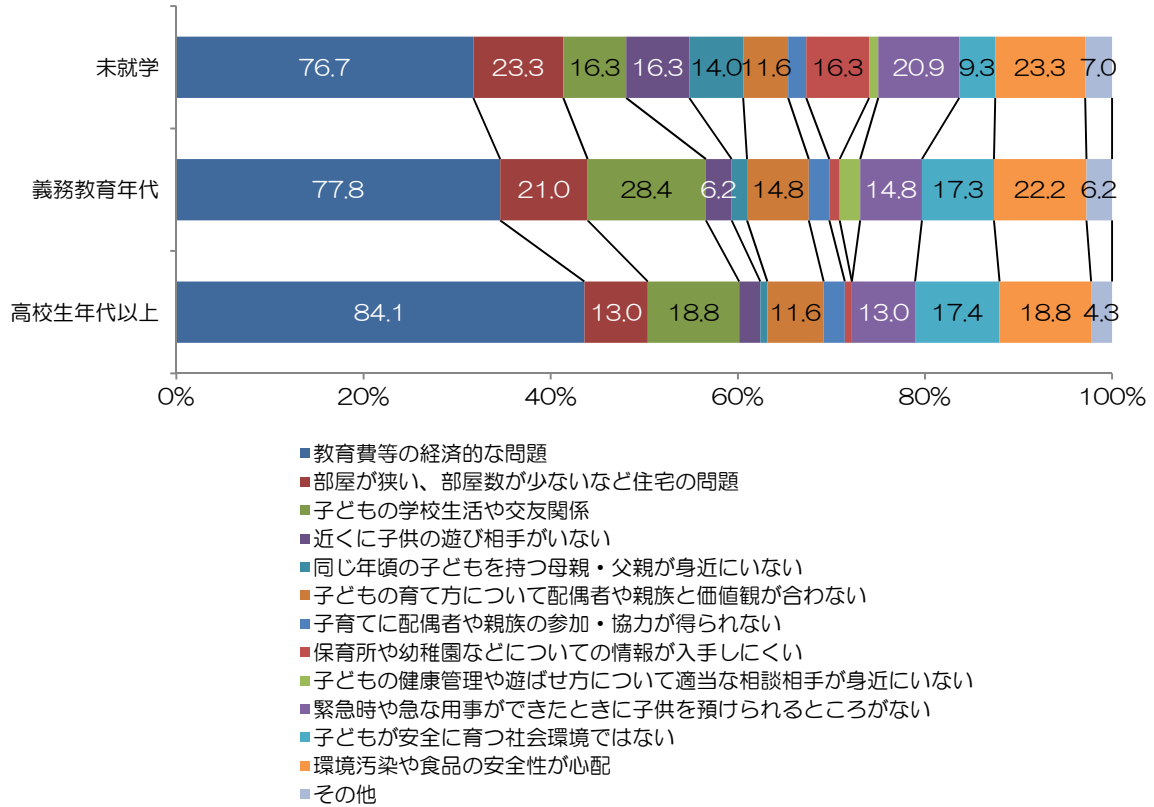
(男女別)

男女別に集計したところ、男性は女性よりも「近くに子どもの遊び相手がないこと」や「保育園・幼稚園などについての情報が入手しにくい」ことを悩みや不安としており、女性は男性よりも「子どもの学校生活や交友関係」「子どもの育て方について配偶者や親族と価値観が合わないこと」を不安に思っていることが分かります。

	全体		男		女	
	件数	%	件数	%	件数	%
合計	193	100.0	66	100.0	127	100.0
1 教育費等の経済的な問題	154	79.8	54	81.8	100	78.7
2 部屋が狭い、部屋数が少ないなど住宅の問題	36	18.7	12	18.2	24	18.9
3 子どもの学校生活や交友関係	43	22.3	13	19.7	30	23.6
4 近くに子どもの遊び相手がない	15	7.8	8	12.1	7	5.5
5 同じ年頃の子どもの持つ母親・父親が身近にいない	10	5.2	4	6.1	6	4.7
6 子どもの育て方について配偶者や親族と価値観が合わない	25	13.0	7	10.6	18	14.2
7 子育てに配偶者や親族の参加・協力が得られない	9	4.7	2	3.0	7	5.5
8 保育所や幼稚園などについての情報が入手しにくい	10	5.2	6	9.1	4	3.1
9 子どもの健康管理や遊ばせ方について適切な相談相手が身近にいない	5	2.6	2	3.0	3	2.4
10 緊急時や急な用事ができたときに子どもを預けられるところがない	30	15.5	10	15.2	20	15.7
11 子どもが安全に育つ社会環境ではない	30	15.5	11	16.7	19	15.0
12 環境汚染や食品の安全性が心配	41	21.2	13	19.7	28	22.0
13 その他	11	5.7	3	4.5	8	6.3

(第1子の年代別)

第一子の年代別に集計したところ、高校生年代以上で「教育費等の経済的な問題」の割合が高いことや、未就学児で「近くに子供の遊び相手がいない」「保育所や幼稚園などについての情報が入手しにくい」などの割合が大きくなっていることが分かります。



Q21. 子育てしやすい環境づくりのため参加したい活動 (N=393)

全ての人に子育てしやすい環境づくりのために参加したい活動をお聞きしたところ、地域の行事やお祭りなどに参加したいという方や、防犯のための声かけ・見守り、スポーツや勉強を教える活動に参加したいという人が比較的多くなっています。

こうした参加意向を踏まえ、放課後クラブなどの地域における子育て支援活動を支えるボランティアなどへの幅広い市民の参加を促すことが課題となっています。

項目	件数	%	
1 子育てに関する悩みについて相談に乗る活動	58	14.8	
2 子育てをする親同士で話ができる仲間づくりの活動	80	20.4	
3 子育てに関する情報を提供する活動	73	18.6	
4 子育て環境の家事を支援する活動	54	13.7	
5 不意の外出や親の帰りが遅くなった時などに子供を預かる活動	87	22.1	
6 子どもと一緒に遊ぶ活動	90	22.9	
7 子どもにスポーツや勉強を教える活動	105	26.7	
8 地域の伝統文化を子供に伝える環境	42	10.7	
9 子どもに自分の職場体験や人生経験を伝える活動	45	11.5	
10 小中学校の校外学習や行事をサポートする活動	49	12.5	
11 子どもの防犯のために声掛けや登下校の見守りをする活動	107	27.2	
12 子どもと大人と一緒に参加できる地域の行事やお祭りなどを行う活動	119	30.3	
13 その他	2	0.5	
14 特になし	42	10.7	

(男女別)

男女別に集計したところ、男性は①「スポーツや勉強を教える活動」、②「地域の行事やお祭りなどを行う活動」、③「防犯のための声かけや登下校の見守りをする活動」が上位であり、女性は①「地域の行事やお祭りなどを行う活動」、②「不意の外出や親の帰りが遅くなったときなどに子どもを預かる活動」、③「スポーツや勉強を教える活動」が上位でした。

	全体		男		女	
	件数	%	件数	%	件数	%
合計	392	100.0	148	100.0	244	100.0
1 子育てに関する悩みについて相談に乗る活動	58	14.8	23	15.5	35	14.3
2 子育てをする親同士で話ができる仲間づくりの活動	80	20.4	25	16.9	55	22.5
3 子育てに関する情報を提供する活動	73	18.6	22	14.9	51	20.9
4 子育て環境の家事を支援する活動	54	13.8	22	14.9	32	13.1
5 不意の外出や親の帰りが遅くなったときなどに子供を預かる活動	87	22.2	25	16.9	62	25.4
6 子どもと一緒に遊ぶ活動	90	23.0	37	25.0	53	21.7
7 子どもにスポーツや勉強を教える活動	104	26.5	45	30.4	59	24.2
8 地域の伝統文化を子供に伝える環境	42	10.7	22	14.9	20	8.2
9 子どもに自分の職場体験や人生経験を伝える活動	45	11.5	20	13.5	25	10.2
10 小中学校の校外学習や行事をサポートする活動	48	12.2	20	13.5	28	11.5
11 子どもの防犯のために声掛けや登下校の見守りをする活動	107	27.3	39	26.4	68	27.9
12 子どもと大人と一緒に参加できる地域の行事やお祭りなどを行う活動	119	30.4	43	29.1	76	31.1
13 その他	2	0.5	1	0.7	1	0.4
14 特になし	42	10.7	16	10.8	26	10.7












(年齢別)

年齢別に集計したところ、20代ではスポーツや勉強を教える活動、30代では地域の行事やお祭りなどを行う活動、40代では防犯のために声かけや登下校の見守りをする活動に参加したいという人が最も多くなっています。なお、今回の調査では高齢者を対象としていませんが、子育て経験のある高齢者をはじめとして多くの高齢者が地域の子育て支援活動に参加しており、高齢者の生きがいがいづくりにも活用されています。

	全体		10代		20代		30代		40代	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
合計	391	100.0	55	100.0	79	100.0	121	100.0	136	100.0
1 子育てに関する悩みについて相談に乗る活動	58	14.8	14	25.5	14	17.7	10	8.3	20	14.7
2 子育てをする親同士で話ができる仲間づくりの活動	79	20.2	14	25.5	21	26.6	26	21.5	18	13.2
3 子育てに関する情報を提供する活動	72	18.4	14	25.5	20	25.3	20	16.5	18	13.2
4 子育て環境の家事を支援する活動	54	13.8	12	21.8	10	12.7	18	14.9	14	10.3
5 不意の外出や親の帰りが遅くなった時などに子どもを預かる活動	86	22.0	8	14.5	20	25.3	30	24.8	28	20.6
6 子どもと一緒に遊ぶ活動	89	22.8	10	18.2	20	25.3	31	25.6	28	20.6
7 子どもにスポーツや勉強を教える活動	105	26.9	11	20.0	23	29.1	34	28.1	37	27.2
8 地域の伝統文化を子どもに伝える環境	42	10.7	1	1.8	9	11.4	19	15.7	13	9.6
9 子どもに自分の職場体験や人生経験を伝える活動	45	11.5	6	10.9	8	10.1	16	13.2	15	11.0
10 小中学校の校外学習や行事をサポートする活動	49	12.5	7	12.7	9	11.4	12	9.9	21	15.4
11 子どもの防犯のために声かけや登下校の見守りをする活動	106	27.1	11	20.0	20	25.3	30	24.8	45	33.1
12 子どもと大人が一緒に参加できる地域の行事やお祭りなどを行う活動	118	30.2	17	30.9	23	29.1	40	33.1	38	27.9
13 その他	2	0.5							2	1.5
14 特になし	42	10.7	8	14.5	7	8.9	10	8.3	17	12.5

Q22. 出生率が低下している理由 (N=385)

全ての人に出生率が低下している理由をお聞きしたところ、核家族化や子どもを預けられる環境の不足などよりも、「晩婚化・非婚化や離婚の増加」を挙げる人が多くなっています。

項目	件数	%	
1 保育所が足りないなど、子育てしながら働くための社会制度が整っていないため	134	34.8	
2 育児休暇など、子育てと両立できる職場環境が十分に整っていないため	119	30.9	
3 自分の時間を大切にしたり、自己実現を求める人が多くなっているため	143	37.1	
4 女性が社会進出できる機会が増え、婚期や出産のタイミングを逃してしまうため	146	37.9	
5 不景気やリストラなどで経済的に苦しい人が多いため	155	40.3	
6 核家族化によって日頃の生活の中で育児を助けてくれる人がなくなったため	62	16.1	
7 必要な時に一時的に子供を預けられる環境が不足しているため	38	9.9	
8 夫婦が協力して育児ができないため	35	9.1	
9 子育て中の親が社会との接点がなくなり、疎外感や孤立感を感じやすいため	10	2.6	
10 晩婚化・非婚化や離婚の増加のため	181	47.0	
11 その他	10	2.6	

(婚姻状況別)

婚姻状況別に集計したところ、独身・既婚とも1位は「晩婚化・非婚化や離婚の増加のため」を出生率低下の理由としていますが、次いで多かったのは未婚者では「経済的に苦しい人が多いため」、既婚者では「女性が社会進出できる機会が増え、婚期や出産のタイミングを逃してしまうため」でした。既婚者は自らの経験を踏まえて、独身者よりも晩婚化による子ども数の減少を強く認識していることが分かります。

	全体		配偶者なし		配偶者あり	
	件数	%	件数	%	件数	%
合計	384	100.0	158	100.0	226	100.0
1 保育所が足りないなど、子育てしながら働くための社会制度が整っていないため	134	34.9	54	34.2	80	35.4
2 育児休暇など、子育てと両立できる職場環境が十分に整っていないため	119	31.0	56	35.4	63	27.9
3 自分の時間を大切にしたり、自己実現を求める人が多くなっているため	142	37.0	60	38.0	82	36.3
4 女性が社会進出できる機会が増え、婚期や出産のタイミングを逃してしまうため	145	37.8	54	34.2	91	40.3
5 不景気やリストラなどで経済的に苦しい人が多いため	155	40.4	68	43.0	87	38.5
6 核家族化によって日頃の生活の中で育児を助けてくれる人がなくなったため	62	16.1	20	12.7	42	18.6
7 必要な時に一時的に子どもを預けられる環境が不足しているため	38	9.9	13	8.2	25	11.1
8 夫婦が協力して育児ができないため	35	9.1	14	8.9	21	9.3
9 子育て中の親が社会との接点がなくなり、疎外感や孤立感を感じやすいため	10	2.6	4	2.5	6	2.7
10 晩婚化・非婚化や離婚の増加のため	180	46.9	73	46.2	107	47.3
11 その他	10	2.6	4	2.5	6	2.7

(男女別)

男女別に集計したところ、男性は経済的背景を出生率低下の理由と考えている人が多く、女性はキャリア形成と結婚・出産のタイミングが合わないことや、働きながら子育てする環境の不備が出生率低下の理由であると考えているようです。

男性の上位3項目：

- ①不景気やリストラなどで経済的に苦しい人が多いため
- ②晩婚化・非婚化や離婚の増加のため
- ③自分の時間を大切にしたり、自己実現を求める人が多くなっているため

女性の上位3項目：

- ①晩婚化・非婚化や離婚の増加のため
- ②女性が社会進出できる機会が増え、婚期や出産のタイミングを逃してしまうため
- ③保育所が足りないなど、子育てしながら働くための社会制度が整っていないため

	全体		男		女	
	件数	%	件数	%	件数	%
合計	384	100.0	144	100.0	240	100.0
1 保育所が足りないなど、子育てしながら働くための社会制度が整っていないため	134	34.9	45	31.3	89	37.1
2 育児休暇など、子育てと両立できる職場環境が十分に整っていないため	119	31.0	42	29.2	77	32.1
3 自分の時間を大切にしたり、自己実現を求める人が多くなっているため	143	37.2	54	37.5	89	37.1
4 女性が社会進出できる機会が増え、婚期や出産のタイミングを逃してしまうため	145	37.8	40	27.8	105	43.8
5 不景気やリストラなどで経済的に苦しい人が多いため	155	40.4	68	47.2	87	36.3
6 核家族化によって日頃の生活の中で育児を助けてくれる人がなくなったため	62	16.1	27	18.8	35	14.6
7 必要な時に一時的に子どもを預けられる環境が不足しているため	38	9.9	12	8.3	26	10.8
8 夫婦が協力して育児ができないため	35	9.1	15	10.4	20	8.3
9 子育て中の親が社会との接点がなくなり、疎外感や孤立感を感じやすいため	10	2.6	3	2.1	7	2.9
10 晩婚化・非婚化や離婚の増加のため	180	46.9	59	41.0	121	50.4
11 その他	10	2.6	7	4.9	3	1.3

(年齢別)

年齢別の集計結果で結婚出産の多い20代と30代の意識を比較すると、20代は30代と比べて「子育てと両立できる職場環境が整っていないため」「経済的に苦しい人が多いため」といった、出産の手前の結婚の問題を出生率低下の問題と捉えている人が多い傾向があり、30代は20代と比べて「必要な時に一時的に子どもを預けられる環境が不足しているため」「保育所が足りないなど、子育てしながら働くための社会制度が整っていないため」といった子育てを支える社会環境の不備を理由として捉えている人が多い傾向があるようです。

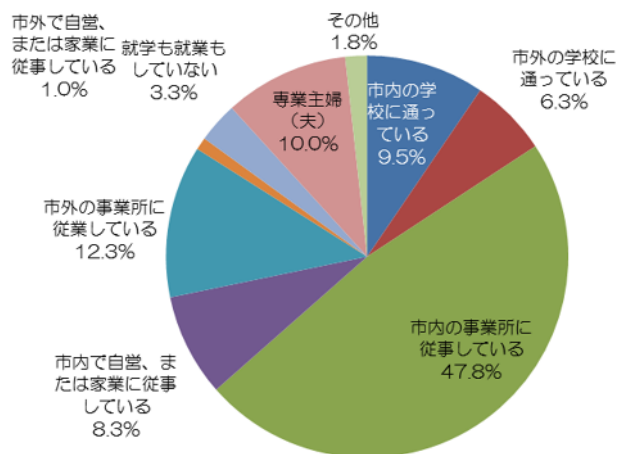
	全体		男		女	
	件数	%	件数	%	件数	%
合計	384	100.0	144	100.0	240	100.0
1 保育所が足りないなど、子育てしながら働くための社会制度が整っていないため	134	34.9	45	31.3	89	37.1
2 育児休暇など、子育てと両立できる職場環境が十分に整っていないため	119	31.0	42	29.2	77	32.1
3 自分の時間を大切にしたり、自己実現を求める人が多くなっているため	143	37.2	54	37.5	89	37.1
4 女性が社会進出できる機会が増え、婚期や出産のタイミングを逃してしまうため	145	37.8	40	27.8	105	43.8
5 不景気やリストラなどで経済的に苦しい人が多いため	155	40.4	68	47.2	87	36.3
6 核家族化によって日頃の生活の中で育児を助けてくれる人がいなくなったため	62	16.1	27	18.8	35	14.6
7 必要な時に一時的に子どもを預けられる環境が不足しているため	38	9.9	12	8.3	26	10.8
8 夫婦が協力して育児ができないため	35	9.1	15	10.4	20	8.3
9 子育て中の親が社会との接点がなくなり、疎外感や孤立感を感じやすいため	10	2.6	3	2.1	7	2.9
10 晩婚化・非婚化や離婚の増加のため	180	46.9	59	41.0	121	50.4
11 その他	10	2.6	7	4.9	3	1.3

5. 学業・しごとについて

Q23. あなたの就学・就業状況 (N=400)

本調査は 18 歳以上の市民を対象としていますが、全ての人に現在の就学・就業の状況をお聞きしたところ、このうち約 16%が在学中でした。

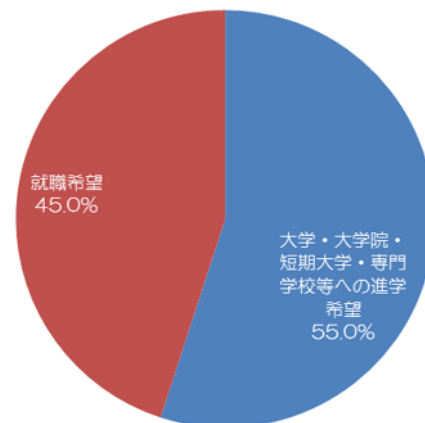
項目	件数	%
全体	400	100.0
1 市内の学校に通っている	38	9.5
2 市外の学校に通っている	25	6.3
3 市内の事業所に従事している	191	47.8
4 市内で自営、または家業に従事している	33	8.3
5 市外の事業所に従事している	49	12.3
6 市外で自営、または家業に従事している	4	1.0
7 就学も就業もしていない	13	3.3
8 専業主婦(夫)	40	10.0
9 その他	7	1.8



Q24. 卒業後の進路について (N=60)

現在在学中の人に卒業後の進路をお聞きしたところ、進学希望が 55%、就職希望が 45%となっています。

項目	件数	%
全体	60	100.0
1 大学・大学院・短期大学・専門学校等への進学希望	33	55.0
2 就職希望	27	45.0



(男女別)

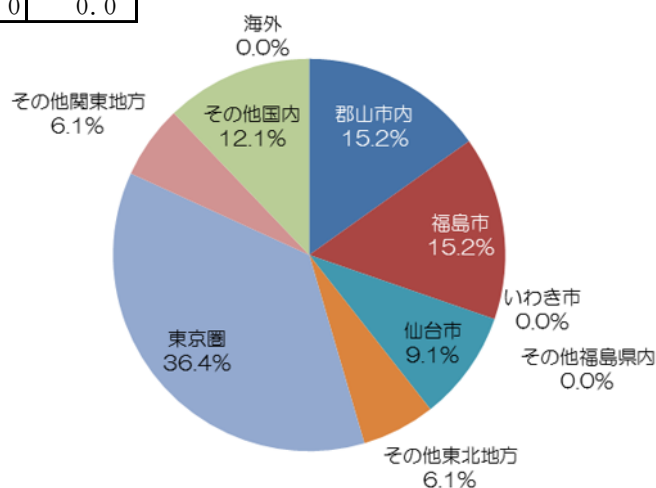
男女別の集計をしたところ、進学:就職の比率は男性で 65:35、女性で 49:51 であり、男性は進学希望者が多いものの、女性は進学と就職の希望が相半ばする結果となりました。

	全体		男		女	
	件数	%	件数	%	件数	%
合計	60	100.0	23	100.0	37	100.0
1 大学・大学院・短期大学・専門学校等への進学希望	33	55.0	15	65.2	18	48.6
2 就職希望	27	45.0	8	34.8	19	51.4

Q25. 進学を希望する学校の所在地 (N=33)

進学希望者に進学希望先の学校の所在地をお聞きしたところ東京圏と答えた人が4割で、郡山市内・福島市と答えた人がそれぞれ約 15%でした。

項目	件数	%
全体	33	100.0
1 郡山市内	5	15.2
2 福島市	5	15.2
3 いわき市	0	0.0
4 その他福島県内	0	0.0
5 仙台市	3	9.1
6 その他東北地方	2	6.1
7 東京圏	12	36.4
8 その他関東地方	2	6.1
9 その他国内	4	12.1
10 海外	0	0.0



(男女別)

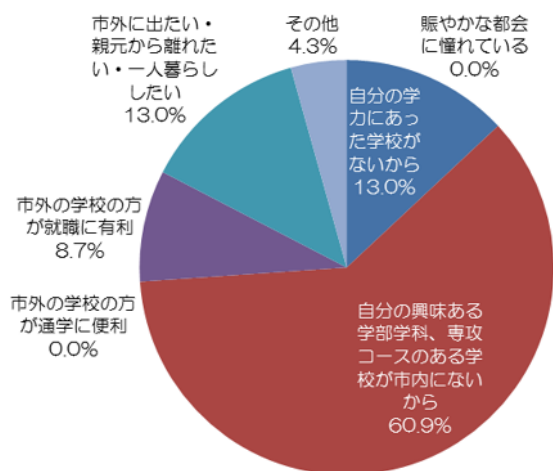
男女別集計を行ったところ、女性は郡山市内または福島市への進学希望が多く、男性は半数以上が東京圏への進学希望となっています。

	全体		男		女	
	件数	%	件数	%	件数	%
合計	33	100.0	15	100.0	18	100.0
1 郡山市内	5	15.2	1	6.7	4	22.2
2 福島市	5	15.2	1	6.7	4	22.2
3 いわき市						
4 その他福島県内						
5 仙台市	3	9.1	1	6.7	2	11.1
6 その他東北地方	2	6.1	1	6.7	1	5.6
7 東京圏	12	36.4	8	53.3	4	22.2
8 その他関東地方	2	6.1			2	11.1
9 その他国内	4	12.1	3	20.0	1	5.6
10 海外						

Q26. 市外に進学希望する理由 (N=23)

市外への進学を希望した人にその理由をお聞きしたところ、「自分の興味ある学部学科等のある学校が市内にない」が最も多く約 61%、次いで「自分の学力にあった学校がないから」が約 13%でした。

項目	件数	%
全体	23	100.0
1 自分の学力にあった学校がないから	3	13.0
2 自分の興味ある学部学科、専攻コースのある学校が市内にないから	14	60.9
3 市外の学校の方が通学に便利	0	0.0
4 市外の学校の方が就職に有利	2	8.7
5 市外に出たい・親元から離れたたい・一人暮らししたい	3	13.0
6 賑やかな都会に憧れている	0	0.0
7 その他	1	4.3



(男女別)

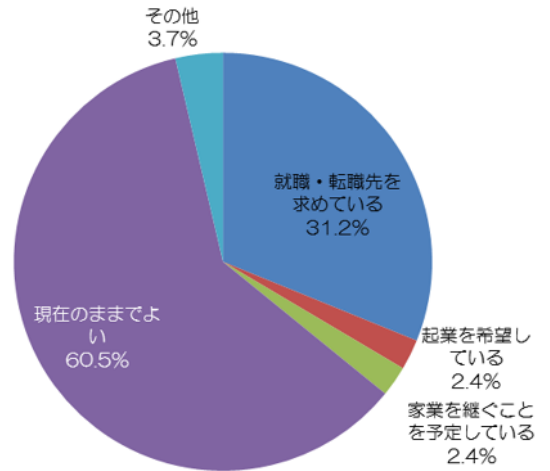
男女別集計を行ったところ、男性は女性に比べて「自分の学力に合った学校がない」「市外に出たい・親元から離れたたい・一人暮らしがしたい」を市外への進学を希望する理由として挙げる割合が高くなっています。

	全体		男		女	
	件数	%	件数	%	件数	%
合計	23	100.0	12	100.0	11	100.0
1 自分の学力にあった学校がないから	3	13.0	3	25.0		
2 自分の興味ある学部学科、専攻コースのある学校が市内にないから	14	60.9	5	41.7	9	81.8
3 市外の学校の方が通学に便利						
4 市外の学校の方が就職に有利	2	8.7	1	8.3	1	9.1
5 市外に出たい・親元から離れたたい・一人暮らししたい	3	13.0	3	25.0		
6 賑やかな都会に憧れている						
7 その他	1	4.3			1	9.1

Q27. あなたの求職状況 (N=382)

全ての人に現在の求職状況をお聞きしたところ、31%が「就職・転職先を求めている」としており、その内訳は在学中の学生は約25%、卒業後の人は約75%です。

項目	件数	%
全体	382	100.0
1 就職・転職先を求めている	119	31.2
2 起業を希望している	9	2.4
3 家業を継ぐことを予定している	9	2.4
4 現在のままでよい	231	60.5
5 その他	14	3.7



(就学・就業状況別)

現在の就学・就業状況別に集計したところ、専業主婦の約半数が就職・転職先を求めており、既婚女性の雇用の場が求められていることが分かります。

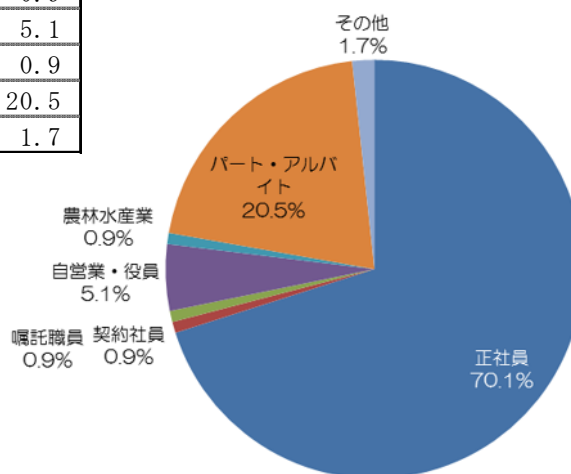
	全体		高校在学中		専門学校在学中		大学・短期大学在学中		大学院在学中		正社員		契約社員	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
合計	376	100.0	17	100.0	4	100.0	19	100.0	2	100.0	158	100.0	22	100.0
1 就職・転職先を求めている	116	30.9	11	64.7	1	25.0	14	73.7	2	100.0	32	20.3	8	36.4
2 起業を希望している	9	2.4									6	3.8	1	4.5
3 家業を継ぐことを予定している	9	2.4												
4 現在のままでよい	228	60.6	3	17.6			4	21.1			119	75.3	13	59.1
5 その他	14	3.7	3	17.6	3	75.0	1	5.3			1	0.6		

	嘱託職員		自営業・役員		農林水産業		パート・アルバイト		専業主婦		無職		その他	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
合計	3	100.0	33	100.0	3	100.0	54	100.0	41	100.0	12	100.0	8	100.0
1 就職・転職先を求めている							14	25.9	22	53.7	9	75.0	3	37.5
2 起業を希望している	1	33.3					1	1.9						
3 家業を継ぐことを予定している			6	18.2					2	4.9	1	8.3		
4 現在のままでよい	2	66.7	27	81.8	2	66.7	36	66.7	15	36.6	2	16.7	5	62.5
5 その他					1	33.3	3	5.6	2	4.9				

Q28. 希望する就業形態 (N=117)

現在就職・転職を希望している人に対して希望する就業形態をお聞きしたところ、約70%が正社員での就業を求めており、パート・アルバイトでの就業を求めている人は約 21%となっています。

項目	件数	%
全体	117	100.0
1 正社員	82	70.1
2 契約社員	1	0.9
3 嘱託職員	1	0.9
4 自営業・役員	6	5.1
5 農林水産業	1	0.9
6 パート・アルバイト	24	20.5
7 その他	2	1.7



(在学中・既卒別)

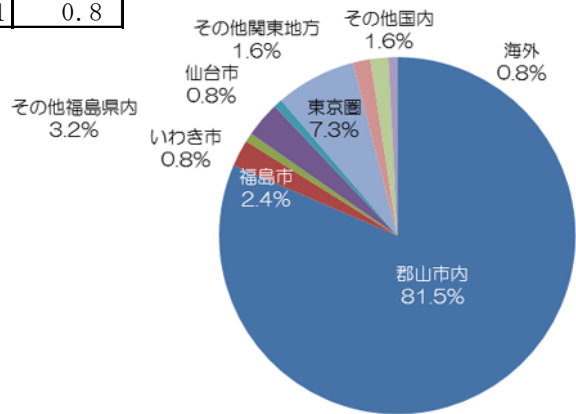
在学中と既卒者別の集計を見てみると、学生はほぼ正社員での就業を望んでいますが、既卒者は6割が正社員、3割がパート・アルバイトでの就業を望んでいます。

	全体		在学中		既卒	
	件数	%	件数	%	件数	%
合計	114	100.0	25	100.0	89	100.0
1 正社員	79	69.3	24	96.0	55	61.8
2 契約社員	1	0.9			1	1.1
3 嘱託職員	1	0.9			1	1.1
4 自営業・役員	6	5.3			6	6.7
5 農林水産業	1	0.9			1	1.1
6 パート・アルバイト	24	21.1			24	27.0
7 その他	2	1.8	1	4.0	1	1.1

Q29. 就業を希望する事業所の所在地（就業希望者等）（N=124）

就職希望者に就職・就業希望先をお聞きしたところ、郡山市内と答えた人が8割に上り、地元で働きたい人が多いことが分かります。

項目	件数	%
全体	124	100.0
1 郡山市内	101	81.5
2 福島市	3	2.4
3 いわき市	1	0.8
4 その他福島県内	4	3.2
5 仙台市	1	0.8
6 その他東北地方	0	0.0
7 東京圏	9	7.3
8 その他関東地方	2	1.6
9 その他国内	2	1.6
10 海外	1	0.8



(在学中・既卒別)

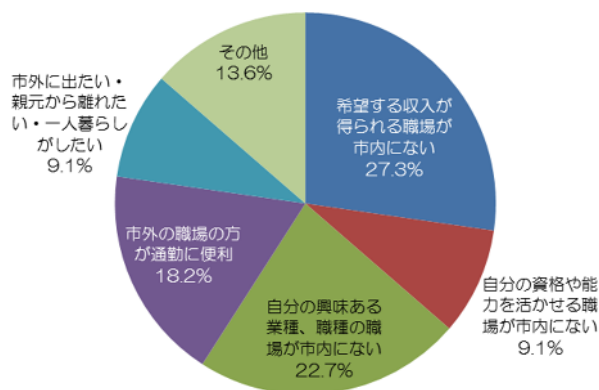
在学中と既卒者別の集計を見てみると、既卒者と比べて在学中の学生は市外での就職を望んでいる割合が高く、2割が東京圏への就職を望んでいることが分かりました。

	全体		在学中		既卒	
	件数	%	件数	%	件数	%
合計	121	100.0	28	100.0	93	100.0
1 郡山市内	98	81.0	15	53.6	83	89.2
2 福島市	3	2.5	2	7.1	1	1.1
3 いわき市	1	0.8	1	3.6		
4 その他福島県内	4	3.3			4	4.3
5 仙台市	1	0.8			1	1.1
6 その他東北地方						
7 東京圏	9	7.4	6	21.4	3	3.2
8 その他関東地方	2	1.7	1	3.6	1	1.1
9 その他国内	2	1.7	2	7.1		
10 海外	1	0.8	1	3.6		

Q30. 市外で働きたい理由 (N=22)

市外での就業を望んでいる人にその理由をお聞きしたところ、「希望する収入が得られる職場が市内にない」が最も多く、「興味ある業種、職種の職場が市内にない」が続いています。

項目	件数	%
全 体	22	100.0
1 希望する収入が得られる職場が市内にない	6	27.3
2 自分の資格や能力を活かせる職場が市内にない	2	9.1
3 自分の興味ある業種、職種の職場が市内にない	5	22.7
4 市外の職場の方が通勤に便利	4	18.2
5 市外に出たい・親元から離れたい・一人暮らしがしたい	2	9.1
6 賑やかな都会に憧れている	0	0.0
7 地元に知人が少ない	0	0.0
8 市内には取引先や顧客が少ない	0	0.0
9 その他	3	13.6



(在学中・既卒別)

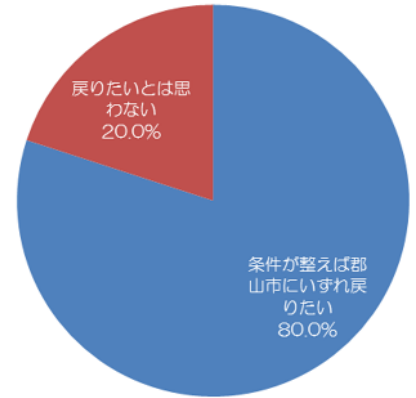
在学中・既卒別に集計したところ、学生では「自分の資格や能力を活かせる職場が市内にない」「興味ある業種、職種の職場が市内にない」の割合が既卒者より高く、既卒者では「市外に出たい・親元から離れたい・一人暮らしがしたい」の割合が高くなっています。

	全 体		在 学 中		既 卒	
	件数	%	件数	%	件数	%
合計	22	100.0	12	100.0	10	100.0
1 希望する収入が得られる職場が市内にない	6	27.3	3	25.0	3	30.0
2 自分の資格や能力を活かせる職場が市内にない	2	9.1	2	16.7		
3 自分の興味ある業種、職種の職場が市内にない	5	22.7	4	33.3	1	10.0
4 市外の職場の方が通勤に便利	4	18.2	2	16.7	2	20.0
5 市外に出たい・親元から離れたい・一人暮らしがしたい	2	9.1			2	20.0
6 賑やかな都会に憧れている						
7 地元に知人が少ない						
8 市内には取引先や顧客が少ない						
9 その他	3	13.6	1	8.3	2	20.0

Q31. Uターン意向 (N=20)

市外への就職・就業を希望される人に将来の再転入意向をお聞きしたところ、条件が整えばいずれ郡山市に戻りたいという人が8割にのびりました。

項目	件数	%
全体	20	100.0
1 条件が整えば郡山市にいずれ戻りたい	16	80.0
2 戻りたいとは思わない	4	20.0
3 市外への転居は考えていない	0	0.0



(在学中・既卒別)

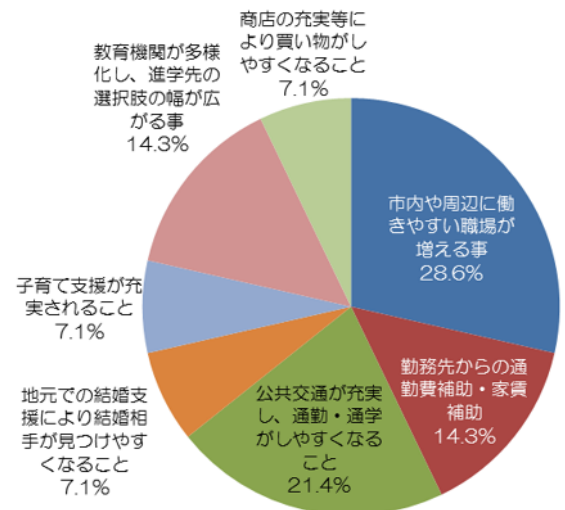
在学中・既卒別に集計したところ、在学中・既卒とも就職・就業で市外に転居してもいずれは郡山市に戻りたいという人がそうでない人を上回りました。

	全体		在学中		既卒	
	件数	%	件数	%	件数	%
合計	20	100.0	10	100.0	10	100.0
1 条件が整えば郡山市にいずれ戻りたい	16	80.0	7	70.0	9	90.0
2 戻りたいとは思わない	4	20.0	3	30.0	1	10.0
3 市外への転居は考えていない						

Q32. Uターンに必要なこと (N=14)

郡山市にいずれ戻りたいとお答えの人に、戻る条件として必要なことをお聞きしたところ、市内や周辺に働きやすい職場が増えることを望んだ人が3割、公共交通の充実を望んだ人が2割となっています。

項目	件数	%
全体	14	100.0
1 市内や周辺に働きやすい職場が増える事	4	28.6
2 勤務先からの通勤費補助・家賃補助	2	14.3
3 公共交通が充実し、通勤・通学がしやすくなること	3	21.4
4 希望に近い住宅が増える事	0	0.0
5 行政による住宅取得支援	0	0.0
6 地元での結婚支援により結婚相手が見つげやすくなること	1	7.1
7 子育て支援が充実されること	1	7.1
8 教育機関が多様化し、進学先の選択肢の幅が広がる事	2	14.3
9 商店の充実等により買い物がしやすくなること	1	7.1
10 その他	0	0.0

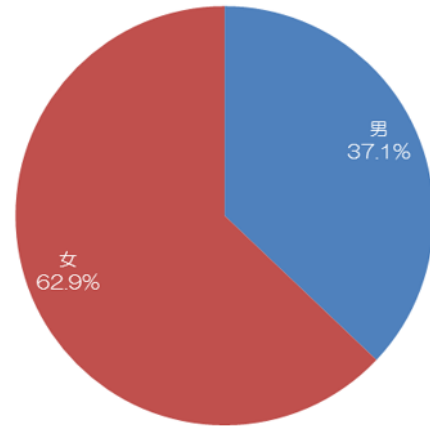


6. 回答者の属性

集計解析に活用するため、回答者の属性をお聞きした結果は以下の通りです。

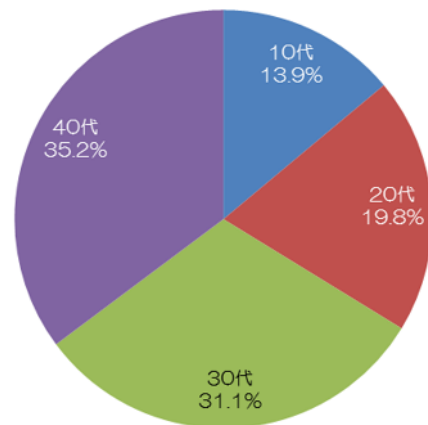
Q33. 性別 (N=410)

項目	件数	%
全体	410	100.0
1 男	152	37.1
2 女	258	62.9



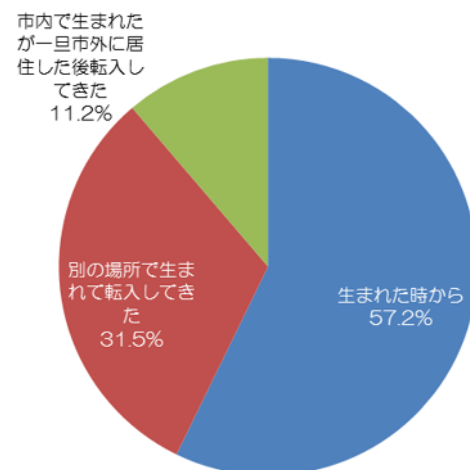
Q34. 年齢 (N=409)

項目	件数	%
全体	409	100.0
1 10代	57	13.9
2 20代	81	19.8
3 30代	127	31.1
4 40代	144	35.2



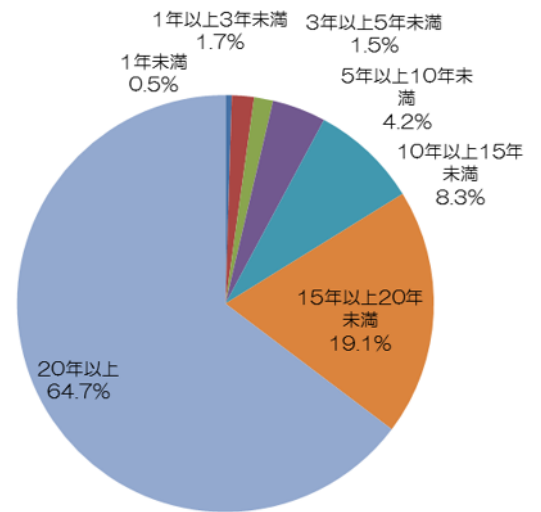
Q35. いつから郡山市に住んでいるか (N=409)

項目	件数	%
全体	409	100.0
1 生まれた時から	234	57.2
2 別の場所で生まれて転入してきた	129	31.5
3 市内で生まれたが一旦市外に居住した後転入してきた	46	11.2



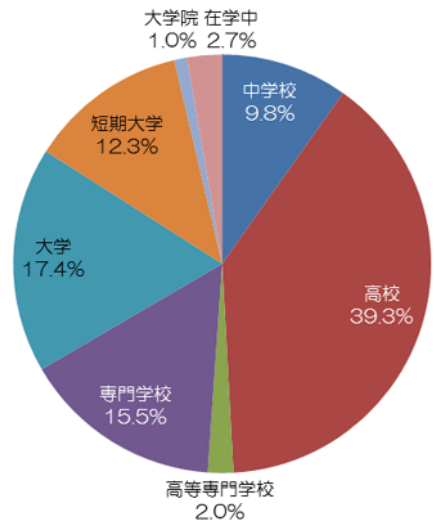
Q36. 郡山市での通算居住年数 (N=408)

項目	件数	%
全体	408	100.0
1 1年未満	2	0.5
2 1年以上3年未満	7	1.7
3 3年以上5年未満	6	1.5
4 5年以上10年未満	17	4.2
5 10年以上15年未満	34	8.3
6 15年以上20年未満	78	19.1
7 20年以上	264	64.7



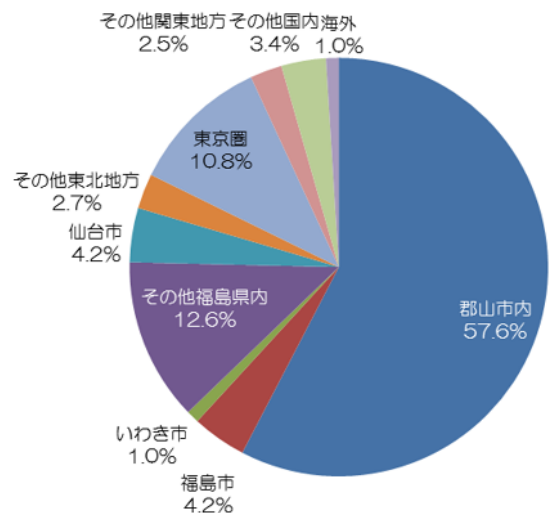
Q37. 最後に卒業した学校の種別 (N=407)

項目	件数	%
全体	407	100.0
1 中学校	40	9.8
2 高校	160	39.3
3 高等専門学校	8	2.0
4 専門学校	63	15.5
5 大学	71	17.4
6 短期大学	50	12.3
7 大学院	4	1.0
8 在学中	11	2.7



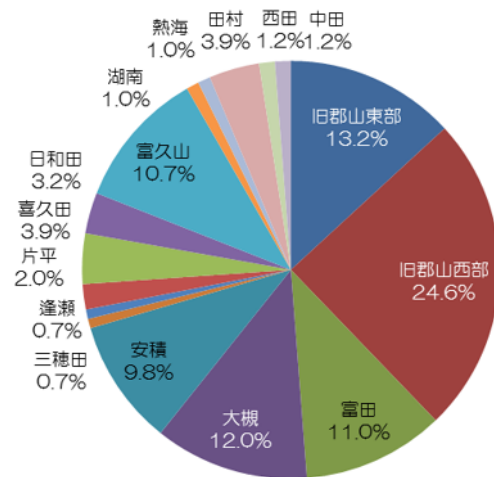
Q38. 最後に卒業した学校の場所 (N=406)

項目	件数	%
全体	406	100.0
1 郡山市内	234	57.6
2 福島市	17	4.2
3 いわき市	4	1.0
4 その他福島県内	51	12.6
5 仙台市	17	4.2
6 その他東北地方	11	2.7
7 東京圏	44	10.8
8 その他関東地方	10	2.5
9 その他国内	14	3.4
10 海外	4	1.0



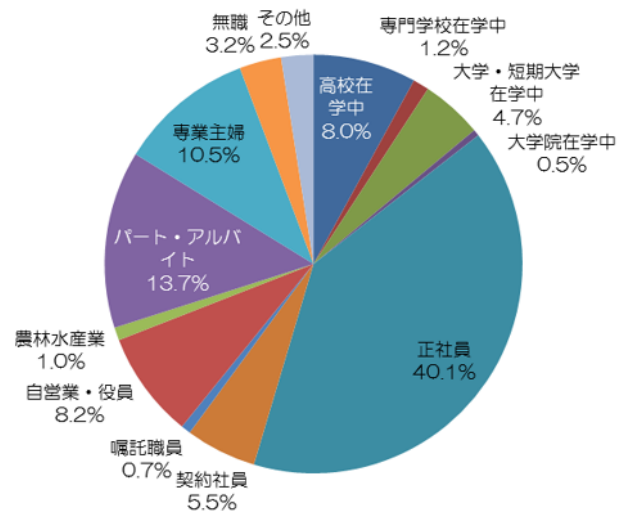
Q39. 居住地域 (N=410)

項目	件数	%
全体	410	100.0
1 旧郡山東部	54	13.2
2 旧郡山西部	101	24.6
3 富田	45	11.0
4 大槻	49	12.0
5 安積	40	9.8
6 三穂田	3	0.7
7 逢瀬	3	0.7
8 片平	8	2.0
9 喜久田	16	3.9
10 日和田	13	3.2
11 富久山	44	10.7
12 湖南	4	1.0
13 熱海	4	1.0
14 田村	16	3.9
15 西田	5	1.2
16 中田	5	1.2



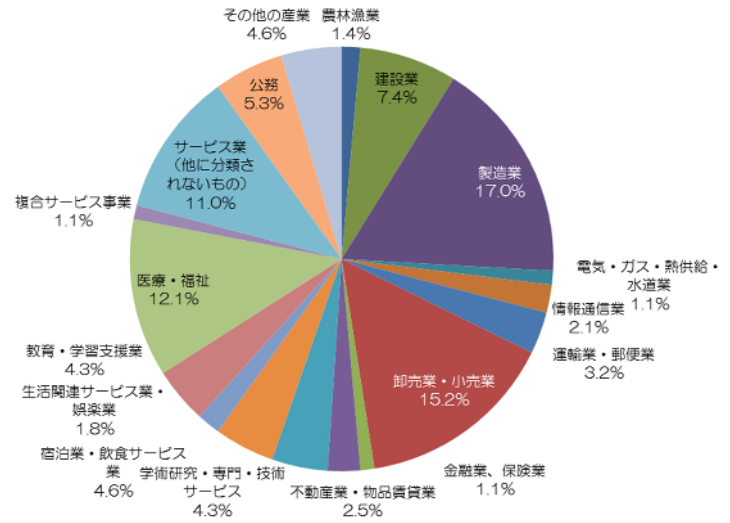
Q40. 現在の就学・就業状況 (N=401)

項目	件数	%
全体	401	100.0
1 高校在学中	32	8.0
2 専門学校在学中	5	1.2
3 大学・短期大学在学中	19	4.7
4 大学院在学中	2	0.5
5 正社員	161	40.1
6 契約社員	22	5.5
7 嘱託職員	3	0.7
8 自営業・役員	33	8.2
9 農林水産業	4	1.0
10 パート・アルバイト	55	13.7
11 専業主婦	42	10.5
12 無職	13	3.2
13 その他	10	2.5



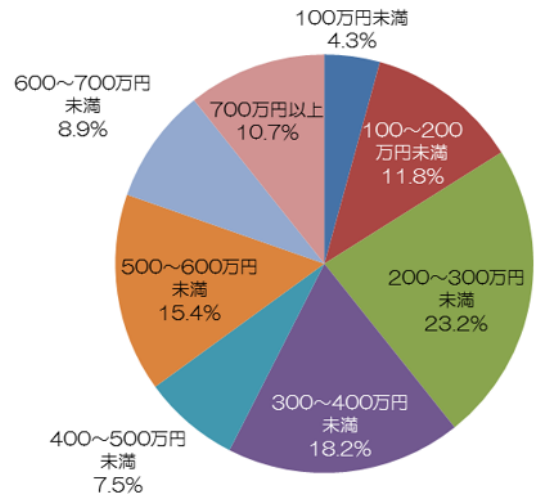
Q41. 現在勤務されている主な業種 (N=282)

項目	件数	%
全体	282	100.0
1 農林漁業	4	1.4
2 工業、採石業、砂利採取業	0	0.0
3 建設業	21	7.4
4 製造業	48	17.0
5 電気・ガス・熱供給・水道業	3	1.1
6 情報通信業	6	2.1
7 運輸業・郵便業	9	3.2
8 卸売業・小売業	43	15.2
9 金融業、保険業	3	1.1
10 不動産業・物品賃貸業	7	2.5
11 学術研究・専門・技術サービス	12	4.3
12 宿泊業・飲食サービス業	13	4.6
13 生活関連サービス業・娯楽業	5	1.8
14 教育・学習支援業	12	4.3
15 医療・福祉	34	12.1
16 複合サービス事業	3	1.1
17 サービス業 (他に分類されないもの)	31	11.0
18 公務	15	5.3
19 その他の産業	13	4.6



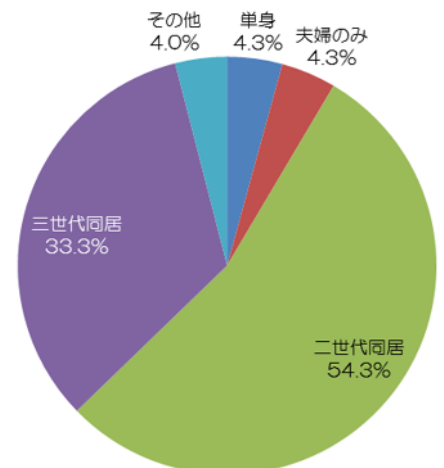
Q42. 世帯の年間収入総額 (N=280)

項目	件数	%
全体	280	100.0
1 100万円未満	12	4.3
2 100～200万円未満	33	11.8
3 200～300万円未満	65	23.2
4 300～400万円未満	51	18.2
5 400～500万円未満	21	7.5
6 500～600万円未満	43	15.4
7 600～700万円未満	25	8.9
8 700万円以上	30	10.7



Q43. 家族構成 (N=400)

項目	件数	%
全体	400	100.0
1 単身	17	4.3
2 夫婦のみ	17	4.3
3 二世帯同居	217	54.3
4 三世帯同居	133	33.3
5 その他	16	4.0



B. 転入者アンケート調査

1. 調査の概要

本調査は、近年本市に転入した結婚・出産・子育て期の方々を対象に、転入理由や郡山市とのももとの関わり、今後の居住継続意向などについて調査し、新規居住者の増加にむけた課題、新規居住者の定住促進に必要な施策などについての検討に資するために実施しました。主な調査内容は「前住地について」「転入の状況、転入理由について」「居住環境への評価、居住継続意向について」です。

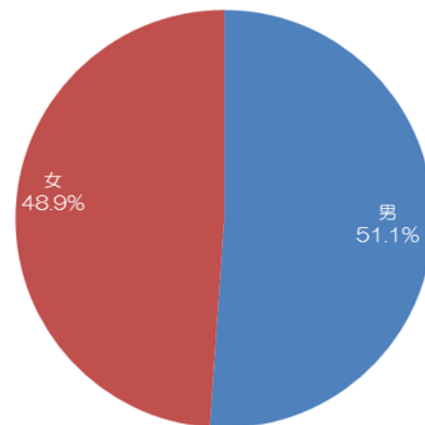
調査対象者は平成27年4月1日から平成27年7月1日までの間に郡山市に市外から転入された18歳～49歳(抽出時点の満年齢)の市民から無作為に抽出した200名です。200票の配布に対して、45票の回答があり、回収率は22.5%となりました。

2. 回答者の属性

集計解析に活用するため、回答者の属性をお聞きした結果は以下の通りです。

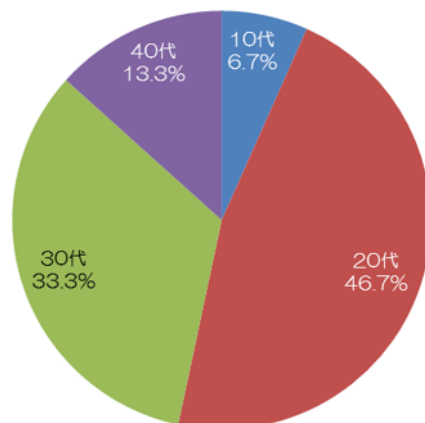
Q1. 性別 (N=45)

項目	件数	%
全体	45	100.0
1 男	23	51.1
2 女	22	48.9



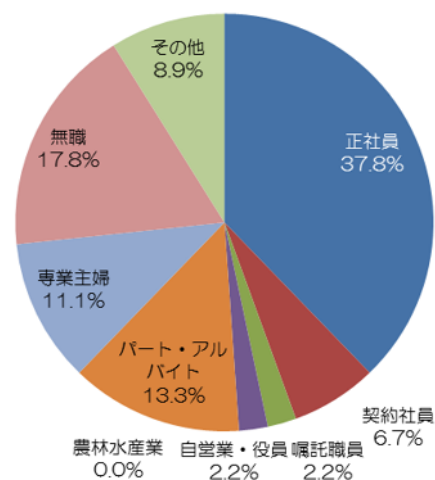
Q2. 年齢 (N=45)

項目	件数	%
全体	45	100.0
1 10代	3	6.7
2 20代	21	46.7
3 30代	15	33.3
4 40代	6	13.3



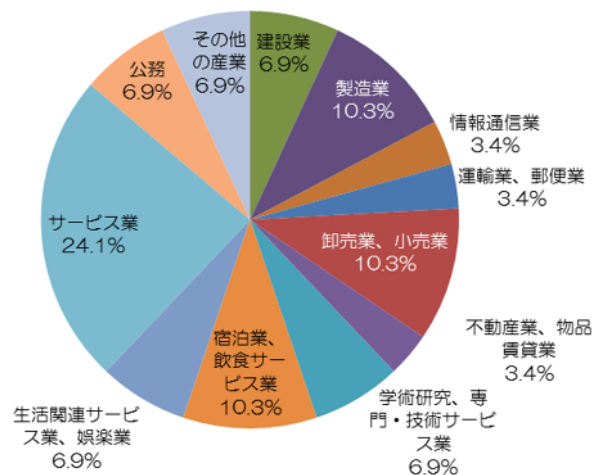
Q3. 現在の就業形態 (N=45)

項目	件数	%
全体	45	100.0
1 正社員	17	37.8
2 契約社員	3	6.7
3 嘱託職員	1	2.2
4 自営業・役員	1	2.2
5 農林水産業	0	0.0
6 パート・アルバイト	6	13.3
7 専業主婦	5	11.1
8 無職	8	17.8
9 その他	4	8.9



Q4. 現在勤務されている主な業種 (N=29)

項目	件数	%
全体	29	100.0
1 農林漁業	0	0.0
2 鉱業、採石業、砂利採取業	0	0.0
3 建設業	2	6.9
4 製造業	3	10.3
5 電気・ガス・熱供給・水道業	0	0.0
6 情報通信業	1	3.4
7 運輸業、郵便業	1	3.4
8 卸売業、小売業	3	10.3
9 金融業、保険業	0	0.0
10 不動産業、物品賃貸業	1	3.4
11 学術研究、専門・技術サービス業	2	6.9
12 宿泊業、飲食サービス業	3	10.3
13 生活関連サービス業、娯楽業	2	6.9
14 教育、学習支援業	0	0.0
15 医療、福祉	0	0.0
16 複合サービス業	0	0.0
17 サービス業	7	24.1
18 公務	2	6.9
19 その他の産業	2	6.9

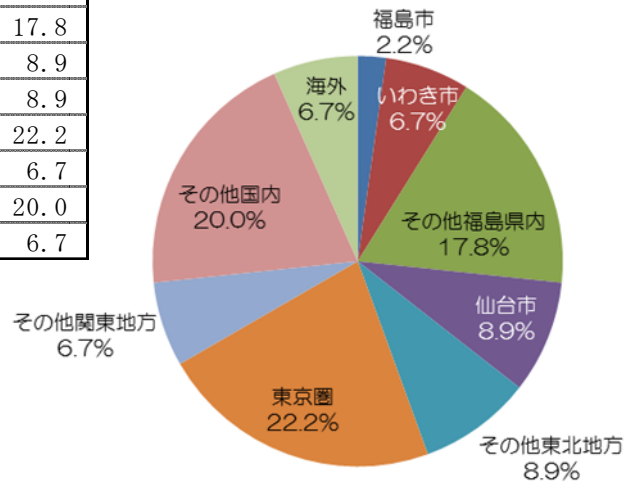


3. 前住地について

Q5. 転入前の居住地 (N=45)

郡山市に転入する前の居住地をお聞きしたところ、福島県内が約27%、東京圏が約22%、東北・関東以外が約20%でした。海外からの転入者もあり、広いエリアから転入していることが分かります。

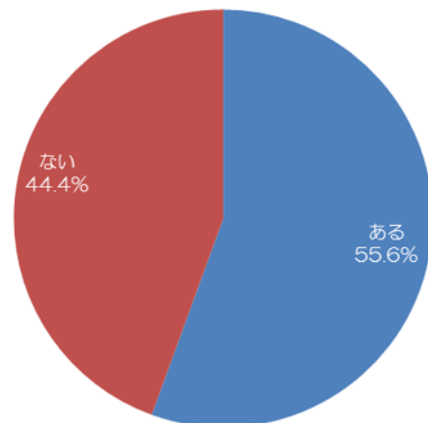
項目	件数	%
全体	45	100.0
1 福島市	1	2.2
2 いわき市	3	6.7
3 その他福島県内	8	17.8
4 仙台市	4	8.9
5 その他東北地方	4	8.9
6 東京圏	10	22.2
7 その他関東地方	3	6.7
8 その他国内	9	20.0
9 海外	3	6.7



Q6. 以前に郡山市に住んだことはあるか (N=45)

以前に郡山市に住んだことがあるかお聞きしたところ、約56%が住んだことがある方であり、元々地縁のあった人が多いことが分かります。

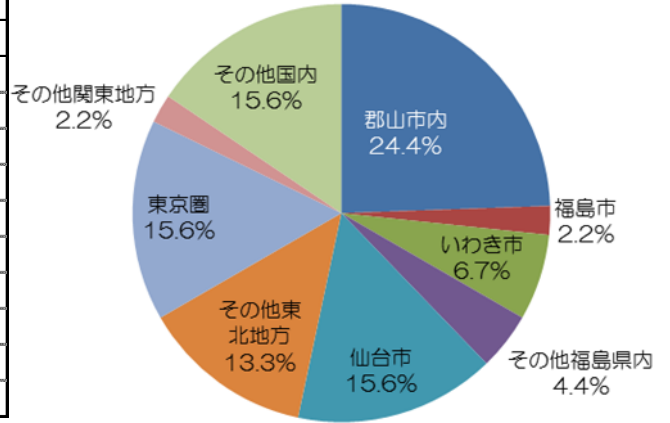
項目	件数	%
全体	45	100.0
1 ある	25	55.6
2 ない	20	44.4



Q7. 最後に卒業した学校の場所 (N=45)

郡山市内の学校を卒業した人が約 24%、福島県以外の東北地方の学校を卒業した人が約 29%、東京圏の学校を卒業した人は約 16%となっており、あまり偏りの見られない結果となりました。

項目	件数	%
全体	45	100.0
1 郡山市内	11	24.4
2 福島市	1	2.2
3 いわき市	3	6.7
4 その他福島県内	2	4.4
5 仙台市	7	15.6
6 その他東北地方	6	13.3
7 東京圏	7	15.6
8 その他関東地方	1	2.2
9 その他国内	7	15.6
10 海外	0	0.0

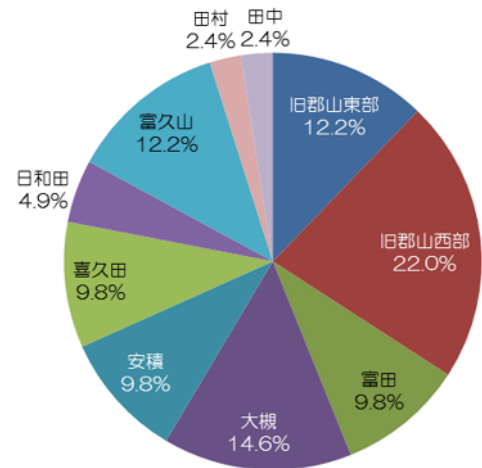


4. 転入の状況、転入理由について

Q8. 現在の郡山市における居住地域 (N=41)

転入者の転入先地域は旧郡山市・富田大槻・安積・富久山などの市街地8割、片平・喜久田・日和田などの周辺市街地が1割、その他が東部地域という構成になっており、今回の調査では西部地域への転入者の回答はありませんでした。

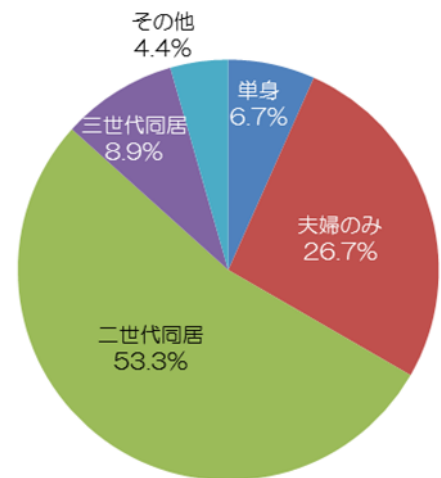
項目	件数	%
全体	41	100.0
1 旧郡山東部	5	12.2
2 旧郡山西部	9	22.0
3 富田	4	9.8
4 大槻	6	14.6
5 安積	4	9.8
6 三穂田	0	0.0
7 逢瀬	0	0.0
8 片平	0	0.0
9 喜久田	4	9.8
10 日和田	2	4.9
11 富久山	5	12.2
12 湖南	0	0.0
13 熱海	0	0.0
14 田村	1	2.4
15 西田	0	0.0
16 田中	1	2.4



Q9. 家族構成 (N=45)

子育て中の核家族または実家に帰った親と子の二世帯同居の世帯の人が多く約半数。次いで子どものいない夫婦のみ世帯が約 27%、単身世帯や三世帯同居の割合は1割未満となっています。

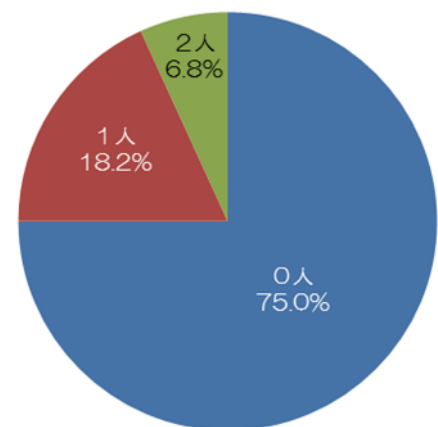
項目	件数	%
全体	45	100.0
1 単身	3	6.7
2 夫婦のみ	12	26.7
3 二世帯同居	24	53.3
4 三世帯同居	4	8.9
5 その他	2	4.4



Q10. 子どもの数 (N=44)

子どもの数は0人が約 75%、1人が約 18%、2人が約 7%となっています。

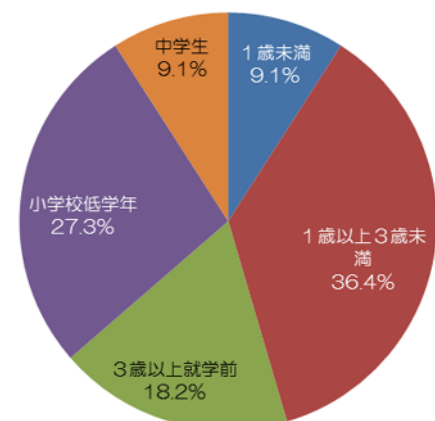
項目	件数	%
全体	44	100.0
1 0人	33	75.0
2 1人	8	18.2
3 2人	3	6.8
4 3人	0	0.0
5 4人	0	0.0
6 5人以上	0	0.0



Q11. 第一子の年齢 (N=11)

本調査の調査対象は18歳～49歳ですが、子どものいる世帯のうち、第1子が3歳未満の世帯が約 36%、3歳以上が 64%となっています。最も多かったのは1歳以上3歳未満でした。

項目	件数	%
全体	11	100.0
1 1歳未満	1	9.1
2 1歳以上3歳未満	4	36.4
3 3歳以上就学前	2	18.2
4 小学校低学年	3	27.3
5 小学校高学年	0	0.0
6 中学生	1	9.1
7 中学校卒業後18歳未満	0	0.0
8 18歳以上の学生	0	0.0
9 18歳以上 (卒業済み)	0	0.0



Q12. 転入の理由 (N=45)

転入の理由をお聞きしたところ、「自分の就職・転職のため」が3割で最も多く、「自分の転勤」「結婚のため」「出身地だから」が2割で並んでいます。

項目	件数	%	
1 自分の就職・転職のため	15	33.3	
2 自分の転勤のため	8	17.8	
3 配偶者の就職・転職のため	3	6.7	
4 配偶者の転勤のため	3	6.7	
5 お子さんの仕事のため	0	0.0	
6 自分または配偶者の退職のため	2	4.4	
7 自分または配偶者が家業を継ぐため	0	0.0	
8 自分または配偶者の進学のため	2	4.4	
9 お子さんの進学のため	1	2.2	
10 結婚のため	8	17.8	
11 離婚のため	1	2.2	
12 住宅の購入等のため	0	0.0	
13 親などの介護や見守りのため	2	4.4	
14 生活環境を変えるため	2	4.4	
15 出身地だから	8	17.8	
16 知人がいたから	0	0.0	
17 土地や建物があったから	3	6.7	
18 その他	2	4.4	

(男女別)

男女別に集計したところ、男性は「自身の就職・転職・転勤のため」という回答がほとんどでしたが、女性に関しては「結婚のため」「配偶者の転勤の就職・転勤のため」が多くなっています。

	全体		男		女	
	件数	%	件数	%	件数	%
合計	45	100.0	23	100.0	22	100.0
1 自身の就職・転職のため	15	33.3	10	43.5	5	22.7
2 自身の転勤のため	8	17.8	6	26.1	2	9.1
3 配偶者の就職・転職のため	3	6.7	1	4.3	2	9.1
4 配偶者の転勤のため	3	6.7			3	13.6
5 お子さんの仕事のため						
6 自分または配偶者の退職のため	2	4.4	2	8.7		
7 自分または配偶者が家業を継ぐため						
8 自分または配偶者の進学のため	2	4.4	1	4.3	1	4.5
9 お子さんの進学のため	1	2.2			1	4.5
10 結婚のため	8	17.8	1	4.3	7	31.8
11 離婚のため	1	2.2			1	4.5
12 住宅の購入等のため						
13 親などの介護や見守りのため	2	4.4	1	4.3	1	4.5
14 生活環境を変えるため	2	4.4	1	4.3	1	4.5
15 出身地だから	8	17.8	3	13.0	5	22.7
16 知人がいたから						
17 土地や建物があったから	3	6.7	2	8.7	1	4.5
18 その他	2	4.4	1	4.3	1	4.5

(年齢別)

年齢別集計結果から転入者の多い20代と30代を比較したところ、20代では「就職・転職のため」が多く、30代では「転勤のため」が多くなっています。また、「結婚のため」についてはほとんどが20代となっています。

	全体		10代		20代		30代		40代	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
合計	45	100.0	3	100.0	21	100.0	15	100.0	6	100.0
1 自分の就職・転職のため	15	33.3	1	33.3	10	47.6	3	20.0	1	16.7
2 自分の転勤のため	8	17.8			1	4.8	6	40.0	1	16.7
3 配偶者の就職・転職のため	3	6.7			3	14.3				
4 配偶者の転勤のため	3	6.7					2	13.3	1	16.7
5 お子さんの仕事のため										
6 自分または配偶者の退職のため	2	4.4			1	4.8	1	6.7		
7 自分または配偶者が家業を継ぐため										
8 自分または配偶者の進学のため	2	4.4	2	66.7						
9 お子さんの進学のため	1	2.2					1	6.7		
10 結婚のため	8	17.8			6	28.6	1	6.7	1	16.7
11 離婚のため	1	2.2							1	16.7
12 住宅の購入等のため										
13 親などの介護や見守りのため	2	4.4					1	6.7	1	16.7
14 生活環境を変えるため	2	4.4			1	4.8	1	6.7		
15 出身地だから	8	17.8			4	19.0	3	20.0	1	16.7
16 知人がいたから										
17 土地や建物があったから	3	6.7			2	9.5			1	16.7
18 その他	2	4.4			1	4.8	1	6.7		

(これまでの郡山市での居住経験の有無別)

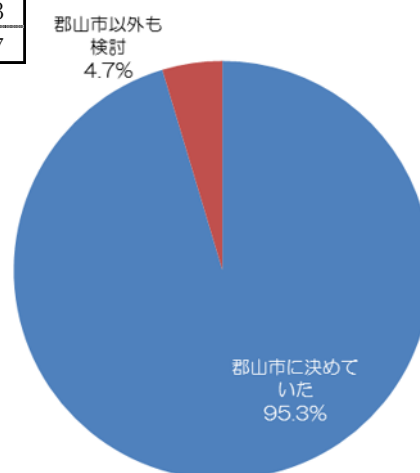
これまでの郡山市での居住経験の有無別に集計したところ、「転勤」「結婚」については郡山市に住んだことのない人の人が高い割合となっており、「就職・転職」に関しては郡山市に住んだことのある人の人が割合が高くなっています。もともと地縁のある人が就職等を機に郡山市に転入するケースが多いようです。

	全体		ある		ない	
	件数	%	件数	%	件数	%
合計	45	100.0	25	100.0	20	100.0
1 自分の就職・転職のため	15	33.3	10	40.0	5	25.0
2 自分の転勤のため	8	17.8	4	16.0	4	20.0
3 配偶者の就職・転職のため	3	6.7	2	8.0	1	5.0
4 配偶者の転勤のため	3	6.7	1	4.0	2	10.0
5 お子さんの仕事のため						
6 自分または配偶者の退職のため	2	4.4	2	8.0		
7 自分または配偶者が家業を継ぐため						
8 自分または配偶者の進学のため	2	4.4			2	10.0
9 お子さんの進学のため	1	2.2	1	4.0		
10 結婚のため	8	17.8	2	8.0	6	30.0
11 離婚のため	1	2.2	1	4.0		
12 住宅の購入等のため						
13 親などの介護や見守りのため	2	4.4	2	8.0		
14 生活環境を変えるため	2	4.4	2	8.0		
15 出身地だから	8	17.8	8	32.0		
16 知人がいたから						
17 土地や建物があったから	3	6.7	3	12.0		
18 その他	2	4.4			2	10.0

Q13. 郡山市以外への転居を考えたか (N=43)

郡山市に転入する際に、他の市町村と比較したかどうかお聞きしたところ、約 95%は最初から郡山市に決めていたと回答しています。

項目	件数	%
全体	43	100.0
1 郡山市に決めていた	41	95.3
2 郡山市以外も検討	2	4.7



Q14. 転居先を決めるにあたって重視したこと (N=42)

転居先を決める際に重視したことをお聞きしたところ、「日常生活の利便性」「通勤通学の便利さ」「親や子ども・親せきの家との近さ」を挙げる人が多くなっています。

項目	件数	%
1 土地・住宅の取得価格・家賃・地代	3	7.1
2 土地や住宅の広さ・設備	5	11.9
3 日常生活の利便性	18	42.9
4 子どもを産み育てる環境	5	11.9
5 高齢期の暮らしやすさ	0	0.0
6 自然環境の豊かさ	2	4.8
7 防災・防犯対策など地域の安全性	0	0.0
8 まちの賑やかさ	4	9.5
9 親や子ども・親族の家との近さ	15	35.7
10 通勤・通学の便利さ	17	40.5
11 公共料金の安さ	0	0.0
12 その他	9	21.4

(男女別)

男女別に集計したところ、男性は「通勤・通学の便利さ」を重視する傾向が強く、女性は「日常生活の利便性」「親や子ども・親族の家との近さ」を重視する傾向が強いです。

	全体		男		女	
	件数	%	件数	%	件数	%
合計	42	100.0	21	100.0	21	100.0
1 土地・住宅の取得価格・家賃・地代	3	7.1	1	4.8	2	9.5
2 土地や住宅の広さ・設備	5	11.9	2	9.5	3	14.3
3 日常生活の利便性	18	42.9	8	38.1	10	47.6
4 子どもを産み育てる環境	5	11.9	3	14.3	2	9.5
5 高齢期の暮らしやすさ						
6 自然環境の豊かさ	2	4.8	1	4.8	1	4.8
7 防災・防犯対策など地域の安全性						
8 まちの賑やかさ	4	9.5	2	9.5	2	9.5
9 親や子ども・親族の家との近さ	15	35.7	6	28.6	9	42.9
10 通勤・通学の便利さ	17	40.5	11	52.4	6	28.6
11 公共料金の安さ						
12 その他	9	21.4	5	23.8	4	19.0

(年齢別)

年齢別集計結果から転入者の多い20代と30代を比較したところ、20代では「親や子ども・親族の家との近さ」を重視する傾向がありますが、30代では「通勤・通学の便利さ」を重視する傾向が強いです。

	全体		10代		20代		30代		40代	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
合計	42	100.0	2	100.0	19	100.0	15	100.0	6	100.0
1 土地・住宅の取得価格・家賃・地代	3	7.1	1	50.0	1	5.3	1	6.7		
2 土地や住宅の広さ・設備	5	11.9	1	50.0	2	10.5	2	13.3		
3 日常生活の利便性	18	42.9	1	50.0	8	42.1	7	46.7	2	33.3
4 子どもを産み育てる環境	5	11.9			2	10.5	3	20.0		
5 高齢期の暮らしやすさ										
6 自然環境の豊かさ	2	4.8			2	10.5				
7 防災・防犯対策など地域の安全性										
8 まちの賑やかさ	4	9.5			1	5.3	3	20.0		
9 親や子ども・親族の家との近さ	15	35.7			10	52.6	3	20.0	2	33.3
10 通勤・通学の便利さ	17	40.5	1	50.0	3	15.8	9	60.0	4	66.7
11 公共料金の安さ										
12 その他	9	21.4			3	15.8	3	20.0	3	50.0

(これまでの郡山市での居住経験の有無別)

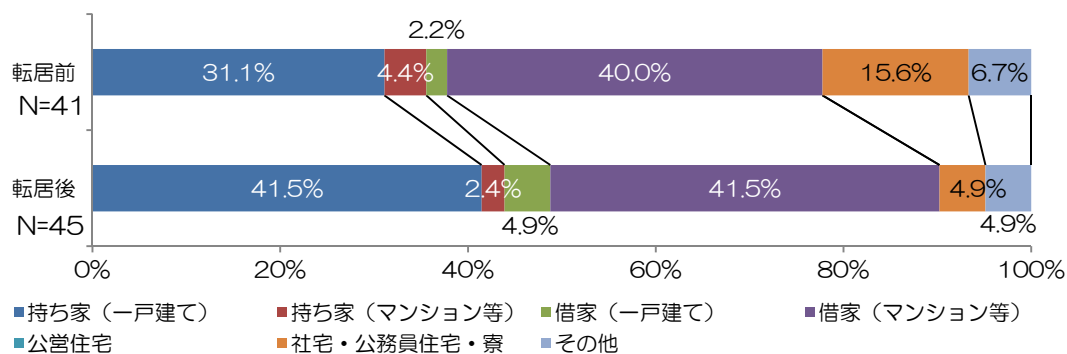
これまでの郡山市での居住経験の有無別に集計したところ、居住経験のある人は「親や子ども・親族の家との近さ」を重視する傾向が強く、居住経験のない人は「通勤・通学の便利さ」を重視する傾向が強いようです。

	全体		ある		ない	
	件数	%	件数	%	件数	%
合計	42	100.0	24	100.0	18	100.0
1 土地・住宅の取得価格・家賃・地代	3	7.1	1	4.2	2	11.1
2 土地や住宅の広さ・設備	5	11.9	2	8.3	3	16.7
3 日常生活の利便性	18	42.9	10	41.7	8	44.4
4 子どもを産み育てる環境	5	11.9	3	12.5	2	11.1
5 高齢期の暮らしやすさ						
6 自然環境の豊かさ	2	4.8	2	8.3		
7 防災・防犯対策など地域の安全性						
8 まちの賑やかさ	4	9.5	3	12.5	1	5.6
9 親や子ども・親族の家との近さ	15	35.7	14	58.3	1	5.6
10 通勤・通学の便利さ	17	40.5	8	33.3	9	50.0
11 公共料金の安さ						
12 その他	9	21.4	5	20.8	4	22.2

Q15. 転居前後の住宅所有の状況

転居前後の住宅の所有状況の変化をお聞きしたところ、転居後は転居前と比べて給与住宅の比率が低下し、持ち家（一戸建て）の比率が上昇しています。転居後については持ち家（一戸建て）と借家（マンション等）が同率となっています。

項目	転居前		転居後	
	件数	%	件数	%
全体	45	100.0	41	100.0
1 持ち家（一戸建て）	14	31.1	17	41.5
2 持ち家（マンション等）	2	4.4	1	2.4
3 借家（一戸建て）	1	2.2	2	4.9
4 借家（マンション等）	18	40.0	17	41.5
5 公営住宅	0	0.0	0	0.0
6 社宅・公務員住宅・寮	7	15.6	2	4.9
7 その他	3	6.7	2	4.9



(これまでの郡山市での居住経験の有無別)

これまでの郡山市での居住経験の有無別に集計したところ、居住経験のある人は転居前後で賃貸マンションから持ち家一戸建てに移行しており、居住経験のない人は持ち家一戸建てから賃貸マンションに移行していることが分かります。

	ある				ない			
	転居前		転居後		転居前		転居後	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
合計	25	100.0	24	100.0	17	100.0	20	100.0
1 持ち家（一戸建て）	4	16.0	16	66.7	1	5.9	10	50.0
2 持ち家（マンション等）	1	4.0	1	4.2			1	5.0
3 借家（一戸建て）	1	4.0	1	4.2	1	5.9		
4 借家（マンション等）	13	52.0	5	20.8	12	70.6	5	25.0
5 公営住宅								
6 社宅・公務員住宅・寮	5	20.0			2	11.8	2	10.0
7 その他	1	4.0	1	4.2	1	5.9	2	10.0

5. 居住環境への評価、居住継続意向について

Q16. 郡山市に住んでみてよかった点 (N=44)

住んでみてよかった点としては「買い物などの利便性」を挙げた人が多く、「東京・仙台との時間距離の近さ」が続いています。「特になし」という方も2割に上りました。

項目	件数	%	
1 自然の豊かさ	8	18.2	
2 農産品などの食の豊かさ	4	9.1	
3 仕事の見つけやすさ	3	6.8	
4 歴史的なまちなみ・風土	1	2.3	
5 文化的雰囲気、文化活動の充実	3	6.8	
6 温泉などのレジャーの充実	4	9.1	
7 東京・仙台との時間距離の近さ	13	29.5	
8 公共交通機関の利便性	10	22.7	
9 自動車による移動のしやすさ	6	13.6	
10 買い物などの利便性	16	36.4	
11 物価の安さ	1	2.3	
12 学校などの教育環境	4	9.1	
13 子育ての環境	5	11.4	
14 医療・福祉体制の充実	3	6.8	
15 地域コミュニティのあたたかさ	0	0.0	
16 特になし	10	22.7	
17 その他	1	2.3	

(男女別)

男女別に集計したところ、男女とも「日常生活の利便性」に関して最も高く評価していますが、次いで評価が高いのは男性では「自然の豊かさ」となっており、女性では「東京・仙台との時間距離の近さ」となっています。

	全体		男		女	
	件数	%	件数	%	件数	%
合計	44	100.0	23	100.0	21	100.0
1 自然の豊かさ	8	18.2	6	26.1	2	9.5
2 農産品などの食の豊かさ	4	9.1	2	8.7	2	9.5
3 仕事の見つけやすさ	3	6.8	1	4.3	2	9.5
4 歴史的なまちなみ・風土	1	2.3	1	4.3		
5 文化的雰囲気、文化活動の充実	3	6.8	2	8.7	1	4.8
6 温泉などのレジャーの充実	4	9.1	2	8.7	2	9.5
7 東京・仙台との時間距離の近さ	13	29.5	5	21.7	8	38.1
8 公共交通機関の利便性	10	22.7	5	21.7	5	23.8
9 自動車による移動のしやすさ	6	13.6	3	13.0	3	14.3
10 買物などの利便性	16	36.4	7	30.4	9	42.9
11 物価の安さ	1	2.3			1	4.8
12 学校などの教育環境	4	9.1	4	17.4		
13 子育ての環境	5	11.4	4	17.4	1	4.8
14 医療・福祉体制の充実	3	6.8	2	8.7	1	4.8
15 地域コミュニティのあたたかさ						
16 特になし	10	22.7	4	17.4	6	28.6
17 その他	1	2.3	1	4.3		

(年齢別)

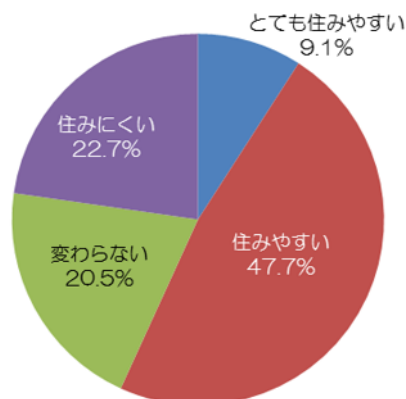
年齢別集計結果から転入者の多い20代と30代を比較したところ、20代・30代とも「買い物
の利便性」への評価が1位ですが、30代では同率で「子育ての環境」への評価が1位となっ
ています。「東京・仙台との時間距離の近さ」については30代よりも20代で評価が高くなっ
ています。

	全体		10代		20代		30代		40代	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
合計	44	100.0	3	100.0	20	100.0	15	100.0	6	100.0
1 自然の豊かさ	8	18.2	2	66.7	3	15.0	2	13.3	1	16.7
2 農産品などの食の豊かさ	4	9.1			1	5.0	3	20.0		
3 仕事の見つけやすさ	3	6.8			2	10.0	1	6.7		
4 歴史的なまちなみ・風土	1	2.3			1	5.0				
5 文化的雰囲気、文化活動の充実	3	6.8			3	15.0				
6 温泉などのレジャーの充実	4	9.1			1	5.0	2	13.3	1	16.7
7 東京・仙台との時間距離の近さ	13	29.5	1	33.3	7	35.0	4	26.7	1	16.7
8 公共交通機関の利便性	10	22.7	2	66.7	3	15.0	4	26.7	1	16.7
9 自動車による移動のしやすさ	6	13.6			3	15.0	3	20.0		
10 買物などの利便性	16	36.4	1	33.3	8	40.0	5	33.3	2	33.3
11 物価の安さ	1	2.3			1	5.0				
12 学校などの教育環境	4	9.1	1	33.3	1	5.0	2	13.3		
13 子育ての環境	5	11.4					5	33.3		
14 医療・福祉体制の充実	3	6.8			3	15.0				
15 地域コミュニティのあたたかさ										
16 特になし	10	22.7			5	25.0	2	13.3	3	50.0
17 その他	1	2.3					1	6.7		

Q17. 前住地と比べて、郡山市は住みやすいか (N=44)

前住地との住みやすさを比較して頂いたところ住みやすいと答えた人が過半となりましたが、住みにくいと評価された方も2割に上ります。

項目	件数	%
全体	44	100.0
1 とても住みやすい	4	9.1
2 住みやすい	21	47.7
3 変わらない	9	20.5
4 住みにくい	10	22.7
5 とても住みにくい	0	0.0



(男女別)

男女別に集計したところ、「とても住みやすい」という評価は男性よりも女性で高い割合となっています。

	全体		男		女	
	件数	%	件数	%	件数	%
合計	44	100.0	22	100.0	22	100.0
1 とても住みやすい	4	9.1	1	4.5	3	13.6
2 住みやすい	21	47.7	14	63.6	7	31.8
3 変わらない	9	20.5	2	9.1	7	31.8
4 住みにくい	10	22.7	5	22.7	5	22.7
5 とても住みにくい						

(年齢別)

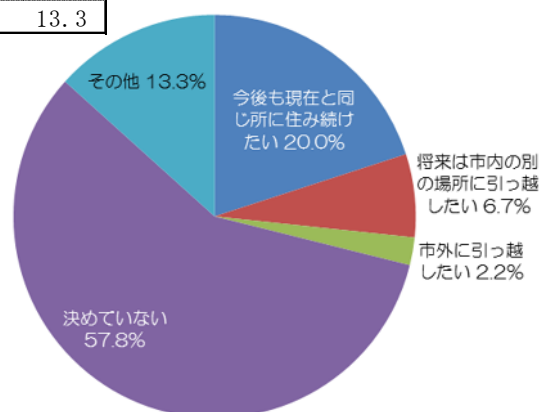
年齢別集計結果から転入者の多い20代と30代を比較したところ、「とても住みやすい」「住みやすい」という肯定的な評価は、30代よりも20代で高くなっています。20代は元々市民だった人の割合が大きいので、このような差が出ているものと考えられます。

	全体		10代		20代		30代		40代	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
合計	44	100.0	3	100.0	21	100.0	14	100.0	6	100.0
1 とても住みやすい	4	9.1			2	9.5	1	7.1	1	16.7
2 住みやすい	21	47.7	2	66.7	12	57.1	6	42.9	1	16.7
3 変わらない	9	20.5			3	14.3	4	28.6	2	33.3
4 住みにくい	10	22.7	1	33.3	4	19.0	3	21.4	2	33.3
5 とても住みにくい										

Q18. 今後も郡山市に住み続けたいか (N=45)

今後も郡山市に住み続けたいかお聞きしたところ、郡山市内に住み続けたいという人が3割、未定の人が6割でした。

項目	件数	%
全体	45	100.0
1 今後も現在と同じ所に住み続けたい	9	20.0
2 将来は市内の別の場所に引っ越したい	3	6.7
3 市外に引っ越した	1	2.2
4 決めていない	26	57.8
5 その他	6	13.3



(男女別)

男女別に集計したところ、市内に住み続けたい人の比率は男性よりも女性で高くなっており、男性は女性よりも「決めていない」という人の比率が高くなっています。

	全体		男		女	
	件数	%	件数	%	件数	%
合計	45	100.0	23	100.0	22	100.0
1 今後も現在と同じ所に住み続けたい	9	20.0	3	13.0	6	27.3
2 将来は市内の別の場所に引っ越したい	3	6.7	1	4.3	2	9.1
3 市外に引っ越したい	1	2.2			1	4.5
4 決めていない	26	57.8	16	69.6	10	45.5
5 その他	6	13.3	3	13.0	3	13.6

(年齢別)

年齢別集計結果から転入者の多い20代と30代を比較したところ、20代では「決めていない」という人の比率が30代よりも高くなっています。

	全体		10代		20代		30代		40代	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
合計	45	100.0	3	100.0	21	100.0	15	100.0	6	100.0
1 今後も現在と同じ所に住み続けたい	9	20.0			5	23.8	3	20.0	1	16.7
2 将来は市内の別の場所に引っ越したい	3	6.7			1	4.8	1	6.7	1	16.7
3 市外に引っ越したい	1	2.2			1	4.8				
4 決めていない	26	57.8	2	66.7	14	66.7	7	46.7	3	50.0
5 その他	6	13.3	1	33.3			4	26.7	1	16.7

(これまでの郡山市での居住経験の有無別)

これまでの郡山市での居住経験の有無別に集計したところ、郡山市に居住経験のある人は居住経験のない人に比べて「市内で住み続けたい」と考える比率が高くなっており、郡山市に居住経験のない人は「決めていない」と考える比率が高くなっています。

	全体		ある		ない	
	件数	%	件数	%	件数	%
合計	45	100.0	25	100.0	20	100.0
1 今後も現在と同じ所に住み続けたい	9	20.0	8	32.0	1	5.0
2 将来は市内の別の場所に引っ越したい	3	6.7	3	12.0		
3 市外に引っ越したい	1	2.2	1	4.0		
4 決めていない	26	57.8	12	48.0	14	70.0
5 その他	6	13.3	1	4.0	5	25.0

Q19. 今後も郡山市に住み続けるために必要なこと (N=38)

今後も郡山市に住み続けるために必要なことをお聞きしたところ、「商店の充実などによる都市的な魅力の向上」「身近で多様な働く場所の充実」「子育て支援の充実」などが上位に挙げられました。

項目	件数	%	
1 公共交通の利便性向上	5	13.2	
2 道路や施設のバリアフリー化	2	5.3	
3 防災対策の充実	4	10.5	
4 身近で多様な働く場所の充実	14	36.8	
5 ライフステージに応じて住み替えが可能な多様な住宅の供給	3	7.9	
6 商店の充実などによる都市的な魅力の向上	18	47.4	
7 観光の充実による交流の活性化	4	10.5	
8 医療・福祉施設の充実	7	18.4	
9 教育や文化活動の充実	11	28.9	
10 子育て支援の充実	13	34.2	
11 医療・福祉・健康づくりの充実	4	10.5	
12 環境にやさしいまちづくりの充実	2	5.3	
13 自然環境の保全	6	15.8	
14 その他	3	7.9	

(男女別)

男女別に集計したところ、男性で最も多く選ばれたのは「子育て支援の充実」であり、女性で最も多く選ばれたのは「商店の充実などによる都市的な魅力の向上」でした。

	全体		男		女	
	件数	%	件数	%	件数	%
合計	38	100.0	18	100.0	20	100.0
1 公共交通の利便性向上	5	13.2			5	25.0
2 道路や施設のバリアフリー化	2	5.3	2	11.1		
3 防災対策の充実	4	10.5	1	5.6	3	15.0
4 身近で多様な働く場所の充実	14	36.8	5	27.8	9	45.0
5 ライフステージに応じて住み替えが可能な多様な住宅の供給	3	7.9	2	11.1	1	5.0
6 商店の充実などによる都市的な魅力の向上	18	47.4	8	44.4	10	50.0
7 観光の充実による交流の活性化	4	10.5	2	11.1	2	10.0
8 医療・福祉施設の充実	7	18.4	3	16.7	4	20.0
9 教育や文化活動の充実	11	28.9	7	38.9	4	20.0
10 子育て支援の充実	13	34.2	9	50.0	4	20.0
11 医療・福祉・健康づくりの充実	4	10.5	1	5.6	3	15.0
12 環境にやさしいまちづくりの充実	2	5.3	1	5.6	1	5.0
13 自然環境の保全	6	15.8	2	11.1	4	20.0
14 その他	3	7.9	3	16.7		

(年齢別)

年齢別集計結果から転入者の多い20代と30代を比較したところ、20代では「身近で多様な働く場所の充実」を、30代では「商店の充実などによる都市的な魅力の向上」をそれぞれ最も多く選んでいます。

	全体		10代		20代		30代		40代	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
合計	38	100.0	3	100.0	17	100.0	13	100.0	5	100.0
1 公共交通の利便性向上	5	13.2	1	33.3			2	15.4	2	40.0
2 道路や施設のバリアフリー化	2	5.3	1	33.3			1	7.7		
3 防災対策の充実	4	10.5	1	33.3	1	5.9	2	15.4		
4 身近で多様な働く場所の充実	14	36.8			9	52.9	4	30.8	1	20.0
5 ライフステージに応じて住み替えが可能な多様な住宅の供給	3	7.9			1	5.9	1	7.7	1	20.0
6 商店の充実などによる都市的な魅力の向上	18	47.4	1	33.3	7	41.2	8	61.5	2	40.0
7 観光の充実による交流の活性化	4	10.5			2	11.8	1	7.7	1	20.0
8 医療・福祉施設の充実	7	18.4	1	33.3	2	11.8	4	30.8		
9 教育や文化活動の充実	11	28.9			5	29.4	5	38.5	1	20.0
10 子育て支援の充実	13	34.2			7	41.2	6	46.2		
11 医療・福祉・健康づくりの充実	4	10.5			4	23.5				
12 環境にやさしいまちづくりの充実	2	5.3			1	5.9			1	20.0
13 自然環境の保全	6	15.8			5	29.4	1	7.7		
14 その他	3	7.9			1	5.9	1	7.7	1	20.0

(これまでの郡山市での居住経験の有無別)

これまでの郡山市での居住経験の有無別に集計したところ、居住経験のある人は「身近で多様な働く場所の充実」を、居住経験のない人は「商店の充実などによる都市的な魅力の向上」をそれぞれ最も多く選んでいます。

	全体		ある		ない	
	件数	%	件数	%	件数	%
合計	38	100.0	22	100.0	16	100.0
1 公共交通の利便性向上	5	13.2	1	4.5	4	25.0
2 道路や施設のバリアフリー化	2	5.3	1	4.5	1	6.3
3 防災対策の充実	4	10.5	1	4.5	3	18.8
4 身近で多様な働く場所の充実	14	36.8	11	50.0	3	18.8
5 ライフステージに応じて住み替えが可能な多様な住宅の供給	3	7.9	1	4.5	2	12.5
6 商店の充実などによる都市的な魅力の向上	18	47.4	10	45.5	8	50.0
7 観光の充実による交流の活性化	4	10.5	2	9.1	2	12.5
8 医療・福祉施設の充実	7	18.4	3	13.6	4	25.0
9 教育や文化活動の充実	11	28.9	9	40.9	2	12.5
10 子育て支援の充実	13	34.2	7	31.8	6	37.5
11 医療・福祉・健康づくりの充実	4	10.5	2	9.1	2	12.5
12 環境にやさしいまちづくりの充実	2	5.3	1	4.5	1	6.3
13 自然環境の保全	6	15.8	4	18.2	2	12.5
14 その他	3	7.9	3	13.6		

Q20. 新規定住者を増加させるために必要なこと (N=39)

新規定住者を増加させるために必要な取組についてお聞きしたところ「就職あっせん」「観光の振興による交流の活性化」「移住費用の一部助成」などが上位に挙げられました。

項目	件数	%	
1 新聞・雑誌等への移住に関する情報発信の充実	2	5.1	
2 テレビやラジオへの移住に関する情報発信の充実	8	20.5	
3 インターネットなどへの移住に関する情報発信の充実	9	23.1	
4 移住関係イベント・セミナーにおける情報発信の充実	5	12.8	
5 観光の振興による交流の活性化	12	30.8	
6 移住に関する市役所のワンストップ窓口の相談機能の充実	4	10.3	
7 県の出先窓口などにおける相談機能の充実	7	17.9	
8 就職あっせん	16	41.0	
9 不動産状況の提供	7	17.9	
10 空家の仲介	6	15.4	
11 移住費用の一部助成	12	30.8	
12 その他	6	15.4	

(男女別)

男女別に集計したところ、男性は「観光の振興による交流の活性化」「就職のあっせん」を、女性は「就職のあっせん」をそれぞれ最も多く選んでいます。

	全体		男		女	
	件数	%	件数	%	件数	%
合計	39	100.0	19	100.0	20	100.0
1 新聞・雑誌等への移住に関する情報発信の充実	2	5.1	1	5.3	1	5.0
2 テレビやラジオへの移住に関する情報発信の充実	8	20.5	5	26.3	3	15.0
3 インターネットなどへの移住に関する情報発信の充実	9	23.1	5	26.3	4	20.0
4 移住関係イベント・セミナーにおける情報発信の充実	5	12.8	3	15.8	2	10.0
5 観光の振興による交流の活性化	12	30.8	7	36.8	5	25.0
6 移住に関する市役所のワンストップ窓口の相談機能の充実	4	10.3	3	15.8	1	5.0
7 県の出先窓口などにおける相談機能の充実	7	17.9	2	10.5	5	25.0
8 就職あっせん	16	41.0	7	36.8	9	45.0
9 不動産状況の提供	7	17.9	3	15.8	4	20.0
10 空家の仲介	6	15.4	2	10.5	4	20.0
11 移住費用の一部助成	12	30.8	5	26.3	7	35.0
12 その他	6	15.4	3	15.8	3	15.0

(年齢別)

年齢別集計結果から転入者の多い20代と30代を比較したところ、20代では「観光の振興による交流の活性化」を、30代では「就職あっせん」をそれぞれ最も多く選んでいます。

	全体		10代		20代		30代		40代	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
合計	39	100.0	3	100.0	17	100.0	13	100.0	6	100.0
1 新聞・雑誌等への移住に関する情報発信の充実	2	5.1			1	5.9	1	7.7		
2 テレビやラジオへの移住に関する情報発信の充実	8	20.5	2	66.7	3	17.6	2	15.4	1	16.7
3 インターネットなどへの移住に関する情報発信の充実	9	23.1	1	33.3	4	23.5	2	15.4	2	33.3
4 移住関係イベント・セミナーにおける情報発信の充実	5	12.8	1	33.3			2	15.4	2	33.3
5 観光の振興による交流の活性化	12	30.8	1	33.3	8	47.1	3	23.1		
6 移住に関する市役所のワンストップ窓口の相談機能の充実	4	10.3			1	5.9	3	23.1		
7 県の出先窓口などにおける相談機能の充実	7	17.9			4	23.5	1	7.7	2	33.3
8 就職あっせん	16	41.0	1	33.3	6	35.3	7	53.8	2	33.3
9 不動産状況の提供	7	17.9	1	33.3	2	11.8	2	15.4	2	33.3
10 空家の仲介	6	15.4	1	33.3	2	11.8	2	15.4	1	16.7
11 移住費用の一部助成	12	30.8	1	33.3	5	29.4	5	38.5	1	16.7
12 その他	6	15.4			2	11.8	2	15.4	2	33.3

(これまでの郡山市での居住経験の有無別)

これまでの郡山市での居住経験の有無別に集計したところ、居住経験のある人は「就職あっせん」を最も多く選びましたが、居住経験のない人は「就職のあっせん」のほかに「移住費用の一部助成」「インターネットなどへの移住に関する情報発信の充実」も最も多く選んでいます。

	全体		ある		ない	
	件数	%	件数	%	件数	%
合計	39	100.0	24	100.0	15	100.0
1 新聞・雑誌等への移住に関する情報発信の充実	2	5.1	1	4.2	1	6.7
2 テレビやラジオへの移住に関する情報発信の充実	8	20.5	6	25.0	2	13.3
3 インターネットなどへの移住に関する情報発信の充実	9	23.1	4	16.7	5	33.3
4 移住関係イベント・セミナーにおける情報発信の充実	5	12.8	4	16.7	1	6.7
5 観光の振興による交流の活性化	12	30.8	8	33.3	4	26.7
6 移住に関する市役所のワンストップ窓口の相談機能の充実	4	10.3	2	8.3	2	13.3
7 県の出先窓口などにおける相談機能の充実	7	17.9	3	12.5	4	26.7
8 就職あっせん	16	41.0	11	45.8	5	33.3
9 不動産状況の提供	7	17.9	3	12.5	4	26.7
10 空家の仲介	6	15.4	5	20.8	1	6.7
11 移住費用の一部助成	12	30.8	7	29.2	5	33.3
12 その他	6	15.4	4	16.7	2	13.3

C. 転出者アンケート調査

1. 調査の概要

本調査は、近年本市から市外に転出した結婚・出産・子育て期の方々を対象に、転出理由や、居住していた郡山市に対する評価、再転入意向などについて調査し、転出抑制に必要な施策の検討等に資するために実施しました。

主な調査内容は「転出の状況、転出理由について」「郡山市に対する満足度」「現住地における居住継続意向について」です。

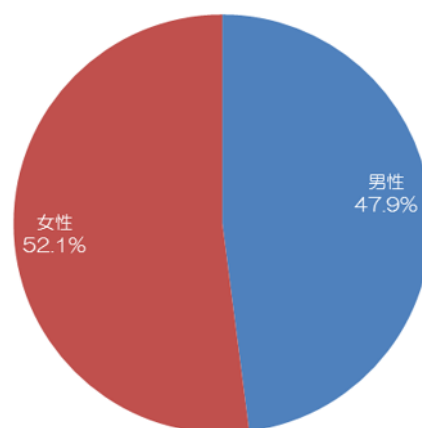
調査対象者は平成27年4月1日から平成27年7月1日までの間に郡山市に市外から転入された18歳～49歳(抽出時点の満年齢)の市民から無作為に抽出した300名です。300票の配布に対して、73票の回答があり、回収率は24.3%となりました。

2. 回答者の属性

集計解析に活用するため、回答者の属性をお聞きした結果は以下の通りです。

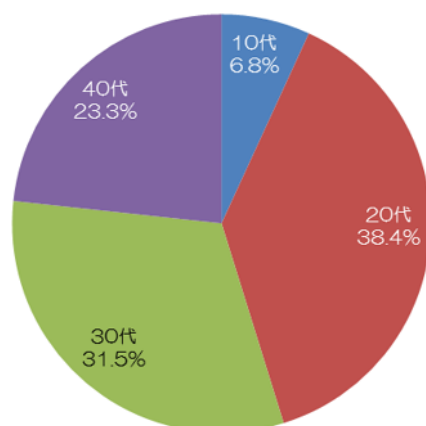
Q1. 性別 (N=73)

項目	件数	%
全体	73	100.0
1 男	35	47.9
2 女	38	52.1



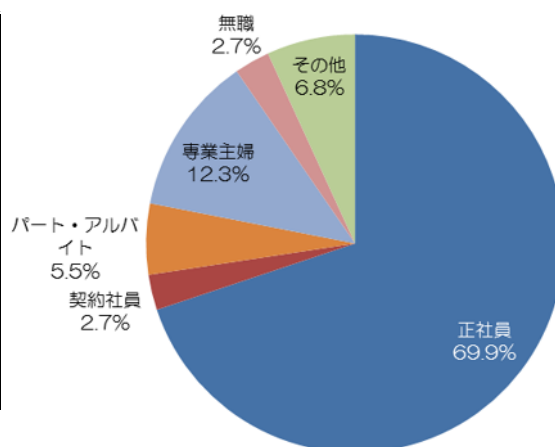
Q2. 年齢 (N=73)

項目	件数	%
全体	73	100.0
1 10代	5	6.8
2 20代	28	38.4
3 30代	23	31.5
4 40代	17	23.3



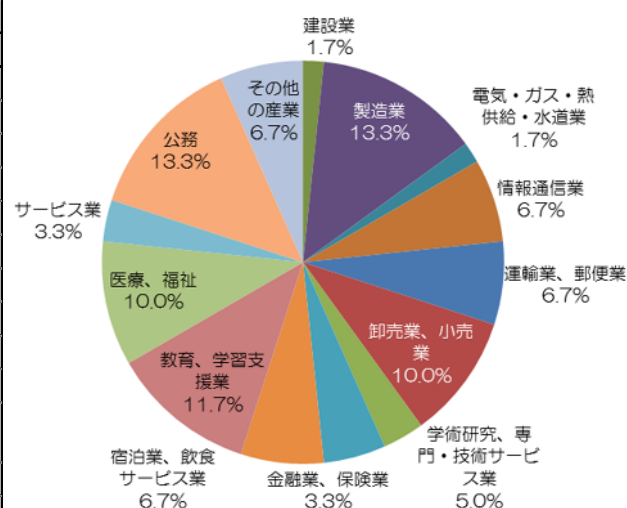
Q3. 現在の勤務形態 (N=73)

項目	件数	%
全体	73	100.0
1 正社員	51	69.9
2 契約社員	2	2.7
3 嘱託職員	0	0.0
4 自営業・役員	0	0.0
5 農林水産業	0	0.0
6 パート・アルバイト	4	5.5
7 専業主婦	9	12.3
8 無職	2	2.7
9 その他	5	6.8



Q4. 現在勤務している主な業種 (N=60)

項目	件数	%
全体	60	100.0
1 農林漁業	0	0.0
2 鉱業、採石業、砂利採取業	0	0.0
3 建設業	1	1.7
4 製造業	8	13.3
5 電気・ガス・熱供給・水道業	1	1.7
6 情報通信業	4	6.7
7 運輸業、郵便業	4	6.7
8 卸売業、小売業	6	10.0
9 金融業、保険業	2	3.3
10 不動産業、物品賃貸業	0	0.0
11 学術研究、専門・技術サービス業	3	5.0
12 宿泊業、飲食サービス業	4	6.7
13 生活関連サービス業、娯楽業	0	0.0
14 教育、学習支援業	7	11.7
15 医療、福祉	6	10.0
16 複合サービス事業	0	0.0
17 サービス業	2	3.3
18 公務	8	13.3
19 その他の産業	4	6.7

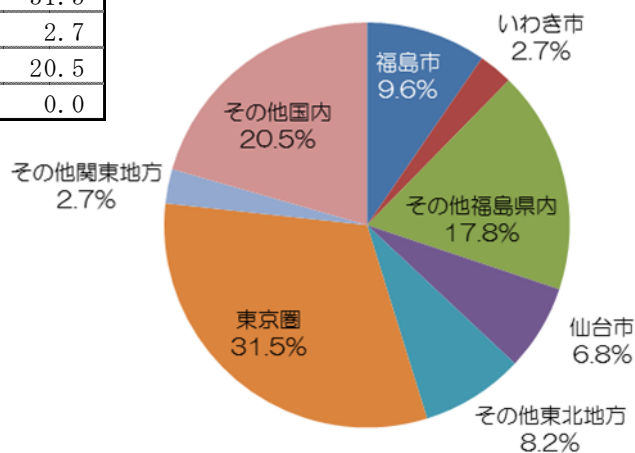


3. 郡山市からの転出の状況

Q5. 現在の居住地 (N=73)

郡山市から転出した後の現在居住地(現住地)は東京圏が3割、福島県内が3割、東北地方が約15%、その他が約23%という構成になっています。

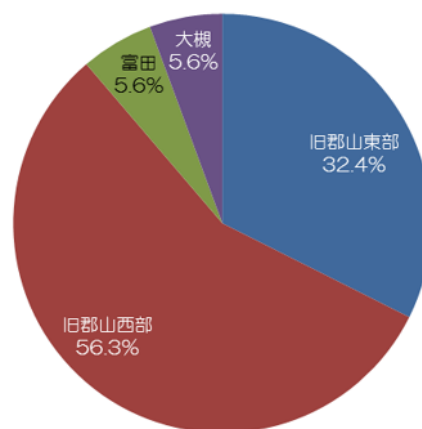
項目	件数	%
全体	73	100.0
1 福島市	7	9.6
2 いわき市	2	2.7
3 その他福島県内	13	17.8
4 仙台市	5	6.8
5 その他東北地方	6	8.2
6 東京圏	23	31.5
7 その他関東地方	2	2.7
8 その他国内	15	20.5
9 海外	0	0.0



Q6. 転居前の郡山市における居住地域 (N=71)

転居前の郡山市における居住地域は以下の通りです。なお、人口構成が旧郡山市域に偏っているため、東部地域・西部地域に居住していた人の回答を得ることはできませんでした。

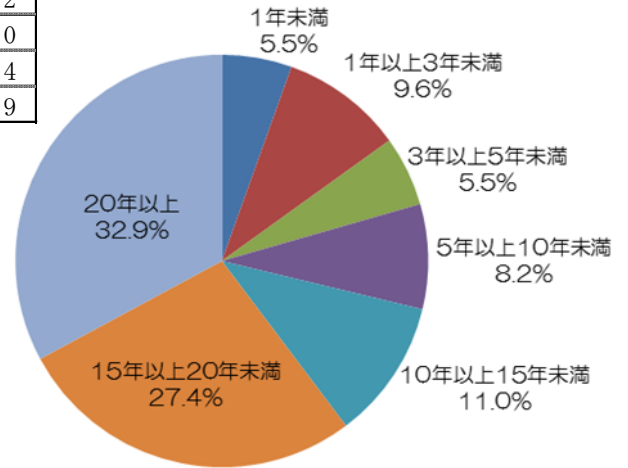
項目	件数	%
全体	71	100.0
1 旧郡山東部	23	32.4
2 旧郡山西部	40	56.3
3 富田	4	5.6
4 大槻	4	5.6
5 安積	0	0.0
6 三穂田	0	0.0
7 逢瀬	0	0.0
8 片平	0	0.0
9 喜久田	0	0.0
10 日和田	0	0.0
11 富久山	0	0.0
12 湖南	0	0.0
13 熱海	0	0.0
14 田村	0	0.0
15 西田	0	0.0
16 田中	0	0.0



Q7. 転居前の郡山市における居住年数 (N=73)

転出までに郡山市に住んでいた年数をお聞きしたところ、15年以上の長期居住の人が6割に上り、5年未満の転勤などのサイクルで動いていると思われる人が2割という構成になっています。

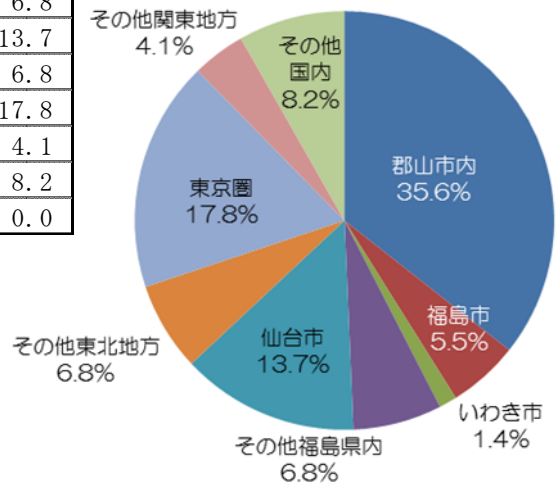
項目	件数	%
全体	73	100.0
1 1年未満	4	5.5
2 1年以上3年未満	7	9.6
3 3年以上5年未満	4	5.5
4 5年以上10年未満	6	8.2
5 10年以上15年未満	8	11.0
6 15年以上20年未満	20	27.4
7 20年以上	24	32.9



Q8. 最後に卒業した学校の場所 (N=73)

最後に卒業した学校の場所をお聞きしたところ、市内の人が4割程度となっており、地縁の強い人が転出されていることが分かります。

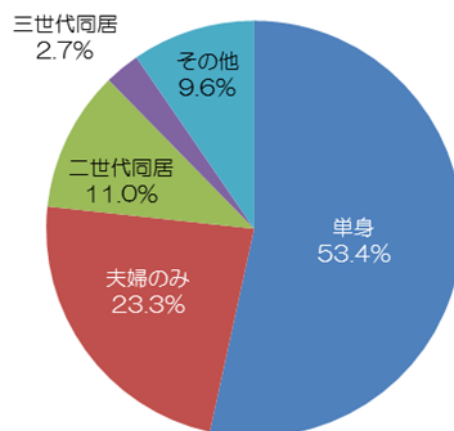
項目	件数	%
全体	73	100.0
1 郡山市内	26	35.6
2 福島市	4	5.5
3 いわき市	1	1.4
4 その他福島県内	5	6.8
5 仙台市	10	13.7
6 その他東北地方	5	6.8
7 東京圏	13	17.8
8 その他関東地方	3	4.1
9 その他国内	6	8.2
10 海外	0	0.0



Q9. 家族構成 (N=73)

転出時の世帯構成は5割が単身、2割が夫婦のみ、1割が親子となっており、世帯分離によるとみられる単身の転出が多いことが分かります。

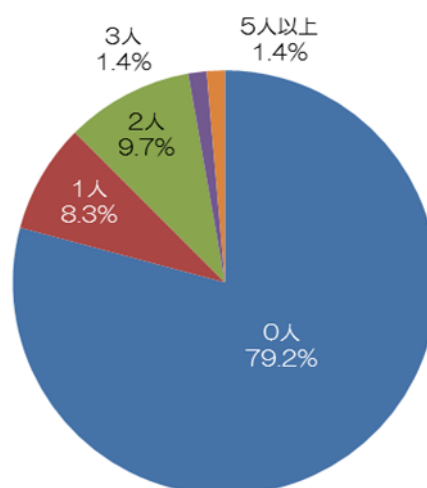
項目	件数	%
全体	73	100.0
1 単身	39	53.4
2 夫婦のみ	17	23.3
3 二世帯同居	8	11.0
4 三世帯同居	2	2.7
5 その他	7	9.6



Q10. 子どもの人数 (N=72)

回答者のうち、子どものいる人は2割にとどまりました。

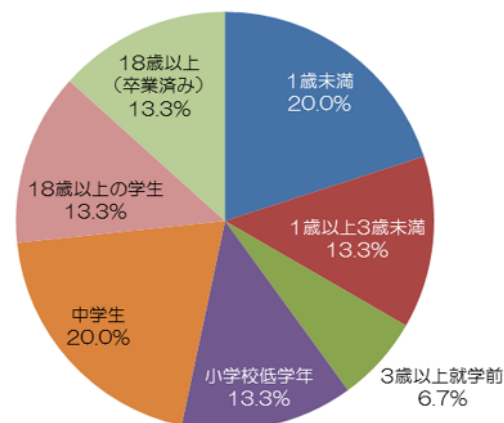
項目	件数	%
全体	72	100.0
1 0人	57	79.2
2 1人	6	8.3
3 2人	7	9.7
4 3人	1	1.4
5 4人	0	0.0
6 5人以上	1	1.4



Q11. 第一子の年齢 (N=15)

子どものいる人の第一子の年齢をお聞きしたところ、比較的低い年齢の割合が大きく、小学校低学年までで過半を占めています。

項目	件数	%
全体	15	100.0
1 1歳未満	3	20.0
2 1歳以上3歳未満	2	13.3
3 3歳以上就学前	1	6.7
4 小学校低学年	2	13.3
5 小学校高学年	0	0.0
6 中学生	3	20.0
7 中学校卒業後18歳未満	0	0.0
8 18歳以上の学生	2	13.3
9 18歳以上 (卒業済み)	2	13.3



Q12. 転出の理由 (N=73)

転出理由で最も多いのは「自分の就職・転職のため」で4割に上ります。「転勤のため」も2割程度にのぼり、あわせて仕事を理由とした転出が多いことが分かります。「震災や原発事故の影響」と回答した人は1人にとどまりました。

項目	件数	%	
1 自分の就職・転職のため	28	38.4	
2 自分の転勤のため	16	21.9	
3 配偶者の就職・転職のため	5	6.8	
4 配偶者の転勤のため	3	4.1	
5 お子さんの仕事のため	0	0.0	
6 自分または配偶者の退職のため	0	0.0	
7 自分または配偶者の進学のため	8	11.0	
8 お子さんの進学のため	1	1.4	
9 結婚のため	10	13.7	
10 離婚のため	1	1.4	
11 住宅の購入等のため	4	5.5	
12 親などの介護のため	1	1.4	
13 生活環境を変えるため	2	2.7	
14 震災や原発事故の影響	1	1.4	
15 その他	5	6.8	

(男女別)

男女別に集計したところ、男女とも最も多かったのは「自分の就職・転職のため」ですが、2番目に多かったのは男性は「自分の転勤のため」で、女性は「結婚のため」でした。

	全体		男性		女性	
	件数	%	件数	%	件数	%
合計	73	100.0	35	100.0	38	100.0
1 自分の就職・転職のため	28	38.4	18	51.4	10	26.3
2 自分の転勤のため	16	21.9	11	31.4	5	13.2
3 配偶者の就職・転職のため	5	6.8			5	13.2
4 配偶者の転勤のため	3	4.1	1	2.9	2	5.3
5 お子さんの仕事のため						
6 自分または配偶者の退職のため						
7 自分または配偶者の進学のため	8	11.0	2	5.7	6	15.8
8 お子さんの進学のため	1	1.4	1	2.9		
9 結婚のため	10	13.7	1	2.9	9	23.7
10 離婚のため	1	1.4			1	2.6
11 住宅の購入等のため	4	5.5	1	2.9	3	7.9
12 親などの介護のため	1	1.4			1	2.6
13 生活環境を変えるため	2	2.7	1	2.9	1	2.6
14 震災や原発事故の影響	1	1.4	1	2.9		
15 その他	5	6.8	3	8.6	2	5.3






(年齢別)

年齢別集計結果から転入者の多い20代と30代を比較したところ、20代では半数以上の人
が「自分の就職・転職のため」としていましたが、30代では4割にとどまり、「自分の転勤のため」、
「住宅の購入等のため」などが加わります。

	全体		10代		20代		30代		40代	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
合計	73	100.0	5	100.0	28	100.0	23	100.0	17	100.0
1 自分の就職・転職のため	28	38.4			15	53.6	9	39.1	4	23.5
2 自分の転勤のため	16	21.9	1	20.0	3	10.7	4	17.4	8	47.1
3 配偶者の就職・転職のため	5	6.8			1	3.6	2	8.7	2	11.8
4 配偶者の転勤のため	3	4.1			2	7.1			1	5.9
5 お子さんの仕事のため										
6 自分または配偶者の退職のため										
7 自分または配偶者の進学のため	8	11.0	4	80.0	3	10.7	1	4.3		
8 お子さんの進学のため	1	1.4					1	4.3		
9 結婚のため	10	13.7			5	17.9	5	21.7		
10 離婚のため	1	1.4					1	4.3		
11 住宅の購入等のため	4	5.5					3	13.0	1	5.9
12 親などの介護のため	1	1.4							1	5.9
13 生活環境を変えるため	2	2.7			1	3.6	1	4.3		
14 震災や原発事故の影響	1	1.4							1	5.9
15 その他	5	6.8			3	10.7	1	4.3	1	5.9

Q13. 転出後に郡山市に住み続けている親族の有無 (N=73)

転出後も郡山市に住み続けている親族がいるかお聞きしたところ、親族を残して転出している人が半数に上り、転出後も郡山市に血縁を残している人が多いことが分かります。「自分以外の家族は郡山市に住み続けている」という単身赴任などのケースも2割に上ります。こうしたことから、転出は世帯分離による場合が多いことが分かります。

項目	件数	%	
1 自分以外の家族は郡山市に住み続けている	14	19.2	
2 親が郡山市に住み続けている	37	50.7	
3 子が郡山市に住み続けている	0	0.0	
4 兄弟・姉妹が郡山市に住み続けている	15	20.5	
5 親戚が郡山市に住み続けている	13	17.8	
6 郡山市に住み続けている親族はいない	19	26.0	

(男女別)

男女別に集計したところ、男女とも「親が住み続けている」という人の割合が最も多くなっていますが、男性よりも女性で「兄弟・姉妹が郡山市に住み続けている」という人の割合が高くなっています。

	全体		男性		女性	
	件数	%	件数	%	件数	%
合計	73	100.0	35	100.0	38	100.0
1 自分以外の家族は郡山市に住み続けている	14	19.2	7	20.0	7	18.4
2 親が郡山市に住み続けている	37	50.7	17	48.6	20	52.6
3 子が郡山市に住み続けている						
4 兄弟・姉妹が郡山市に住み続けている	15	20.5	5	14.3	10	26.3
5 親戚が郡山市に住み続けている	13	17.8	7	20.0	6	15.8
6 郡山市に住み続けている親族はいない	19	26.0	10	28.6	9	23.7

(年齢別)

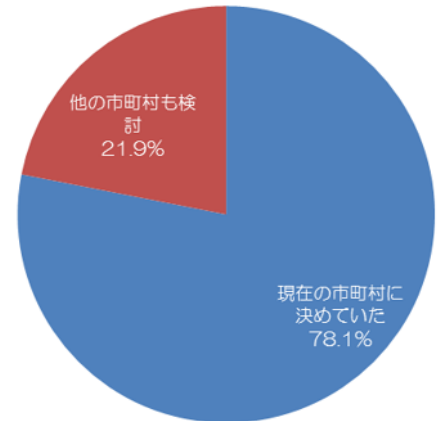
年齢別集計結果から転入者の多い20代と30代を比較したところ、「親が住み続けている」という人の比率は30代よりも20代が高く、「住み続けている親族はいない」という人の比率は20代よりも30代で高くなっています。20代は実家からの独立期にあたり、30代になると既に子との同居等により親世代も郡山市に残っていない状況にあるものと考えられます。

	全体		10代		20代		30代		40代	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
合計	73	100.0	5	100.0	28	100.0	23	100.0	17	100.0
1 自分以外の家族は郡山市に住み続けている	14	19.2	3	60.0	4	14.3	2	8.7	5	29.4
2 親が郡山市に住み続けている	37	50.7	2	40.0	20	71.4	10	43.5	5	29.4
3 子が郡山市に住み続けている										
4 兄弟・姉妹が郡山市に住み続けている	15	20.5			8	28.6	5	21.7	2	11.8
5 親戚が郡山市に住み続けている	13	17.8			7	25.0	4	17.4	2	11.8
6 郡山市に住み続けている親族はいない	19	26.0			3	10.7	10	43.5	6	35.3

Q14. 移転をする際に他の場所も検討したか (N=73)

郡山市から転出する際に現住地以外の市町村への移転も検討したかどうかお聞きしたところ、8割の人は現在の市町村に決めていたという回答となっています。

項目	件数	%
全体	73	100.0
1 現在の市町村に決めていた	57	78.1
2 他の市町村も検討	16	21.9



(男女別)

転出に当たって、現住地のほかに他の移転先を検討したかどうかお聞きしたところ、女性は男性よりも「現在の市町村に決めていた」という比率が高い傾向があります。

	全体		男性		女性	
	件数	%	件数	%	件数	%
合計	73	100.0	35	100.0	38	100.0
1 現在の市町村に決めていた	57	78.1	26	74.3	31	81.6
2 他の市町村も検討	16	21.9	9	25.7	7	18.4

Q15. 転居先選定にあたって重視したこと (N=72)

現住地を転居先として選定するにあたりどのようなことを重視したかお聞きしたところ、「通勤・通学の便利さ」と回答した人が特に多く、転出理由と対応した結果となりました。次いで多かったのは「日常生活の利便性」「土地・住宅の取得価格・家賃・地代」でした。

項目	件数	%	
1 土地・住宅の取得価格・家賃・地代	22	30.6	
2 土地や住宅の広さ・設備	7	9.7	
3 日常生活の利便性	26	36.1	
4 子どもを生き育てる環境	5	6.9	
5 高齢期の暮らしやすさ	0	0.0	
6 自然環境の豊かさ	5	6.9	
7 防災・防犯対策など地域の安全性	6	8.3	
8 まちの賑やかさ	2	2.8	
9 親や子ども・親族の家との近さ	11	15.3	
10 通勤・通学の便利さ	47	65.3	
11 公共料金の安さ	1	1.4	
12 その他	8	11.1	

(男女別)

男女別に集計したところ、「土地・住宅の取得価格・家賃・地代」については男性よりも女性の方が強く重視しており、「自然環境の豊かさ」については女性よりも男性の方が重視していることが分かります。

	全体		男性		女性	
	件数	%	件数	%	件数	%
合計	73	100.0	35	100.0	38	100.0
1 現在の市町村に決めていた	57	78.1	26	74.3	31	81.6
2 他の市町村も検討	16	21.9	9	25.7	7	18.4

(年齢別)

年齢別集計結果から転入者の多い20代と30代を比較したところ、20代では30代よりも「通勤・通学の便利さ」や「土地・住宅の取得価格・家賃・地代」が重視される傾向が強く、30代では20代よりも「日常生活の利便性」や「親や子ども・親族の家との近さ」が重視される傾向が強いことが分かります。

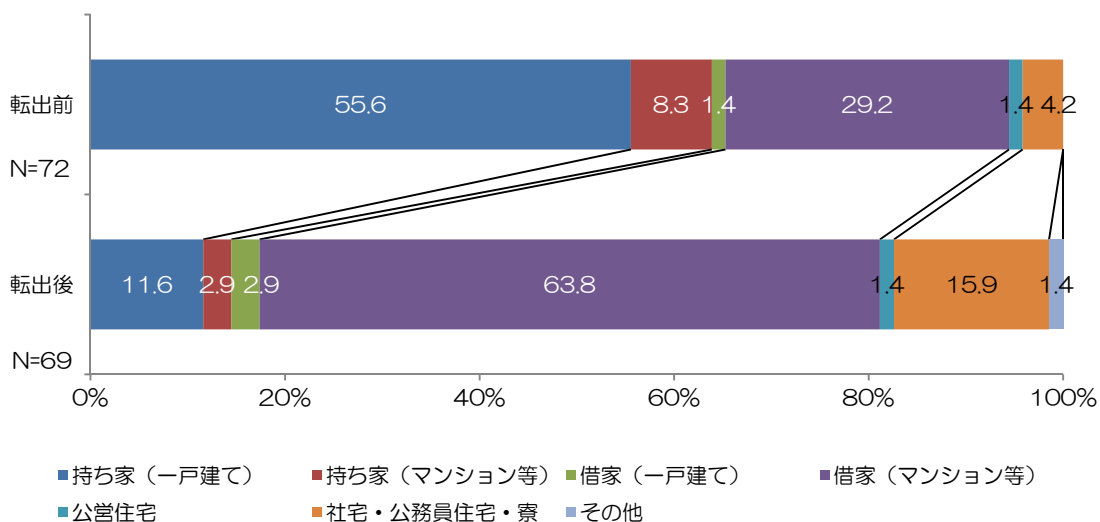
	全体		10代		20代		30代		40代	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
合計	72	100.0	5	100.0	28	100.0	23	100.0	16	100.0
1 土地・住宅の取得価格・家賃・地代	22	30.6	1	20.0	9	32.1	5	21.7	7	43.8
2 土地や住宅の広さ・設備	7	9.7			4	14.3	3	13.0		
3 日常生活の利便性	26	36.1			10	35.7	11	47.8	5	31.3
4 子どもを生み育てる環境	5	6.9			2	7.1	1	4.3	2	12.5
5 高齢期の暮らしやすさ										
6 自然環境の豊かさ	5	6.9	1	20.0	2	7.1	2	8.7		
7 防災・防犯対策など地域の安全性	6	8.3	2	40.0	2	7.1	1	4.3	1	6.3
8 まちの賑やかさ	2	2.8					1	4.3	1	6.3
9 親や子ども・親族の家との近さ	11	15.3	1	20.0	3	10.7	5	21.7	2	12.5
10 通勤・通学の便利さ	47	65.3	4	80.0	20	71.4	13	56.5	10	62.5
11 公共料金の安さ	1	1.4			1	3.6				
12 その他	8	11.1			4	14.3	2	8.7	2	12.5

Q16. 転出前後の住宅所有状況

転出前後の住宅所有状況をお聞きしたところ、転出前(郡山市に住んでいた時点)は持ち家一戸建てがほぼ半数を占めていましたが、転出後はこれが1割に減少し、賃貸マンションや給与住宅(社宅等)の比率が大きくなっています。

親族が郡山市に残っている人が多いことを考えれば、転出前の持ち家一戸建ては多くが家族所有のものと考えられ、転出は世帯分離によるものであり転出先では賃貸マンションに居住する人が多くなっていることが分かります。新たに自己所有の住宅を取得して転出している比率が低いことから、郡山市に戻る可能性を残した形での転出となっている人が多いものと考えられます。














項目	件数	%	件数	%
全体	72	100.0	69	100.0
1 持ち家(一戸建て)	40	55.6	8	11.6
2 持ち家(マンション等)	6	8.3	2	2.9
3 借家(一戸建て)	1	1.4	2	2.9
4 借家(マンション等)	21	29.2	44	63.8
5 公営住宅	1	1.4	1	1.4
6 社宅・公務員住宅・寮	3	4.2	11	15.9
7 その他	0	0.0	1	1.4



4. 郡山市に対する満足度・現住地における居住継続意向

Q17. 郡山市に住んでいて不満だったこと (N=72)

郡山市に住んでいて不満だったことをお聞きしたところ、「都市的な利便性」「余暇活動の場」「特になし」という回答が上位で並んでいます。

項目	件数	%	
1 周辺の生活環境、雰囲気、治安等	11	15.3	
2 都市的な利便性	21	29.2	
3 高齢者が暮らしやすいバリアフリーの環境、福祉施設	2	2.8	
4 子育てがしやすい環境や子育て支援体制	6	8.3	
5 病院・診療所等の医療体制	1	1.4	
6 仕事の見つけやすさ	13	18.1	
7 進学先の学校の選択	8	11.1	
8 地域の文化の洗練度	6	8.3	
9 レジャー施設等の余暇活動の場	21	29.2	
10 住まい	2	2.8	
11 地域活動、近所付き合い	4	5.6	
12 特になし	20	27.8	
13 その他	12	16.7	

(男女別)

男女別に集計したところ、女性は「特になし」と回答した人が多かったのに対し、男性では幅広い項目について不満だったと回答しています。男性が女性より特に不満だと感じていたのは「都市的な利便性」や「地域の文化の洗練度」などでした。

	全体		男性		女性	
	件数	%	件数	%	件数	%
合計	72	100.0	34	100.0	38	100.0
1 周辺の生活環境、雰囲気、治安等	11	15.3	5	14.7	6	15.8
2 都市的な利便性	21	29.2	15	44.1	6	15.8
3 高齢者が暮らしやすいバリアフリーの環境、福祉施設	2	2.8	1	2.9	1	2.6
4 子育てがしやすい環境や子育て支援体制	6	8.3	3	8.8	3	7.9
5 病院・診療所等の医療体制	1	1.4	1	2.9		
6 仕事の見つけやすさ	13	18.1	7	20.6	6	15.8
7 進学先の学校の選択	8	11.1	5	14.7	3	7.9
8 地域の文化の洗練度	6	8.3	5	14.7	1	2.6
9 レジャー施設等の余暇活動の場	21	29.2	12	35.3	9	23.7
10 住まい	2	2.8	2	5.9		
11 地域活動、近所付き合い	4	5.6	3	8.8	1	2.6
12 特になし	20	27.8	5	14.7	15	39.5
13 その他	12	16.7	5	14.7	7	18.4

(年齢別)

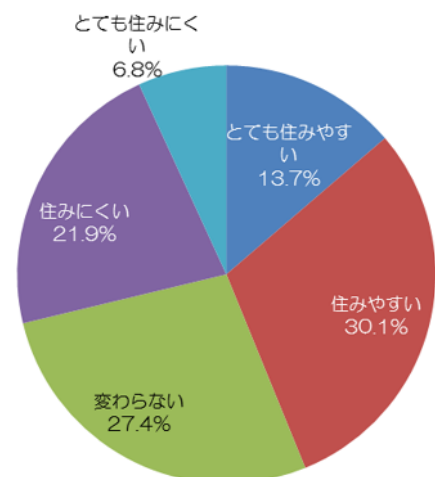
年齢別集計結果から転入者の多い20代と30代を比較したところ、20代は30代と比べて「都市的な利便性」や「仕事の見つけやすさ」「レジャー施設等の余暇活動の場」などに対して強く不満を感じていたと回答しており、30代は20代と比べて「子育てがしやすい環境や子育て支援体制」に対して不満を感じていたと回答しています。

	全体		10代		20代		30代		40代	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
合計	72	100.0	5	100.0	28	100.0	22	100.0	17	100.0
1 周辺の生活環境、雰囲気、治安等	11	15.3			6	21.4	3	13.6	2	11.8
2 都市的な利便性	21	29.2			12	42.9	5	22.7	4	23.5
3 高齢者が暮らしやすいバリアフリーの環境、福祉施設	2	2.8					1	4.5	1	5.9
4 子育てがしやすい環境や子育て支援体制	6	8.3	1	20.0	1	3.6	3	13.6	1	5.9
5 病院・診療所等の医療体制	1	1.4							1	5.9
6 仕事の見つけやすさ	13	18.1			7	25.0	3	13.6	3	17.6
7 進学先の学校の選択	8	11.1	1	20.0	4	14.3	2	9.1	1	5.9
8 地域の文化の洗練度	6	8.3			1	3.6	3	13.6	2	11.8
9 レジャー施設等の余暇活動の場	21	29.2	1	20.0	10	35.7	6	27.3	4	23.5
10 住まい	2	2.8							2	11.8
11 地域活動、近所付き合い	4	5.6			1	3.6	1	4.5	2	11.8
12 特になし	20	27.8	4	80.0	8	28.6	4	18.2	4	23.5
13 その他	12	16.7			2	7.1	6	27.3	4	23.5

Q18. 郡山市と比べて、現住地の住みやすさ (N=73)

転出前に住んでいた郡山市と比べて転出先の現住地の住みやすさをお聞きしたところ、「とても住みやすい」「住みやすい」という肯定的な評価は半数に満たず、「変わらない」という人が3割、「住みにくい」「とても住みにくい」という人も3割という結果になっています。

項目	件数	%
全体	73	100.0
1 とても住みやすい	10	13.7
2 住みやすい	22	30.1
3 変わらない	20	27.4
4 住みにくい	16	21.9
5 とても住みにくい	5	6.8



(男女別)

男女別に集計したところ、女性は男性よりも移転後の現住地は移転前の前住地よりも住みやすいと感じているようです。男性は前住地の郡山市に対して女性よりも強く不満を感じていましたが、移転後の現住地に対しても住みにくいと感じているようです。

	全体		男性		女性	
	件数	%	件数	%	件数	%
合計	73	100.0	35	100.0	38	100.0
1 とても住みやすい	10	13.7	4	11.4	6	15.8
2 住みやすい	22	30.1	9	25.7	13	34.2
3 変わらない	20	27.4	10	28.6	10	26.3
4 住みにくい	16	21.9	9	25.7	7	18.4
5 とても住みにくい	5	6.8	3	8.6	2	5.3

(年齢別)

年齢別集計結果から転入者の多い20代と30代を比較したところ、20代は30代よりも移転後の現住地に対して住みにくいと感じているようです。

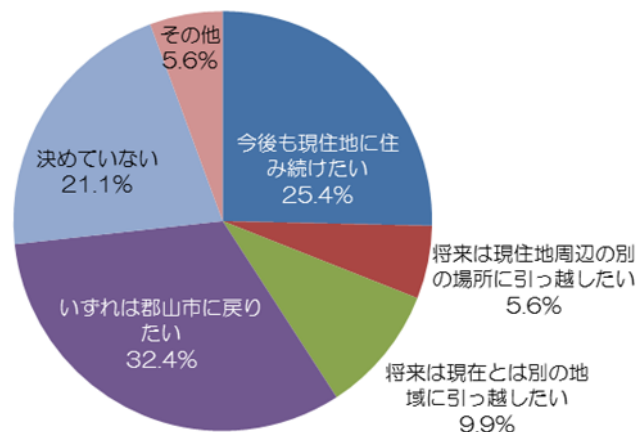
	全体		10代		20代		30代		40代	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
合計	73	100.0	5	100.0	28	100.0	23	100.0	17	100.0
1 とても住みやすい	10	13.7	1	20.0	3	10.7	3	13.0	3	17.6
2 住みやすい	22	30.1	1	20.0	11	39.3	9	39.1	1	5.9
3 変わらない	20	27.4			6	21.4	7	30.4	7	41.2
4 住みにくい	16	21.9	2	40.0	6	21.4	3	13.0	5	29.4
5 とても住みにくい	5	6.8	1	20.0	2	7.1	1	4.3	1	5.9

Q19. 今後の居住継続意向、郡山市への再転入意向 (N=71)

「いずれは郡山市に戻りたい」という人が「今後も転出先の現住地に住み続けたい」という人を上回っており、「決めていない」という人も2割に上ることから、市外に転出した後も将来の郡山市への再転入の可能性を残している人が多いことが分かります。

郡山市に親族が残っている人が多いことと考え合わせれば、条件さえ整えばライフステージが切り替わるいずれかの段階で郡山市に戻る選択肢もありうると考えている人も多いものと推察されます。

項目	件数	%
全 体	71	100.0
1 今後も現住地に住み続けたい	18	25.4
2 将来は現住地周辺の別の場所に引っ越したい	4	5.6
3 将来は現在とは別の地域に引っ越したい	7	9.9
4 いずれは郡山市に戻りたい	23	32.4
5 いずれは福島県内に戻りたい	0	0.0
6 いずれは東北地方に戻りたい	0	0.0
7 決めていない	15	21.1
8 その他	4	5.6



(男女別)

男女別に集計したところ、男性は「いずれは郡山市に戻りたい」と考える割合が最も高く、女性よりも明らかにUターンを希望する傾向が強いことが分かります。女性は男性と比べて「決めていない」人の割合が高くなっています。

	全体		男性		女性	
	件数	%	件数	%	件数	%
合計	71	100.0	34	100.0	37	100.0
1 今後も現住地に住み続けたい	18	25.4	9	26.5	9	24.3
2 将来は現住地周辺の別の場所に引っ越したい	4	5.6	2	5.9	2	5.4
3 将来は現在とは別の地域に引っ越したい	7	9.9	3	8.8	4	10.8
4 いずれは郡山市に戻りたい	23	32.4	15	44.1	8	21.6
5 いずれは福島県内に戻りたい						
6 いずれは東北地方に戻りたい						
7 決めていない	15	21.1	3	8.8	12	32.4
8 その他	4	5.6	2	5.9	2	5.4











(年齢別)

年齢別集計結果から転入者の多い20代と30代を比較したところ、移転後の現住地における居住継続意向は30代で強く、「決めていない」という人の割合は20代で強くなっています。なお、40代では「いずれは郡山市に戻りたい」という人の比率が6割となっており、子育てが落ち着いた後や親の介護などが必要になったタイミングでのUターンを考えている人が多いことが推察されます。

	全体		10代		20代		30代		40代	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
合計	71	100.0	4	100.0	28	100.0	22	100.0	17	100.0
1 今後も現住地に住み続けたい	18	25.4			6	21.4	10	45.5	2	11.8
2 将来は現住地周辺の別の場所に引っ越したい	4	5.6			3	10.7	1	4.5		
3 将来は現在とは別の地域に引っ越したい	7	9.9			3	10.7	3	13.6	1	5.9
4 いずれは郡山市に戻りたい	23	32.4	4	100.0	4	14.3	5	22.7	10	58.8
5 いずれは福島県内に戻りたい										
6 いずれは東北地方に戻りたい										
7 決めていない	15	21.1			9	32.1	2	9.1	4	23.5
8 その他	4	5.6			3	10.7	1	4.5		

Q20. 郡山市に戻るために必要となる事 (N=68)

いずれ郡山市に戻るために、必要となることについてお聞きしたところ、「市内や周辺に働きやすい職場が増えること」と回答した人が最も多かったことから、再転入者を増加させるためには雇用の確保が最も大きい課題であることが分かります。2番目に多かったのは「勤務先からの通勤費補助・家賃補助」、3番目に多かったのは「公共交通が充実し、通勤・通学がしやすくなること」でした。

項目	件数	%	
1 市内や周辺に働きやすい職場が増える事	29	42.6	
2 勤務先から通勤費補助・家賃補助	21	30.9	
3 公共交通が充実し、通勤・通学がしやすくなること	17	25.0	
4 希望に近い住宅が増える事	10	14.7	
5 行政による住宅取得支援	4	5.9	
6 地元での結婚支援により結婚相手が見つけやすくなること	1	1.5	
7 子育て支援が充実される事	16	23.5	
8 教育機関が多様化し、進学先の選択肢の幅が広がる事	8	11.8	
9 商店の充実等により買い物がしやすくなること	13	19.1	
10 その他	12	17.6	

(男女別)

男女別に集計したところ、全体で最も多かった「市内や周辺に働きやすい職場が増える事」は男性よりも女性で高い割合となっており、女性が働きやすい職場が増えることがUターンの条件であると考えられていることが分かります。その他の項目については女性よりも男性が分散して選択する傾向があるようであり、様々なニーズがあることが分かります。なお、女性については「子育て支援が充実される事」が上位に選ばれている点が特徴です。

	全体		男性		女性	
	件数	%	件数	%	件数	%
合計	68	100.0	34	100.0	34	100.0
1 市内や周辺に働きやすい職場が増える事	29	42.6	10	29.4	19	55.9
2 勤務先から通勤費補助・家賃補助	21	30.9	10	29.4	11	32.4
3 公共交通が充実し、通勤・通学がしやすくなること	17	25.0	12	35.3	5	14.7
4 希望に近い住宅が増える事	10	14.7	4	11.8	6	17.6
5 行政による住宅取得支援	4	5.9	3	8.8	1	2.9
6 地元での結婚支援により結婚相手が見つけやすくなること	1	1.5			1	2.9
7 子育て支援が充実される事	16	23.5	7	20.6	9	26.5
8 教育機関が多様化し、進学先の選択肢の幅が広がる事	8	11.8	6	17.6	2	5.9
9 商店の充実等により買い物がしやすくなること	13	19.1	7	20.6	6	17.6
10 その他	12	17.6	9	26.5	3	8.8

(年齢別)

年齢別集計結果から転入者の多い20代と30代を比較したところ、20代は30代と比べて「市内や周辺に働きやすい職場が増える事」「希望に近い住宅が増える事」「商店の充実等により買い物がしやすくなること」が必要だと考えており、30代は20代と比べて「公共交通が充実し、通勤・通学がしやすくなること」や「教育機関が多様化し、進学先の選択肢の幅が広がること」が必要だと考える傾向があるようです。40代では「希望に近い住宅が増える事」が必要だと考える人が若い年代よりも多くなっています。

	全体		10代		20代		30代		40代	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
合計	68	100.0	4	100.0	28	100.0	20	100.0	16	100.0
1 市内や周辺に働きやすい職場が増える事	29	42.6	3	75.0	15	53.6	6	30.0	5	31.3
2 勤務先から通勤費補助・家賃補助	21	30.9	1	25.0	9	32.1	7	35.0	4	25.0
3 公共交通が充実し、通勤・通学がしやすくなること	17	25.0	2	50.0	4	14.3	6	30.0	5	31.3
4 希望に近い住宅が増える事	10	14.7			3	10.7	1	5.0	6	37.5
5 行政による住宅取得支援	4	5.9			2	7.1	1	5.0	1	6.3
6 地元での結婚支援により結婚相手が見つけやすくなること	1	1.5					1	5.0		
7 子育て支援が充実される事	16	23.5	2	50.0	6	21.4	4	20.0	4	25.0
8 教育機関が多様化し、進学先の選択肢の幅が広がる事	8	11.8	1	25.0	2	7.1	3	15.0	2	12.5
9 商店の充実等により買い物がしやすくなること	13	19.1	2	50.0	6	21.4	2	10.0	3	18.8
10 その他	12	17.6			4	14.3	6	30.0	2	12.5

アンケート調査結果からみえてきた「まち・ひと・しごと創生」の課題

～住み続けられる・住んでみたいまちづくりに向けた課題～

1. 結婚に関する意識からみた課題

【結婚したい独身者が結婚できる環境づくりに向けて】

キャリア形成と結婚のタイミングがマッチしないため、婚期を逃してしまう人が多くなっていることから、若年層のワークライフバランスの見直しや出会いの機会の増加などを促すことにより、結婚したい人が結婚できない状況を少しでも改善していく取組みが求められます。

出会いの機会の提供にあたっては各年代に合った内容であることが求められます。このような機会づくりにあたっては市民同士の出会いの提供にとどまらず、観光の振興等を通じて都市圏居住者との交流による出会いの場の提供なども選択肢としていくことが考えられます。

【子どもが育てやすい理想の家族のあり方について】

多くの人が親と子の核家族世帯を理想とするものの、働きながら複数の子どもを育てていく場合、祖父母等との同居もしくは近居により、親族の手助けを得ないと難しいという実態があります。NPO等による育児支援サービス、子育て中の親同士の助け合いなどが十分に受けられる状況にない人が未だ多いことから、今後とも三世帯同居・近居のニーズは強いものと考えられます。今回のアンケートでは祖父母世代は調査対象としませんでした。子育て中の親に対するアンケートからも祖父母世代が子育てに果たす役割が大きいことが確認されたから、高齢者が最近の子育て事情や育児環境の変化について学ぶことのできる機会の提供やネットワークづくりなども求められているものと考えられます。

2. 出産・子育てに関する意識からみた課題

【子どもを持ちたい人が理想の子ども数を実現できる環境づくりに向けて】

理想の子ども数を実現するためには、働きながら子どもを育てやすい環境づくりが必要で、育児休業制度など、制度面の整備は整ってきてはいるものの、実際に制度が活用されているか、各種制度が活用しやすい環境となっているかという問題があります。アンケートでは「職場における理解や支援」が必要であるという意見が多かったことから、制度面だけでなく、雰囲気づくりといった面からも子育てに取り組みやすい職場環境づくりが求められていることが分かります。このため、多様な働き方ができる職場の確保や企業に対する意識啓発などの取組みを推進していくことが課題となっています。

既に結婚している人の中でも、まだ子どものいない人、今は1人しか子どもがいないものの本当は2人目の子どもが欲しいと考えている人、既に2人以上の子どもがいても1人子どもが欲しい人、それぞれ異なる課題を抱えていることがアンケート調査から明らかになりました。子どものいない出産希望者が1人目の出産ができるような支援や環境づくりとしては、いわゆる妊活に対する支援や職場の環境づくりに向けた啓発活動の充実などとともに、晩婚化を極力食い止める結婚支援の取組みなども有効と考えられます。一方、既に子どもが居て、あと1人子どもが欲しいと考える人がその希望を実現できるようにするためには、将来の子育てや教育にかかる費用面での不安をできるだけ軽減していく取組が求められます。3人目以降の子どもを設ける場合、教育費の問題が大きいことがアンケートから確認されました。教育費用には小中学校や高等学校にかかるコストのほかに、学校外での学習に関するコストも含まれますが、例えばNPOによる放課後学習支援活動の充実が図られれば、学校外学習に関するコストへの不安は軽減される可能性があります。

3. しごと・働き方に関する意識からみた課題

【郡山市で住み続けるための必須条件としての職場の確保】

今回のアンケート調査から、郡山市では女性に対して働きやすい職場を提供できていないことが課題として浮かび上がってきました。ほとんどの女性が働きたい場所は郡山市内やその周辺であるにも関わらず、そこで職を得ることができないために市内での居住継続を諦めてしまうという状況にあるものと考えられます。職を求めている女性は新卒者にかぎらず、既婚女性や子育てが一段落した女性なども同様です。ライフステージの各段階に応じて、女性が働き続けることのできる環境づくりが課題となっています。

また、転出者に対するアンケート調査から、転出が主に世帯分離によって生じていることが分かりました。こうした転出者は郡山市内に親族を残しており、条件さえ整えば郡山市に戻りたいと考えていることが分かりました。少なからず存在することが確認された潜在的なUターン希望者が郡山市に戻って生活できるだけの雇用を創出していくことが今後の課題となります。

4. 人口の流出抑制、転入者増加に向けた課題

【ライフステージごとに居住継続が選択肢となるような取組みが課題】

郡山市で生まれ・育った市民が市外に転出していくタイミングとしては、①大学進学・高卒就職時、②大学卒業・就職時、③結婚・住宅取得時、の3段階があるものと考えられ、男女ともにこの年代に転出超過が集中する傾向があります。

- ①のタイミングでは、市内に学生のレベルに合った進学先が十分でないため東京圏への流出を止めることはできません。高卒就職については特に女子の需要が大きいことが分かっているものの、ニーズに見合った雇用の創出が市内や周辺地域で行われていないため、地元で働きたいという希望に応えられていないのが現状です。
- ②のタイミングで、大学卒業にあたって地元での就職を希望しても条件に合う職場が見つからずに東京圏等に就職するため流出していきます。
- ③のタイミングで女性には結婚による転出入が発生しますが、晩婚化・非婚化によりかつてほど転入が見込めなくなっています。また住宅取得の時期にあたりますが、転入者アンケートによれば住宅取得のみを目的とした転入はなく、結婚のほか就職や転職、転勤による転入がみられるのみとなっています。

①・②・③の各段階で市外に流出するしか選択の余地がない状況を少しでも改善していくことでしか、若年層の転出超過を抑制することはできません。例えば、各段階で以下のような取組みが課題になっているものと考えられます。

- ①のタイミングでは高卒女性が働きやすい職場の創出や就職に繋がる資格取得のしやすい環境づくりなどにより、市外に流出しないで済む選択肢を提供していくことが課題となっています。
- ②のタイミングでは企業誘致等により、一旦東京圏の大学に進学した市民が親元に戻ってこられる環境を整えていくことが課題となっています。
- ③のタイミングでは、結婚支援等により、市内で結婚する女性の増加、都市圏からの移住者に対する住宅のあっせんなどが課題となっています。

【転入者増加に向けた新たな取組みが課題】

転入者に対するアンケート調査から、郡山市への転入者は以前郡山市に住んだことのある人の再転入(Uターン)と新規転入が6:4の構成であることが分かりました。転入者増加に向けては、Uターンの促進と新規転入の促進の両面に取り組んでいくことが必要となっています。

Uターンの促進については、これまでも様々なチャネルを通じた情報提供などにより都市圏に流出した元市民等に向けて行われてきましたが、今後は地元に戻りたい若い人たちが戻ってこられるような雇用の創出、就職のあっせんなどが課題となります。

転入者の転入理由の多くは結婚と就職であることが今回行った転入者に対する調査から確認されました。就職についてはUターン同様、地域での雇用創出が課題となりますが、郡山市に住む若い市民の結婚が増えれば転入者の増加に繋がるという側面もあることから、結婚支援も中長期的には効果的な人口減少対策であると考えられることもできます。

逆の見方をすれば、これまで結婚や就職・転勤以外の理由で郡山市に地縁・血縁がない人が転入してくることはあまりなかったということでもあります。今回行った転入者に対する調査では観光の振興による交流の活性化が新規定住者の増加に繋がると考える人が多かったことから、観光振興の中で地域住民との交流の機会を提供し、より地域のことを知って頂くことにより潜在的な移住希望者を発掘する取組みを進めていくことも考えられます。また、都市的な環境と自然豊かな農村部が共存している点は本市の魅力でもあることから、これまであまり積極的に取り組まれてこなかった農山村部(市西部地域等)への移住支援などを地域住民の主体的な参加を得ながら進めていくことも考えられます。

このような様々な取組みを効果的に展開していくことにより、転入者増加を図っていくことが課題となっています。

資料編

自由記入意見欄への回答内容

No.	年齢	性別	配偶者有無	意見内容
6	40代	女	有	私は中国から日本人と結婚して来た女性です。今私が悩むことは娘がそろそろ出産で会社側に休みを申しましたがすごくきついことを言われたので…会社で働めている人間にとって会社のことを優先するのは当たり前なのですがパートとして働く私には家族がもっと大事ですね。どうすれば女性として会社と家族と両方ともうまくいけるかなが悩みます。
7	40代	女	有	現在専業主婦ですが、高齢の親族がいるので急に出かけることもあり、小学生の子どもを預ける場所があればものすごく助かると思います。
10	30代	女	有	子どもがいないので、子育てをした時にどんな制度があったらいいかわからないが、現時点で旦那の職場が低賃金でサービス残業は当たり前。休みもろくにありません。夫婦の時間も短く(私の職種は不定期?だから)、家事をやるのもいっぱい입니다。(共働きだから)夫婦で合う時間も少なく、子作りも出来ないし、子どもが沢山欲しくても生活していけるか不安です。まずは職場の環境を何とかしてほしいです。
13	40代	女	有	郡山駅前に福島市にあるワーナーマイカルのような映画館をつくる。郡山は、昔からの映画館しかなく、ネット予約もできず、映画を見るときはわざわざ福島まで行っている。駅前に人を呼ぶには、若者が利用する施設をつくるべきだと思う。
14	40代	女	有	・大学をつくる。 ・郡山と言えば〇〇!というものをつくる。
16	40代	男	有	・道路の整備 ・正しい税金の使い方
19	40代	女	有	学力向上のためにもっと力を入れてほしい。小学校、中学校共に私学があると選択の幅が広がると思います。
20	40代	女	有	原発問題は?汚染水など。大きい地震、台風、噴火に郡山が被害にあった場合市はシェルターなど市民全体分、確保していますか?集団自衛権についてはどう考えていますか?県議員、市議員は動く人、動かない人がいますね。誰とは言いませんが、地震の時に一番逃げていましたね。今の現実をよく見て市をよくしてほしいと思います。
22	30代	男	有	・子どもが外に出やすい環境の整備(集団活動的なもの) ・親が仕事しやすい環境の整備(子どもを預けられる場所) ・少子化対策の実施(確実な、着実に) ・市内転入しやすい環境整備 ・不稼働施設や住居の有効活用
23	40代	女	有	放射線の苦しみを取り除かない限り、子どもが増えることはなく、今の政策・対策では意味がない。いらぬものばかり配ったり、対処するのではなく真の対策を練らなければならない。子どもの為と言いつつ、大人の都合で対策を変えている現実には怒りを感じます。本気で子どもを守ってほしい。全部は無理でも子どもの活動の大会費、遠征費を市で負担したり、全国大会への参加費用を自治体から出すなど、希望や夢を叶えやすい環境を作ってはどうでしょう。小さい子ども(赤ちゃん)に対しては、保険のきかない大病などには支援の手をのばしてほしいと思います。
24	20代	女	有	第3子誕生後の出産費、祝い金の額を増やしてほしい。第3子以降の手厚い補助があれば第3子も考えようかと思う。1歳未満の一時保育の時間を長くしてほしい。(ニコニコこどもセンターなど)1歳未満の保育園の確保
30	30代	女	有	私が住む久留米には、子どもたちがのびのび楽しく遊べる公園がない。老人ばかりがゲートボール等で使っていて、ただの広場ばかりが目立つ。遊具をもっと作ってほしい。学区内に図書館等がなく、夏休み中の学習に不便。子ども達ももっと楽しく過ごせる場所を増やしてほしい。老人や乳幼児ばかりに目を向けすぎ。児童も困っています。
32	30代	女	有	私は子どもを持つことが出来ないでいますが、もう少しそういった同じ悩みを持った人たちが集える場があると気持ち的に多少は違うと思います。確かにこれからこの地域を支えていくのは子ども達ですが、その思いに貢献したくても出来ないで辛い思いをしています。その気持ちを少しでもくみとっていただける場があればうれしく思います。
35	40代	女	有	親子で参加できるイベント、地域で助け合い相談できる場所を…核家族が増えていの中で高齢者との触れ合いを持つ場所、施設での時間を作り、子どもやお年寄り、お母さんたちが子育ての悩みなど解消し、お年寄りが子ども達と触れ合いの中、元気が出るなど皆が楽しく過ごせるまちづくり (その他)知り合いが郡山は救急の動物病院がなく困り、別の県にペットを夜連れて行ったそうです。ペット会社、安心してペットも飼えるように、人と同じく救急病院などあれば人も増えるのではないのでしょうか!東京の方には、すでに救急動物病院があるそうですよ!
36	30代	女	有	アウトレット・コストコ・イケアなどの大型ショッピング施設を作ること。

No.	年齢	性別	配偶者有無	意見内容
37	40代	女	有	私は一番下の子(子どもは3人)が小学校に入学するまでは専業主婦でした。入学してからはパートとして転職を繰り返しながら仕事をしてきました。その時に助けてほしいと思った時はやはり子どもが具合が悪い時です。その家庭家庭に事情はあるでしょうが、子を持つ女性としては、仕事を続けるのに厳しい社会と感じます。子育てと両立できるような会社などそうはありません。(正社員としてですが)また、家庭から社会に復帰できるような支援があると、子どもを産んでも安心できるのではないのでしょうか。公的な仕事を期間限定で提供してみるとか・・・あるのかも知れませんが情報量が少ないですね。
43	30代	女	有	<ul style="list-style-type: none"> ・仙台のような観光と居住している人が生活しやすい施設がある事 ・雪の時、道路が凍らないようにしてほしい。 ・郡山に友達が来たとき、目玉となるものがない、連れて行くところがない ・普段の生活で買い物しながら子どもを遊ばせられる、または預けられる。 ・動物園が欲しい。 ・夏でも遊べる 日影がある公園が欲しい。
48	30代	女	有	<ul style="list-style-type: none"> ・移動図書館が欲しい。 ・子育て情報誌(広報みたいなもの)が内容が代わり映えしない。子どもを3歳くらいまで自分(専業主婦)でみなければいけないときにたとえば子どもとの遊び方、食事の進め方、1日の過ごし方などもっともっと情報が欲しい。支援センターなどを利用すればいいんだらうが、家を空けるのが難しいので。
54	40代	男	有	<ul style="list-style-type: none"> ・貧富の差(年収の差)なく、医療費、学費を負担なくする。 ・子育て世代何割を超える事業所に補助金を出す。
65		男	有	通学路のガードレールまたは縁石などの区別して事故のない登下校を出来るような道路整備をしてほしい。
69	40代		有	<ul style="list-style-type: none"> ・病院数の充実およびその場所の公表(わかりやすく伝える) ・子育ての方法とその教育(手続きの方法を統一するとか、その内容を詳しく理解させる) ・車以外の交通手段の活用とその充実(子どもとその親が集まりやすい環境に集めやすくする)路線バスなど、駅前などに集まりやすくしては。※一家に複数台の車を持ってない家もある。
70	40代	女	有	福島県の中心にあり、交通の便も良い郡山の立地を生かし、県内外から人の集まる商業施設をつくってほしいです。アウトレットモール・イケア・コストコ・シネコン・ファストファッションモール等を郡山南インターそばの平地に作れば、カルチャーパークと共に集客力を期待できるのではないのでしょうか。これから子どもを持つとうとする若い世代には大変魅力的だと思います。
71	40代	女	有	図書館の改築(建物の構造等工夫したものが他の地方にはある。)
72	30代	男	有	市税の控除など、もっと低くしてほしい。最低賃金をあげたり収入を多くする取り組みをしてほしい。
73	30代	男	有	<ul style="list-style-type: none"> ・出産に関しては、3人目→50万 4人目100万とか、商品券を贈るとか、張り合いがほしい。(4人産んだが、マグセットしかもらえなかった) ・郡山でも田舎は年々人が少なくなってきた、特に、若者がいないので、商業施設をつくるとか、アウトレットモールや、空家の利用などを考えてほしい。
75	30代	女	有	子どもを産み、育てるためには、育児に関わる時間も責任もお金も必要。働きながら子育てできる環境が十分に整っていないと強く感じています。仕事と育児を両立していけるような、柔軟な勤務形態が増えることを望みます。又、郡山市の公園は駐車場が少ない場所が多いです。商業施設でなくても、気軽に遊びに行ける、楽しい場所が増えてほしい。
77	20代	女	有	将来子どもが産まれたときに保育園にすぐ入れるようになってほしい。
78	40代	女	有	郡山に住んで思うことは、子育てしやすい環境にあると感じます。ただ、住んでみないとわかりません。人を呼び込むには、税金を安くすることだとうれしいです。固定資産税、所得税、住民税が安い郡山になってほしいと思います。〇〇支援等より減税の方がうれしいです。また、子育てしながら女性が働く収入も多くなりますが、収入が高くなると国、市の支援が受けられない等もおかしいと思います。頑張っているお母さんたちを平等に支援してほしいという思いもあり、減税を希望します。頑張って働いたお母さんたちを評価する社会であってほしい。
79	30代	女	有	公園や屋内・外で遊べる施設を充実させてほしい。大型ショッピングセンターをつくってほしい。もしくはアウトレットなど。子どもを連れていけるテーマパークが近場がない。宜しくお願いします！
82	40代	女	有	だんだん落ち着いてきてるように思ったりして、常にではありませんが、原発関係の事が不安です。これから、子ども達に何もしなければいいですが、子育てに関してはいろいろな面で手厚い手当等(医療費等も)長く続いていけばいいなと思います。

No.	年齢	性別	配偶者有無	意見内容
83	30代	男	有	子どもに関してファミタンカードの優遇度アップ(利用価値を大幅に上げる)ランパス的な使い方など、大人でもファミタンカードが欲しい!と思うような優遇をする。ファミリーで兼用できるようにして子ども数に応じれば、パパママでも最低2枚(子ども2人)が必要になる。人の呼び込みについて福島県には、アウトレットパークがないので、郡山に建設すれば県外からもたくさんの人が集まる。(若者向けのオシャレな造りにすれば、若者が集まり出会いの場にもなる。)
116	20代	男	有	私は県外から転入してきましたが、郡山市は子育て環境は充実している方だと思います。医療の補償など。意見ではないですが、このまま頑張ってください。
117	30代	女	有	子育てしていくうちに必ず回ってくる育成会やPTAなどの活動が無償ではなく市からの委託という形にして賃金を支払う形式にする。ボランティア(自由参加)でなく有償にすれば責任を持って職務に当たるようになる。専業主婦の方などが収入を得られる。お金でなければポイント制などにして教育上使えるシステムに利用できるように(例えば保険料の何割引きとか)する。子育て世代には必ず付きまとう何かの団体の役員の負担、もっと軽減をするか、市などで面倒を見てもらうことは出来ないでしょうか。
118	30代	女	有	経済的に「産んで得する」くらいの事をしないと、人口、出生率は増加しないのでは?保育料も世帯の収入によっては高額だし。他の自治体で行っているような、出産祝い金の支給などをしたり…。
119	40代	女	有	<ul style="list-style-type: none"> ・税金を下げる ・子ども手当を増額 ・小さな公園ばかりで駐車場が少ない。
121	40代	女	有	結婚しないことには、子どもが増えないため、若い男女が出会いから結婚につながるようなお世話が必要かもしれません。一般の人はお世話をしてくれまいかな。かたたらどうしようなど考え、昔よりもお世話をしてくれる人が少なくなっています。結婚相談所のような所を市や国で運営してくれればとも思いますが、色々考えると無理なんでしょう。結婚するしないは本人の自由とはいいますが、離婚したとしても絶対に一度は結婚するべきです。若い人たちを結婚に結び付けるように、先輩方(既婚者)が積極的にお世話しなければならぬかもしれません。
124	30代	女	有	保育料の軽減、無料化を第1子限定でなく、全部の子対象で、少しずつ補助してくれるとかあれば良いかなと思います。第3子を無料もしくは半額にしたら、少子化対策になるかと考えます。ニコニコこども館のような施設は大変良いと思います。育児サービスがもっと拡充されてほしいです。
125	40代	男	有	私は子育ては終わりましたが、近年を見ると金銭面で大変になるから子どもを産まない人が増えている気がします。たとえ市町村がいろいろな環境を整備してくれても、勤務先の対応が良くならなければ、なかなか増えていかないと思います。会社側も利益追求の為、人件費には細かくなってきていますし、その辺のギャップを埋めることが出来なければ難しいかと思います。皆余裕のある生活をしたいんでしょね。子どもより、生活水準を下げたくない方が強いのかと…
128	30代	女	有	郡山市居住者の保育料軽減、学童保育時間の延長。郡山市民の日を決定し、各地域で活動できるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・体育館やプールなど無料で使用できる日とする。 ・市民の日を休校とし、親子で地域の活動に参加できるようにする。
129	30代	女	有	子どもを増やしたいという割には去年保育所探しをしていると沢山で入れなかったり、定員以上で保育士さんにもきちんと見ていただけるのか不安になるし、入れないで、増やしたいと思っている市にも不安になります。子どもを出しても、子どもが見てもらって死んだなどニュースもありますし、定員オーバーの所に預けていいものかと思います。
130	30代	男	有	経済的に支援する制度を増やしてほしい。
134	40代	女	有	中々、部落の中で結婚できない人がたくさんいます。郡山は人口がいるからといっても嫁不足です。どんどん交流が進むような活動も必要かと思います。特に中田は人付き合い、面倒見がよいのですが、病院、お店などが少なくなり、活気がなくなりつつあるように思えます。病院に通うのも買い物するのも遠いように感じます。若い人たちは市内へと移って行っているようです。
135	40代	男	有	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事をしている母親が、安心して(経済的な意味でも)預けられる保育所、幼稚園を増やしてほしい。市街地だけでなく、郊外にも。 ・郡山南インター付近に大型のショッピングセンターを誘致してほしい。
137	40代	男	有	小さい公園を多く造るよりも大きい公園を造り、そこに来る人同士が交流できるようにする。
192	30代	女	有	今現在放射能の影響が子どもを持つ親として一番の心配事だと思います。安心して子どもを育ていける環境でないと若い人はもちろん子育て世代は離れていくばかりだと思います。放射能が、安全になったということ自信を持って県外に発信していかないと安心して生活していけないと思います。せめて、小さい子どもに安全な遊び場(屋内)をもっと作ってほしいです。人口の割に今の時点では少なすぎると思います。

No.	年齢	性別	配偶者有無	意見内容
193	40代	女	有	便利が良いのは確かですが、他県から来た人にアピールするところがない。(特産品・名所・観光地)何をやっても途中で終わってしまっている。B-1グランプリはよくできてたが、他市町村からくる人たちに駐車場からのバスが出てなどのアピールがあった方が良かったと思います。福島市に比べ品がない。私も努力します。よりよすみよい市になるようお互い頑張りましょう。
194	20代	女	有	理想では3世代同居など旦那の親と暮らすのが1番いいのかもしれないが、今の女性たちは同居が嫌で結婚しなかったり子どもをつくらなかったりしているのだと思う。また同居が問題で離婚する人たちも多いと思う。私もその一人です。同居が苦痛で離婚まで考えました。そういう人たちが少なくなれば…と思いました。
203	30代	女	有	保育料を安くしてほしい。育児休暇制度の充実。出産一時金の増額など。会社復帰後は、記念日休暇(子どもの誕生日やクリスマスなど)をとれると、フルタイムで働く母親の家族サービス時間が増えるのではないだろうか。
204	20代	女	有	出産後にかかる費用が大変です。オムツ、ミルク代などの費用や、子どもの習い事代などが少しでも出れば、他からの人も呼び込むことができると思います。
206	40代	女	有	・郡山駅前がさみしすぎる。 ・なんとなく暗いイメージがある ・子ども達が独立する年になって、郡山市から出たがるのは、魅力がないからだと思う。 ・郊外にアウトドア施設(BBQ)などのレジャー施設をつくってほしい。
207	40代	男	有	・大学や企業の誘致 ・子ども手当
208	30代	女	有	・多子世帯への補助や制度が足りないから不安で子どもを沢山産めないのではないかと思う。 ・母子家庭、生保の方々には本当に最低限でしょうか？
209	40代	男	有	子どもにとって本当の遊び方と遊び場を沢山作ってほしいです。郡山市にしかない自然アトラクション、全国からも人を呼び込めるような巨大遊園地で小さな子どもから大人までもが(遊び、学び、教育実習の場を目的で将来に向け考えてほしいです。※子どもは遊びから学びます。そして大人も！
211	20代	男	有	・東北自動車道、4号バイパス、49号線等、市外からのアクセスが便利な郡山西武に魅力的な環境を整備する。 ・コストコやIKEAなど、県内にない商業施設を勧誘し、その近辺に住宅やアパート、マンションなど整備できれば転入してくる若い人間が増えるのでは？
212	40代	男	有	・働く場所の確保、自分の子ども達が東京に行ってしまう。 ・大学などの建設など
213	30代	女	有	職場で育児休業を取りづらいような雰囲気、風潮体質を改善するような政策が欲しい。
238	40代	男	有	郡山市、郡山駅前に何か魅力がありますか？空洞化だらけで行きたいと思いません。安積永盛駅周辺にしても同じです。駅前が変われば郡山全体も変わります。
252	40代	女	有	・子ども手当 18歳まで支給 ・3人以上出産でお祝い金 ・医療費 18歳まで支給の継続
263	40代	男	有	・公共施設、設備の充実、公園ばかりでなくスポーツ施設など ・仕事があること ・学校の充実、学力の偏りをなくす
264	40代	女	有	国、行政等から金銭的、社会的に等支援されている感はありません。周りのママ達も子どもは1人でいいという方が多く、金銭的にも余裕がなくなるからもう産まないとの声。兄弟がいて育った私からすると、少しさみしいですね。
266	40代	女	有	原発問題等もあり、今よりも将来に不安があります。なんとなくもう大丈夫となつていますが、本当に大丈夫なんでしょうか？放射能は事故以前より高いままです。その問題がこれからの郡山に一番のことではないかと思えます。それと、アウトレットやコンサートホール等、魅力的な施設がないと、若者もいなくなってしまうのではないのでしょうか。若者＝未来の親です！
267	30代	女	有	・子どもが遊ぶ所が少ない ・学校の学童が18:30までしかやっていないため、子どもを見る人がいないと仕事が正社員のまま働くことができない。子どもを育てるのにとっても育てにくい。せめて19時までみてほしい。 ・郡山は公園がたくさんあるが、公園の駐車する場所がなく遊ぶことができない。

No.	年齢	性別	配偶者有無	意見内容
268	30代	女	有	<p>・よくテレビでこんなイベントを開催しました。という情報が流れますが、開催前ではなく、開催された後の報告をされても…と思う。こんなイベントを〇〇日に××を対象に開催します。という内容に変えてほしい。</p> <p>・現在30歳で不妊治療をしていますが、金銭的に厳しいです。県内でも大きい市である郡山からの助成金が増えれば現在の仕事を辞めてでも、郡山市へ移住してくる人は増えると思います。それだけ自分たちの子どもを持つということは、一生のうちでもとても大きいことだと思います。他の市町村がやっているからではなく、一歩抜け出したことをしてほしい。</p>
269	40代	女	有	<p>若者の雇用の安定 若者が高齢者を支える社会づくりの実現 地域産業の見直し</p> <p>・農業→企業化推進、農家が経営する 食品加工会社・カフェレストラン 学校給食・病院、福祉事務所給食 一人暮らしの老人へお弁当宅配事業 ・医療・福祉→駅周辺の大病院と連携する。老人介護、福祉施設の建設 転居してくる老人の魅力を感じる街づくり、ショッピングセンター スポーツ、レジャー施設、健康増進企業 ・三世同居の推進、事業、コマーシャル等 昔へ戻ろう、子育てスローライフ計画 丁寧に暮らすことへの生活見直し計画 → それに関する企業の誘致 ロハスetc ・シングルマザー、ファザーのサポート事業→子どもが病気でも預けられる託児所、保育所、学童保育 病院と連携した施設 保育士、看護師、保健師の雇用拡大 ・特殊な大学や学校の誘致→若者を呼び込む (最先端医療、最先端技術職の養成学校) ・元気なお年寄りが若者をサポートする事業＝子育てサポート</p>
271	40代	女	有	<p>①大学の誘致…進学にあたり、選択肢が少なく、子どもは仙台に進む予定。このまま県外での就職になると思う。身近でも多い話。 ②学費支援…県立高校との差がありすぎる。年収で援助の有無が決まるが、他の子どもにも教育費がかかるので負担となる。 ③娯楽施設の不足…目玉となる施設がない。小さい子ども用はカルチャーパーク等があるが、ある程度の年齢になるとないので、家族で出掛けるときは他県になってしまう。TDLとは言わないが、年代に関わらず楽しめる施設があるといい。 すぐには無理でも…毎年恒例となるイベント企画 私は郡山が好きです。とても住みやすい所です(住居税・光熱費、特に水道代が高いですが…)子どもが大きくなり、今後親の介護が出、支出は多くなるのに働けなくなるのではと、不安になります。 少子高齢化に向け、子どもと年金世代への政策が必要だと思います。 ※大きい病院への通院で使用する公共機関は無料 仕事を持っている人にとっては、送り迎えだけでも休日を使ったり変更したり、会社に言いにくいです。 また、我家は女の子二人ですが、将来結婚するだろうと思われるとき、「郡山、福島の子だから」と敬遠されるのではと思っています。放射能検査は受け、結果も送られてきますが、一覧表にして証明書として発行するなどし、結婚、出産を後押ししてもらえるようになるといいと思います。福島全体の話ですが、郡山が先に行い、好事例として全県に普及すれば少子化に対しても効果はあるのではないのでしょうか。すでにあることでしたら申し訳ありません。</p>
274	40代	男	有	<p>子どもが大学進学を目指した場合、どうしても目先が首都圏に集中してしまう。当然、そちらへ進学すればその流れで就職も首都圏となり、人口減少の一因だと思う。つまりは、福島県や郡山市に「魅力のある進学大学」や、それに「見合う企業」などが必要なのではないかと思います。もしくは、Uターンしても就職できる企業があればよいのではないかと思います。</p>
275	10代	女	有	<p>子どもが無料で遊べるペップキッズみたいな所を増やしてほしい。</p>
277	40代	男	有	<p>・大胆な企業誘致 ・新規入居者に対しての〇年間の税金優遇措置 ・既存住民に対しての土地優遇措置(〇年いたらみたいな) ・市でIT農業会社設立(技術販売)</p>
278	30代	男	有	<p>皆が楽しめるお祭りやイベントが郡山には少なすぎます。昨年やったようなB1グランプリなど、もっともっと市民もそれ以外の人も集まるような企画を強く希望します。うぬめ祭り同様、郡山駅前大通りでYOSAKOIソーラン大会 野外ビッグコンサートなど</p>
279	30代	男	有	<p>①道路の整備、交通アクセス渋滞の緩和 ②公園の整備(日和田町内の密集地域など) ③空き店舗の活用 空家の調査 利用もしくは撤去等 ④日和田駅西口開拓</p>

No.	年齢	性別	配偶者有無	意見内容
332	40代	女	有	郡山は、特に不便な思いはしていませんが、楽しい街でもない、という印象です。商業施設の充実やイベント会場等ができるといいかな?と思います。(買い物やコンサートは仙台や新潟に出かけてしまいます。)
333	30代	男	有	郡山市民は市の公共手段、施設を安くしてほしい。入場料を取るところは子どもを連れて行けば無料にしてほしい。
334	40代	女	有	母子家庭、父子家庭への経済的支援が低すぎる。厳しい。一生懸命必死に働いても、生活保護を受けている世帯より貧しい。問42で税引前の総収入を質問されているが、実際生活にかかる費用は税引後の収入。税金が高く、生活は貧しくなるばかり。これで子育てはどんどん厳しくなっている。税引前の収入にばかり目を向けているから、実収が分からず見当違いな支援ばかりが横行する。郡山市職員は、実際の経済状況、生活状況を知ら無すぎる。というか、知ろうとせず、怠慢していると思う。郡山市は他市に比べて税金が高いので、他市に移動する、又は他市から流入がない。これは事業所に関してもいえると思う。母子家庭、父子家庭の税引き後の収入の生活状況、生活保護を受けている家庭のゆとりある生活状況を確認するべきだと思う。子どもが入学した学校によって、支援額を増減するなどの措置を考えた方が良くだろう。それによって子育て世代の選択肢も広がると思う。
336	30代	女	有	民間と役所がお互いに手を組んでお互いの良い所を生かした事業を行ってほしい。NPO法人等の子育て事業をもっと支援したりボランティアの育成等に市も協力する等官民一体での子育て支援政策をお願いしたい。
353	30代	女	有	・郡山市では、一時保育の制度があり、仕事についていなくても少しの時間だけ預けられて、とても助かりました。 ・保育料がもう少し安くなるとありがたいです。
354	40代	男	有	駅前、駅裏に大型公園 ・公園を中心とした町づくり ・公園でのイベント
355	30代	女	有	郡山にもっと魅力的な観光、商業施設を作るべき。郡山といえば…どこに行ってもいいのかわかりません。ビックパレットやカルチャーパークなど中途半端に作るのではなく誰もが楽しめるように作った方が良くと思う。これでは、税金の無駄遣いではないかと思えます。カルチャーパークの所にアウトレット作ってみては…?インターも近いしいいのではと思います。駅前には109的なものを作れば若い人が集まるかも…?
356	40代	女	有	医療費や子ども手当、出産費用の充実など子どもを産んで育てるためにかかる費用の軽減など(何か郡山市独自の目玉プランがあればいいのでは)他の県や市のアイデアを参考にしてみる。(震災で、シングルマザーに手厚い制度があるとかで 三重県に転出した方が2人いました…)
361	30代	男	有	・「より子どもを産み育てやすくなるようなアイデア」について 今が一番いい時だと思います。恵まれていますので、これ以上は良くなりません。日本は人口が減少していますが、世界的に見れば、人口は爆発的に増えています。恵まれない子どもを親が何らかの理由でいない子ども達を日本で面倒見ればいいのです。地球の為にも人間はこれ以上増えない方がいいのです。 ・「郡山市に人を呼び込むためのアイデア」について観光で頑張るのではなく、コンベンションの街「郡山」を前面にだして、コンベンション施設の更なる充実を図り、福島県内での行事ごとは全て郡山で行えるよう、考え方、予算の使い方を方向転換していく。郡山⇔観光施設になれば良いと思う。
362	30代	男	有	・郡山市で開催されたスーパープレゼンテーションみたいな考えを元に郡山市にとどまるだけでなく、海外との繋がりをもっと増やしてもらいたいです。また、起業する人をもっと応援できる体制(助成金、補助金)をもっと整える。 ・TEDふくしまを郡山で開催 ・寺田倉庫が主催するビジネスコンテストみたいなのを郡山でも。 ・何かに特化したモデルを作る。(医療、工学、通信等)

No.	年齢	性別	配偶者有無	意見内容
388	40代	男	有	<p>出生率が低下している理由の一つが教育費が高いからだと思います。18歳未満まではお金がかからないようになれば出生率はもっと上がるのではないかと思います。→(手当を増やすことは止めたほうがいい)</p> <p>学校給食費は滞納等の問題があるので無料にすべき。(税金で賄う)</p> <p>子どもの遊べる施設をもう少し増やすべき(ニコニコ子ども館以外)</p> <p>また、都心への人口流出の対策も考えなければならない。</p> <p>①地元就職した人へインセンティブを与える</p> <p>②魅力ある都市づくり(イベント成人式だけでなく40歳、60歳、80歳のイベントを考えては！)</p> <p>③企業誘致(例・デンソーが郡山市を選ばなかったのを考えてみる必要がある。)</p> <p>④観光(全国に知名度あるお土産の開発)</p> <p>⑤道路(4号線49号線その他、もう一つ幹線道路が欲しい)</p> <p>⑥農家の後継者不足、若い人が農業をやる環境→将来的に農業は会社化にすべき。会社にして土地を集約し効率的農業にする。農業は、儲かるというイメージがあれば若い人もやると思う。</p>
389	30代	女	有	日曜、祝日にしごとをしやすい環境を作ってほしい。

No.	年齢	性別	配偶者有無	意見内容
2	30代	男	有	<ul style="list-style-type: none"> ・食の魅力向上 ・各生活区の特徴の掲示または宣伝 ・転入後のフォロー拡大（転入時にチラシを渡すだけは止めて頂きたい。理由はどうか情報がない。）
11	40代	男	有	子ども医療費助成など中核都市として素晴らしい政策をもっと市内外にPRすると思います。
12	20代	女	有	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人につきいくらかの出産祝い金。 ・大型ショッピングセンターやアウトレットモールの建設。福島県にひとつはあってもよいのでは。作るならアクセスも考えてやはり郡山！
13	40代	女	有	<p>・4月に実家のある郡山へ戻ってまいりました。23年ぶりの郡山の生活です。車を持たない私にとってバス利用しか交通の便がありません。バス料金の高さ、本数、時間(最終)とても不便を感じております。</p> <p>・都心での生活とは別世界ですが、地方の生活に慣れるよう努力をしていますが、なかなかなじめずまた都心に出るか？と考えています。郡山に戻ってきて感じていることは女性をターゲットにしたセミナーがとても少ないと思います。自立や生きがい、企業セミナー・美容セミナーが探してもあまり見つけることができません。先日、仙台で無料のセミナー、全国から850名集まったそうです。福島県でも魅力的なセミナーを開催すれば(都心からの交通の便が良い為)、全国から人も集まりますし、福島の女性をもっと活躍できる場が増えるのではないかと考えています。私が個人的にセミナー講師を呼び、開催したいと思っていますが、個人の集客にはやはり限界があるのかな？と感じています。人気のあるセミナー、作家様など東京・大阪・名古屋でキャンセル待ちという状態です。魅力的なセミナーを見学するため、来月仙台へ行き参加予定です。一人の力では限界があるので、協力いただける方や行政様などの力を借りて郡山の女性のためのセミナーがたくさん開催されることを望んでおります。魅力あるところに必ず人は集まり、そして活性化する。私はそう信じています。</p>
14	40代	男	有	就職できるように協力がほしい。
15	20代	男	有	子育て支援として子ども手当以外にも市から支援があればいい。
19	20代	女	有	市県民税が高い、収入に合っていない。高いなりの見返りがない。
20	20代	女	有	郡山市内に市民プール等公共の施設があるといいです。(増えると)
34	30代	男	有	就業前の子どもを育てている身からすると、小学校によって教育環境に差があることが問題ではないかと思う。高学歴者(語弊はありますが)の定住を推進することで、子どもの水準を底上げし、高学歴者誘致の具体的には、産業集積や大学、研究機関の誘致とそれに伴うインターナショナルスクールの充実ではないだろうか。
36	30代	男	有	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと室内遊び場をつくってほしい。 ・幼稚園や、託児所付きの職場をもっとあった方が女性も動きやすい。
37	20代	男	有	東京に住んでいる友人に話を聞くと、Uターンしたいがなかなか仕事がないということをよく言われる。大卒などにふさわしい雇用を創出することが一番重要ではないだろうか。(選ばなければ色々あるのだから…)
43	20代	女	有	<ul style="list-style-type: none"> ・田舎暮らしの魅力発信 ・外国人との交流の活性化 ・休農地を都会の人へ貸し出す。 ・廃屋の利活用等 ・市民がまず郡山の魅力を知ることが大事。

No.	年齢	性別	配偶者有無	意見内容
2	20代	女	有	子どものオムツ替えのできる所を増やしてほしい。
6	30代	男	有	子どもの人数に関わらず出生祝を何らかの形でもらえるとうれしい。
7	20代	女	有	郡山市は「市」だからか、全てが高い。 通勤に、車が多いのに、道路は常に渋滞。もう少し道路使用が便利になればいい。(特にさくら通りからの駅前付近。)が、住み続けた街なだけあって愛着はある。
8	20代	女	有	・働き口がもっとあれば、就職で県外へ出て行ってしまう人も減ると思います。 ・原発を機に下がってしまったイメージダウンを回復するためにも、大規模なまちおこしをするべき。
10	40代	男	無	市内に子ども達や若者が集まれる施設が欲しい。東京ドーム球場や、埼玉アリーナサッカー場のようなもの。魅力あるものがないと人を集めることはできない。若者が住みたくなるまちづくりをお願いします。
12	40代	男	無	・郡山市は大変住みやすい街でした。お世話になりありがとうございました。 ・文化水準が高いこと、地域に根ざした産業が定着していること、そこに暮らす人々がゆとりを持って穏やかに暮らせることが、人々を呼び込むためには何よりも必要だと考えます。 ・目先のことにとらわれることなく、地に足を着けた戦略を打ち出されることを期待します。 ・震災以降、職員の皆様のご苦勞はお察し致しますが、頑張ってください。
13	20代	男	有	・バスの交通量を増やしてほしい ・郡山駅前のシャッター街をもっとにぎやかにしてほしい。
14	30代	男	有	・街コンの開催
15	30代	男	有	・この規模の都市としては道路(主要)が貧弱 ・駅東口にあれだけ大きな工場が未だに立地しつづけ商業地区を圧迫しているのは驚き。 ・古い建物が多。いので暗く感じる。 ・市の中心部の不動産価格を下げて、若い人を集め、物件の流通を活発にしコンパクトで活力あるまち。
16	40代	男	無	・県外からの企業誘致は良いが地元採用(正社員又は正職員)が極端に少ない。 ・老後自動車運転免許返還が出来るよう、公共交通機関の発展が必要。
24	20代	女	有	池ノ台に住んでおりました。夫の転勤により短期での転居となりましたが、池ノ台に住んでいる際は、放射線量が高い、子どもは外であまり遊ばない方が多い等、噂を多く聞きました。実際は数値化されたりしていたのであまり気にしていませんでしたが、噂が独り歩きしないよう、県外も含め正しい情報をアピールする機会が増えた方がいいと思いました。
25	40代	女	有	・税金等、公共料金などが、もう少し安くなればよいと思います。 ・少子化問題は、不妊治療から保険を使えるとか、助成金を出すとか、子どもを作る時から、みてほしいです。
26	20代	男	有	・企業の工場ではなく、本社誘致。 ・空港国内線の充実。
27	30代	女	有	・出産費用の援助 ・父親の育休取得工場キャンペーン など 以前、福島市に住んでましたが、郡山市は住みやすいと思います。これからも、郡山市のさらなる発展の為に、頑張ってください。
28	30代	女	有	保育所だけ増やしても、働く親はなかなか大変です。菊池医院さんの「らびっと」のような病後保育や、企業風土の変化なしには2人、3人の子を育て就業することは困難です。 また、小学生が下校した後の学童保育の整備も不可欠かと思ひます。

No.	年齢	性別	配偶者有無	意見内容
29	30代	女	有	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの遊び場が少ない。→原発を考慮したのびのびと楽しめる施設 ・レジャー施設がない。→郡山というカルチャーパーク…県外の人へのインパクトある施設 ・アパートの賃貸が高い。→収入が少ないのに割高に思う。県外に比べて。 ・保育所などの充実。→保育所自体が少ない。預ける時間の延長 ・子どもにかかるお金すべての援助。 ・核家族が、休日どこで過ごそうか？でかけるなら…買物は那須？仙台？と県外へ、公園も場所を選ばなきゃと。仕事頑張っても給料が低く、出支が高いところにはいられなくなってくると思う。私は出た理由が違いますが、周りからよく聞く意見です。より良い環境になることを願っています。
39	30代	女	有	企業誘致をもっと積極的に行ってほしい
42	20代	女	有	<p>キャリアを目指して東京へ就職しましたが、郡山大好きです。郡山はとても住みやすいと思います。変わらないでほしいと思います。子育てもしやすいと思います。私の母はシングルで5人育ててます。最近兄夫婦(郡山在住)を見ていると、共働きするためには知り合いや家族が近くに住んでいて、助け合えるという環境がとても大事だと思います。</p> <p>加えて、コンパクトシティ化等、視野に入れてコミュニティ形成を強化するのもよいかと思っています。</p>
45	30代	男	有	車が無ければ不便であり、子どもの送り迎えが必要な交通の便は再考すべき。
46	20代	男	有	開成山陸上競技場の整備(公式大会ができるように)
47	20代	女	有	郡山駅前の活性化と治安維持。
50	40代	女	無	<p>他県と比較し、給与が大変低いことに驚きました。(税金の高さ→これは本当にみんなが気にしています！)</p> <p>やはり被災した県であることをプラスに思える国からのサービスや県内市内のサービスがあれば、大変魅力的な市になると思います。そこにメリットをつくっていただきたい。ぜひともお願いします。市の税金が高く、もっと福祉面をお願いします。住宅税など、支払えなくて困っている方々もいると聞いております。もっと、生活が苦しい人にやさしい街づくりをしてほしい！郡山発など、国が注目するエネルギーや産業ロボットなど期待しております！→他県が郡山に注目しています</p>
52	40代	女	有	<p>住まいの郡山市池ノ台に汚染された土があるので、これがいつ中間貯蔵施設に輸送されるか気になるところです。</p> <p>今後は住む場所を考え中。</p>
58	20代	女	有	駅前の商業施設の充実
59	30代	女	有	<ul style="list-style-type: none"> ・郡山市のお祭りが東北6県の中でも引けをとらないよう、新しいお祭りを考えてほしい。100年も200年も続くような…(箭内さんとか、著名人の力を借りてとか…)本気になれるお祭りを！ ・土地が広い郡山の見よくを生かしてロックフェスを行う。(Rock in Japanとか、全国各地から人を集めるような…) ・文化センターへの交通機関の改善、場所を移すのかも検討を ・社会教育施設の利用がしづらい。働いていると尚更なので、土日などに利用したり、遅い時間に講座を設けるなどしてほしい。ぜひ実現を！よろしくお願いします。
61	40代	女	有	猫と一緒に暮らせる物件を探しています。郡山は若干ありますが、その他の地域はなかなか見つかりません。格安の中古一軒家などがあるといいなと思います。
62	30代	女	有	<ul style="list-style-type: none"> ・認可保育所の充実 ・保育時間の延長
63	20代	女	有	友人・知人から「郡山って何が有名なの？」と聞かれることが多いが、私自身特にコレ！といったものが浮かばない。一方で、郡山に来たことのある人からは「結構おしゃれなカフェ多いよね。」と言われる。東京の清澄白河のように、派手な街ではなくてもカフェで集客ができるような都市であれば若年女性の興味が向くのではないかと思う。
64	40代	男	無	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな歴史はあるものの、史実的に難しいものが多い。よって発想を転換し、戦後成長した新しい都市をアピールした方が郡山らしいと思っています。うねめ祭りをみる度難しさを感じます。 ・祭りは秋の安積国造があるのでそちらに力をおいてもよいのでは。

No.	年齢	性別	配偶者有無	意見内容
65	30代	男	有	<ul style="list-style-type: none">魅力的な郡山市が本社の会社ができる。イベントを多く開催するとかではなく、郡山で活躍する魅力的な人が地元に着きつける。郡山市は人もやさしく温かく、都会的な街だと思います。安積疎水を起こした開拓者精神を持っているので、今後ますます発展して魅力的な街になっていくことだと思います。期待しています！
66	30代	男	有	長文につき、別紙添付